高松市埋蔵文化財調査報告　第132集

新設統合第二小学校建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

二 番 丁 小 学 校 遺 跡

2011年3月

高松市教育委員会

新設統合第二小学校建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　二番丁小学校遺跡

二〇一一年三月

高松市教育委員会

例　　言

1　本書は，新設統合第二小学校建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書で，二番丁小学校遺跡にかかる埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2　本報告書の執筆は，遺構に関わる整理および執筆は渡邊誠が，遺物の整理および執筆は船築紀子が行い，編集は渡邊が行った。

3　発掘調査から整理作業，報告書執筆を実施するにあたって，下記の関係諸機関ならびに方々から御教示および御協力を得た。記して厚く謝意を表すものである（五十音順，敬称略）。
香川県埋蔵文化財センター，乗松真也

4　本報告の高度値は海抜高を表し，方位は座標北を示す。

5　出土遺物の実測図は，土器は１／３，１／４，１／６，石器および金属器は１／２，１／４，遺構の縮尺については図面ごとに示している。

6　発掘調査で得られたすべての資料は，高松市教育委員会で保管している。

目　　次

第Ⅰ章　調査の経緯と経過 …… 1
第Ⅱ章　地理的・歴史的環境 …… 2
第Ⅲ章　調査成果 …… 7
第Ⅳ章　まとめ …… 57
遺物観察表 …… 61

挿　図　目　次

第１図　二番丁小学校遺跡調査区配置図 …… 1
第２図　高松市および市域における位置図 …… 2
第３図　高松城跡周辺遺跡分布図 …… 3
第４図　Ａ区第１遺構面遺構配置図 …… 8
第５図　Ａ区土層断面図 …… 9
第６図　Ａ区建物遺構関連遺構 …… 10
第７図　Ａ区土坑平・断面図① …… 11
第８図　Ａ区出土遺物① …… 12
第９図　Ａ区出土遺物② …… 13
第 10 図 Ａ区出土遺物③ …… 14
第 11 図 Ａ区出土遺物④ …… 15
第 12 図 Ａ区土坑平断面図② …… 17
第 13 図 Ａ区出土遺物⑤ …… 18
第 14 図 Ａ区出土遺物⑥ …… 19
第 15 図 Ａ区出土遺物⑦ …… 20
第 16 図 Ａ区出土遺物⑧ …… 21
第 17 図 Ａ区土坑平・断面図③ …… 22
第 18 図 Ａ区出土遺物⑨ …… 23
第 19 図 Ａ区出土遺物⑩ …… 24
第 20 図 Ａ区出土遺物⑪ …… 25
第 21 図 Ａ区出土遺物⑫ …… 26
第 22 図 Ａ区区画施設・溝　平・断面図 …… 27
第 23 図 Ａ区ピット平・断面図 …… 28
第 24 図 Ａ区出土遺物⑬ …… 29
第 25 図 Ａ区出土遺物⑭ …… 30
第 26 図 Ａ区第２遺構面遺構配置図 …… 33
第 27 図 Ａ区第２遺構面土坑およびピット
平・断面図 …… 35
第 28 図 Ａ区第２遺構面土坑・ピット出土遺物 …… 35
第 29 図 Ｂ区遺構配置図および土層断面図 …… 35
第 30 図 Ｂ区柵状遺構平・断面図 …… 36
第 31 図 Ｂ区土坑・ピット平・断面図 …… 37
第 32 図 Ｂ区溝平・断面図 …… 38
第 33 図 Ｂ区出土遺物① …… 39
第 34 図 Ｂ区出土遺物② …… 40
第 35 図 Ｂ区出土遺物③ …… 41
第 36 図 Ｂ区出土遺物④ …… 42
第 37 図 Ｂ区出土遺物⑤ …… 43
第 38 図 Ｂ区出土遺物⑥ …… 44
第 39 図 Ｂ区出土遺物⑦ …… 45
第 40 図 Ｂ区出土遺物⑧ …… 46
第 41 図 Ｃ区遺構配置図・土層断面図 …… 47
第 42 図 Ｃ区土坑平・断面図 …… 48
第 43 図 Ｃ区出土遺物① …… 49
第 44 図 Ｃ区出土遺物② …… 50
第 45 図 Ｃ区出土遺物③ …… 51
第 46 図 Ｃ区出土遺物④ …… 52
第 47 図 Ｃ区土坑・ピット平・断面図 …… 53
第 48 図 Ｃ区出土遺物⑤ …… 54
第 49 図 Ｃ区出土遺物⑥ …… 55
第 50 図 遺構配置図 …… 57
第 51 図 享保年間高松城下図 …… 58
第 52 図 享保年間高松城下図の調査地周辺の状況 …… 58

挿　表　目　次

第１表　高松城周辺の調査履歴 …… 4
第２表　遺物観察表 …… 61

図版１－１　Ａ区第１遺構面全景
図版１－２　Ａ区と新校舎および旧校舎
図版１－３　Ｃ区と旧校舎
図版２－１　Ａ区第２遺構面東側全景
図版２－２　Ａ区第２遺構面西側全景
図版２－３　Ｂ区柱穴列検出状況
図版２－４　Ｂ区柱列完掘状況
図版３－１　Ａ区南東隅土坑完掘状況
図版３－２　Ａ区東側土坑完掘状況
図版３－３　Ａ区西側柱列群
図版３－４　Ａ区南側柱列群
図版４－１　Ａ区北壁土層①
図版４－２　Ａ区北壁土層②
図版４－３　Ａ区南東壁土層
図版４－４　Ａ区西壁土層
図版５－１　ASX200 周辺①
図版５－２　ASX200 周辺②
図版５－３　Ａ区東側柱穴群
図版５－４　ASD215
図版６－１　BSK102・103 土層
図版６－２　BSD105 土層
図版６－３　BSK102・103
図版６－４　BSK102・103 周辺
図版７－１　Ｂ区全景
図版７－２　Ｃ区掘削状況
図版７－３　Ｃ区全景①
図版７－４　Ｃ区全景②
図版８－１　ASK025 半裁状況
図版８－２　ASK040 半裁状況
図版８－３　ASK045
図版８－４　ASK045 半裁状況
図版８－５　ASK050
図版８－６　ASK055・060 半裁状況
図版８－７　ASK070
図版８－８　ASK080 半裁状況
図版９－１　ASK085 半裁状況
図版９－２　ASK090
図版９－３　ASK105
図版９－４　ASK105 半裁状況
図版９－５　ASK110・115 半裁状況
図版９－６　ASK120 半裁状況
図版９－７　ASK140
図版９－８　ASK140 半裁状況
図版 10－１　ASK145 半裁状況
図版 10－２　ASK150 半裁状況
図版 10－３　ASK155
図版 10－４　ASK160・170・175・225
図版 10－５　ASK160 半裁状況
図版 10－６　ASK170 半裁状況
図版 10－７　ASK175 半裁状況
図版 10－８　ASK185
図版 11－１　ASK185 半裁状況
図版 11－２　ASK205 半裁状況
図版 11－３　ASX200 ①土層
図版 11－４　ASX200 ②土層
図版 11－５　ASK065
図版 11－６　ASP002 半裁状況
図版 11－７　ASP051 半裁状況
図版 12－１　ASP039
図版 12－２　ASP041・042 半裁状況
図版 12－３　ASP043 半裁状況
図版 12－４　ASP318 検出状況
図版 12－５　ASP318 半裁状況
図版 12－６　ASP318 完掘状況
図版 12－７　ASP318 曲物，土器出土状況
図版 12－８　BSP113
図版 13－１　BSP114
図版 13－２　CSK209
図版 13－３　CSK210・218 周辺
図版 13－４　CSK209 土層
図版 13－５　CSK210・218
図版 13－６　CSK217
図版 13－７　CSK226
図版 13－８　CSK225
図版 14－１　Ａ区 SK045
図版 14－２　Ａ区 SK040
図版 14－３　Ａ区 SK140
図版 14－４　Ａ区 SK105
図版 15－１　Ａ区 SK90・95
図版 15－２　Ａ区 SK100

図版 15－3　A 区 SK90・95，SK125
図版 15－4　A 区 SK185
図版 16－1　B 区 SK103
図版 16－2　B 区 SK102
図版 16－3　C 区 SK217
図版 17－1　A 区 SK025
図版 17－2　A 区 SK125・130・135 一段下げ
図版 17－3　A 区 SK140
図版 17－4　C 区 SK219
図版 17－5　A 区 SK170
図版 17－6　C 区 SK225
図版 17－7　A 区 SK90・95
図版 17－8　C 区 SK217
図版 18－1　A 区 SK170
図版 18－2　B 区 SK102・103
図版 18－3　A 区 SK225
図版 18－4　B 区 SK102・103
図版 18－5　A 区 SK155
図版 18－6　B 区遺構検出時
図版 18－7　B 区 SK102・103
図版 18－8　B 区西側段下げ時
図版 18－9　A 区 SK045
図版 19－1　A 区 SP318
図版 19－2　A 区 SK030
図版 19－3　A 区 SK215・130・135
図版 19－4　A 区 SK100
図版 19－5　A 区 SK102
図版 19－6　A 区 SK205
図版 19－7　C 区 SK217
図版 20－1　A 区瓦
図版 20－2　C 区瓦
図版 20－3　B 区瓦
図版 21－1　A 区玩具（動物）
図版 21－2　A 区玩具（人形）
図版 22－1　B 区玩具
図版 22－2　C 区玩具
図版 23－1　青銅製品
図版 23－2　鉄製釘
図版 23－3　鉄製品，針金
図版 23－4　骨角器
図版 24－1　A 区玩具
図版 24－2　石製品
図版 24－3　土製品

第Ⅰ章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯と経過

二番丁小学校跡地での新設統合第二小学校建設（当時の仮称，後に新番丁小学校となる）にあたり，平成19年度に事前協議を本市教育委員会教育部総務課と行い，同年８月６・７・29日に試掘調査を実施した。試掘調査地は周辺の地形等の復元によって東西にのびる砂堆が広がっていることが想定されており，近世以前にも集落等の遺跡が存在する可能性が指摘されていた。

建設予定地で計６箇所のトレンチ掘削を実施し，遺構の有無の把握を行った。その結果，地表から約1.2m前後の深さで中世～近世前半の遺物を包含する遺構を確認した。これらの遺構は予定地の北側に偏在しており，地形復元からも北側が微高地状に南側より高くなっており，南側は低地となっていることが明らかとなった。これは，予定地南側が地形復元によって旧河道と推定されていたことを裏付ける結果となった。

試掘調査の結果から，建設予定地北側を埋蔵文化財包蔵地と判断し，二番丁小学校遺跡と命名した。平成21年２月10日付けで香川県教育委員会宛に高松市長より埋蔵文化財発掘の通知が本市教育委員会に提出され，２月24日付けで香川県教育委員会から発掘調査が必要との通知があり，発掘調査を実施することとなった。発掘調査予定地は，屋内運動場が建設される範囲で，かつ校舎が建っていない箇所においてのみ発掘調査を実施することとなった。調査に関わる掘削等は，新設統合第二小学校（仮称）建設に伴う埋蔵文化財発掘調査用工事委託として株式会社合田工務店に業務を委託し実施した。なお，調査面積・期間等については，下記のとおりである。

対象面積　467㎡
調査主体　高松市教育委員会　教育部文化財課
担 当 者　文化財調査係渡邊誠，高上拓，中西克也
調査原因　統合第二小学校（仮称）建設
　　（屋内運動場建設予定地）
調査期間　平成21年５月１日～６月30日

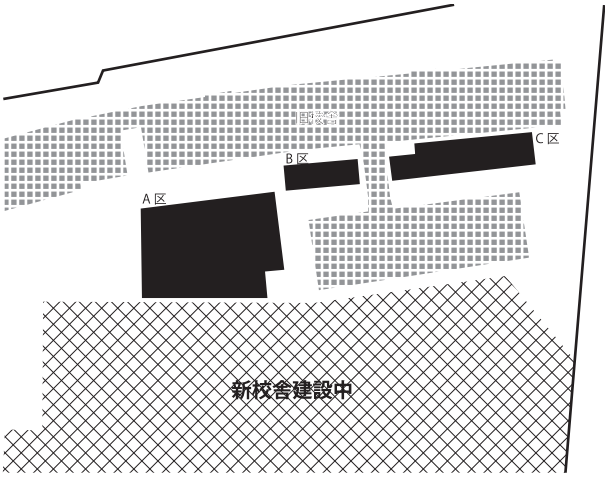
発掘調査は第１図のようにＡ～Ｃ区に分けて校庭等の使用状況からＢ・Ｃ⇒Ａ区の順序で実施し，Ｂ・Ｃ区が５月９日～22日，Ａ区が５月28日～６月22日で調査を実施した。なお，B･C区については既存の配管（ガス，電気，水道）によって大きく規制を受けたため，当初計画より調査範囲が限定された。なお，旧校舎の範囲については，立会を行ったが基礎によって遺構面は既に破壊されており，調査には至らなかった。詳細な調査成果については後述するが，近世（江戸時代後半期を中心とする）の武家屋敷を確認し，さらに下層に中世以前の遺構面を確認した。

調査後，屋内運動場が建設され，平成22年度４月に旧二番丁，旧四番丁，旧日新小学校区の生徒が通う新番丁小学校として開校した。

第２節　整理作業の経過

整理作業については，平成22年度に実施した。具体的には出土遺物の洗浄・接合を実施し，分類作業および選別作業を行った後，遺構図面の整理，出土遺物の実測および拓本作業，製図を行い，最終段階に執筆および編集作業を実施した。

なお，出土した金属製品および木製品の保存処理を第一合成株式会社に業務委託し，平成22年５月～11月に実施した。



第１図　二番丁小学校遺跡調査区配置図

第Ⅱ章　地理的・歴史的環境

当遺跡の地理的および歴史的環境については，既に多くの報告書によって整理されており，特に高松城跡周辺の状況については大嶋 2009 に詳しくまとめられている。ここでは重複をなるべくさけ，当遺跡に関わる部分について抽出し，整理しておくこととしたい。

第１節　地理的環境

当遺跡の所在する高松城跡周辺の現在の地形環境は，近世城下町や周辺の陸地造成（干拓）によって整えられたが，より本源的には高松平野を流れる諸河川と，潮流による海浜地形の形成を出発点としている。大部分が讃岐山脈に源をもつ香東川が運ぶ土砂の堆積によって形成されたと考えられており，これまでの発掘調査や微地形分析により分ヶ池，下池，長池，大池を結ぶ流路等，数本の主流路が確認されている。これらのうち東方の流路は弥生時代後期から古代にかけて埋没したのに対し，石清尾山塊の東側の流路は近世初頭（寛永期）まで主要な流路群として存在した。現在，高松平野中央部に所在する石清尾山塊の西側を流れる香東川の流路は，近世初頭に分流していた流路を一本化したものである。なお，石清尾山塊東側の旧流路は，石清尾山麓を巡って西浜に至る流路群（現在の摺鉢谷川に並行）と石清尾山南麓から上福岡に至る流路群（現在の御坊川に並行）に細別でき，高松城跡周辺は，この２本の流路群に挟まれた地域である。

また，著名な『南海通記』巻廿の記述によれば，高松城跡周辺は西側と東側に海が湾入しており，その間の砂州（陸地）が海に向かって突き出す様子が，あたかも一筋の矢のようであり，そのため「篦原」郷と称され，郷内には「西浜」「東浜」という漁村があったと記載されている。このような記述に加え，高松城跡周辺の微地形については，松本和彦氏（2007，2009）によって発掘調査および現地形観察，絵図等の検討等により復元も行われている。それによれば，基本地形は二つの旧河道，旧香東川支流と現摺鉢谷川に画された巨大な中洲と海側にあった複数の砂堆である。中洲は高松城本丸周辺がやや半島状に突き出る格好となる。近世城下の大手筋とほぼ一致する旧河道分岐点から高松城本丸にかけては周辺より高く，発掘調査でも弥生土器や須恵器などが多数認められており，周辺に集落の存在をうかがわせる。そのため，弥生時代後期後半頃には微高地状を呈した比較的安定した土地であった可能性が高く，それ以降の遺物も確認されていることから，以後も安定した地盤で，集落の展開の可能性を想像させる（佐藤 2003，小川 2004，2008，渡邊 2009 等）。

第２図　高松市および市域における位置図

二番丁小学校遺跡が所在する高松城跡西側は中世前半は，複数の砂堆が湾内に存在していた範囲にあたり，当遺跡はそのうち最も大きく東西にのびる砂堆上に位置する。砂堆のほとんどは現在の JR 軌道とほぼ同位置・同方向に形成されている。この砂堆は，近世以降の海浜部における微高地の地盤となるものと考えられる。

13 世紀後半以降，両旧河川の堆積作用による湾内の埋積が急速に進行し，旧河道は次第に埋没し，一部は湿地化したものと考えられる。その後も徐々に埋積が進行し，近世の城下町が展開する地盤が形成されたと考えられる。現に，当遺跡の西側および南西部（現香川大学周辺から以西にかけて）は現摺鉢谷川の河口に位置し，その堆積作用によって形成された範囲に当たる。この範囲はもともと低地であったためか，江戸時代を通じて田畑や墓地が展開し，居住地としての土地利用はほとんどなされていない。

以上のように，河川の堆積作用によって形成された中洲と砂堆が徐々に拡張し，結合しながら近世の高松城およびその城下町，そして市街地が形成されたと考えられる。

第３図　高松城跡周辺遺跡分布図

第２節　歴史的環境

高松城跡周辺では近年多くの発掘調査が実施され，江戸時代の城下町のみならず，中世の港町の景観やそれ以前の集落の様相などが次第に明らかにされつつある。それらの成果について第１表に整理しておく。なお，本書ではこれまで調査箇所で呼称していた遺跡名を高松城跡●次調査として呼称する。その調査次数は高松市刊行の『高松城史料調査報告書』掲載の一覧表にその後の調査を加えて整理している。第１表のように，高松城跡周辺では，これまで，高松城を中心にここ 16 年間で多数の発掘調査が実施され，中近世を中心とした調査成果が蓄積されている。

中世以前については，弥生時代終末期以前の遺物が比較的まとまって認められるものの，古代に遡る遺構はほとんど認められず，遺構が検出された事例は松平大膳家上屋敷跡における調査のみである。しかし，内堀より外側での発掘調査はほとんど実施されておらず，大手筋付近に弥生時代終末期以降の遺跡が展開している可能性は十分考えられる。そのほか文献史料に基づきながら当遺跡周辺の状況をみるならば，先の『南海通記』巻廿の記述から「篦原」郷が後の高松城下に相当することがうかがえるが，「篦原」という郷名は『和名抄』や中世文書にはみえず，『南海通記』も他の巻では「野原」郷と呼称している。したがって，地域の呼称としては「野原」郷が一般的であったと考えられる。野原郷では，応徳３年（1086），白河天皇の退位に伴い，郷内の勅旨田が立券されて野原庄が成立し，後に妙法院門跡領となっている。その庄域は康治２年（1143）の太政官牒案（『安楽寿院古文書』）によると，東西南北ともに条里坪付けで記されており，東・西・北は野原郷内で，南は坂田郷に及ぶことが分かる。なお，『昭慶門院御領目録案』（嘉元４年：1306）には，野原郷が知行地としてみえるため，郷内全体が立庄されたのではないことが分かる。

そのため，『和名抄』等に見られる香川郡 12 郷の一つである笑原郷の実態を解明する調査が今後期待されるところであり，当遺跡周辺についても同様な状況である。

近年，発掘調査による港湾施設の状況，文献の『兵庫北関入船納帳』などの港湾に関わる記述や，寺社に関わる記述などの総合的な検討から，高松城が築城される地形環境や経済基盤が解明されつつあり，早くから港町として開けていたことが前提となりつつある。

当遺跡周辺のこれまでの発掘調査では港湾施設以外にも 11 世紀後半以降の遺構が検出されている。浜ノ町遺跡では白磁四耳壺を埋納していた 13 世紀末～ 15 世紀末の集落が検出されている（乗松 2004）。これに加え，近

第１表　高松城周辺の調査履歴（No は第１図と対応）

No	遺跡名	次数	調査地区名	調査期間	調査面積	調査原因	文献
A	**二番丁小学校遺跡**			2009.5.1～2009.6.30	467㎡	**新設統合第二小学校建設**	**本　書**
1	高松城跡	1	東ノ丸跡	1985.4.15～1986.5.31	6,047㎡	県民ホール建設	渡部1987
2	高松城跡	2	水手御門	1990.5.14～1990.6.5	2,000㎡	公園整備	山元1991
3	高松城跡	3	県民小ホール地区	1995.2.7～1995.3.31	1,000㎡	県民小ホール建設	森下1995
4	高松城跡	4	県立歴史博物館地区	1995.4.1～1996.3.31	5,000㎡	県立歴史博物館建設	北山1999
5	高松城跡	5	西の丸町地区Ⅱ	1995.12.1～1997.3.31	4,539㎡	サンポート高松総合整備事業	佐藤2003a
6	高松城跡	6	西の丸町地区Ⅲ	1997.6.1～2000.12.31	10,052㎡	サンポート高松総合整備事業	松本2003b
7	高松城跡	7	作事丸	1997.11.20～1997.12.25	300㎡	事務所建設	大嶋1999b
8	高松城跡	8	西内町	1997.7.10	47㎡	PTA会館建設	大嶋1999a
9	高松城跡	9	地久櫓	1997.12.3	4㎡	史跡整備	大嶋1999a
10	高松城跡	10	高松北署地区	1998.4.1～1998.6.30	900㎡	高松北警察署建設	山元1999
11	高松城跡	11	内町	1998.4.16	65㎡	店舗建設	大嶋1999a
12	高松城跡	12	三の丸	1998.7.8～1998.8.11	14㎡	史跡整備	大嶋1999a
13	高松城跡	13	西の丸町地区Ⅰ	1999.4.1～2000.12.22	390㎡	サンポート高松総合整備事業	古野2001
14	高松城跡	14	地久櫓台	1999.10.25～2004.3.23	170㎡	史跡整備	2004a
15	高松城跡	15	丸の内地区	2001.4.1～2001.9.30	488㎡	家庭裁判所建設	松本2003a
16	高松城跡	16	松平大膳家中屋敷跡	2002.2.1～2002.3.25	99㎡	弁護士会館建設	大嶋2002
17	高松城跡	17	松平大膳家上屋敷跡	2002.4.15～2002.9.1	970㎡	ビル建設	小川2004
18	高松城跡	18	三の丸，竜櫓台北側	2002.10.7～2002.10.10	8㎡	公園整備	川畑2003b
19	高松城跡	19	西の丸町Ｄ地区	2002.10.10～2002.10.30	131㎡	サンポート高松総合整備事業	佐藤2003b
20	高松城跡	20	丸の内	2002.11.28～2002.11.29	10㎡	ビル建設	川畑2003c
21	高松城跡	21	寿町一丁目（無量壽院跡）	2002.11.28～2003.3.14	490㎡	都市計画道路高松駅南線建設	中西2005・2007
22	高松城跡	22	中堀，北浜町	2003.5.13	14㎡	共同住宅建設	川畑2004b
23	高松城跡	23	丸の内，都市計画道路高松海岸線街路事業	2003.6.11	23㎡	都市計画道路高松海岸線建設	川畑2004c
24	高松城跡	24	丸の内，再生水管布設工事	2003.8.18～2003.9.22	296㎡	再生水管布設	川畑2004f
25	高松城跡	25	丸の内，個人住宅建設	2003.8.25～2003.8.26	22㎡	個人住宅建設	川畑2004d
26	高松城跡	26	二の丸，玉藻公園西門料金所整備工事	2003.8.26～2003.9.4	10㎡	公園整備	川畑2004e
27	高松城跡	27	外堀，西内町，共同住宅建設	2003.10.8～2003.10.9	30㎡	共同住宅建設	大嶋2004
28	高松城跡	28	丸の内，共同住宅	2003.11.12～2003.11.19	50㎡	共同住宅建設	山元2004
29	高松城跡	29	東町奉行所跡	2003.12.8～2004.3.15	511㎡	共同住宅建設	小川2005
30	高松城跡	30	西の丸町	2004.7.13～2004.7.19	6㎡	ビル建設	川畑2005a
31	高松城跡	31	丸の内	2004.7.21	19㎡	ビル建設	川畑2005c
32	高松城跡	32	丸の内	2004.11.9	48㎡	個人住宅建設	川畑2005d
33	高松城跡	33	鉄門	2005.1.24～2005.8.19	62㎡	史跡整備	大嶋2007a
34	高松城跡	34	厩跡	2005.2.21～2005.5.12	511㎡	立体駐車場建設	小川2006
35	高松城跡	35	外堀，兵庫町	2005.5.11～2005.5.12	320㎡	ビル建設	大嶋2006
36	高松城跡	36	寿町二丁目地区	2006.1.12～2006.3.28	550㎡	ビル建設	小川2006
37	高松城跡	37	天守台	2006.11.1～2008.3.31	1,530㎡	史跡整備	報告書未刊
38	高松城跡	38	江戸長屋跡Ⅰ	2007.6.18～2007.7.31	84㎡	都市計画道路高松海岸線建設	小川2008
39	高松城跡	39	江戸長屋跡Ⅱ	2008.4.1～2008.4.28	70㎡	都市計画道路高松海岸線建設	渡邊2009
40	高松城跡	40	丸の内	2008.11.19	4㎡	共同住宅建設（試掘）	渡邊2009
41	高松城跡	41	丸の内	2009.3.2～3,19	45㎡	共同住宅建設	渡邊2010
42	高松城跡	42	城内中学校	2009.4.9~2009.7.13	230㎡	シールド掘進機発進立坑掘削	報告書未刊
43	高松城跡	43	中堀南岸石垣	2009.10.16	3㎡	石積復旧工事	大嶋2010
44	高松城跡	44	本町	2010.2.16	32㎡	事務所建設	小川2011
45	浜ノ町遺跡		－	2000.2.15～2002.3.31	4,992㎡	サンポート高松総合整備事業	乗松2004
46	片原町遺跡		－	2000.6.15～2005.6.22	120㎡	ビル建設	小川2002
47	紺屋町遺跡		－	1985.1.16～1986.1.7	200㎡	市立美術館建設	末光2003
48	生駒親正夫妻墓所		－	-	-	–	-
49	扇町一丁目遺跡		－	2005.10.26～2005.11.10	88㎡	都市計画道路	川畑2006
50	亀井戸跡			2010.3.16～2010.4.2	60㎡	丸亀町G街区再開発	高上2011
			－	2010.7.26~2010.9.30	890㎡		報告書未刊
51	大井戸		－	-	-	–	-
52	雑賀城跡		－	-	-	–	-

＊ 高松城跡は立会調査および試掘調査も記載

隣の愛宕神社や若一王子神社の創建のいわれによれば，13 世紀後半に社殿があったと考えられ，中世以降の土地利用のあり方や周辺の社会環境を想定できる資料が徐々に増加しつつあり，当遺跡の調査もその状況をより鮮明にすることが一つの課題でもあった。

以上の点から，中世の高松城周辺は多くの寺院や多くの小領主を抱えることができるだけの経済的基盤を有した港町「野原」と考えられ，地域の中心機能を果たしていた可能性は高い。

近世の城内の状況については，これまで発掘調査や絵図等の研究により，多くのことが明らかとなっている。ここでは，森下友子氏（1996）の整理を踏まえながら，当遺跡周辺の江戸時代における歴史的変遷の状況を整理しておきたい。17 世紀前半の『生駒時代讃岐高松城屋敷

割図』によれば，当遺跡周辺は侍屋敷が広がり，西側は塩焼浜と書かれているように，この段階では浜が広がっていたようで，城下町の西端は見性寺付近である。

絵図等によれば，17 世紀中頃には当遺跡周辺は武家屋敷として土地利用が開始されていることが明らかである。また，見性寺や弘憲寺，蓮華寺の存在がうかがえる。これらのことから，生駒家による城下町の西側の整備範囲がおおよそ当遺跡付近までであったことが分かる。その後，大手筋周辺の町人街の変遷からも明らかなように，藩主の生駒家から松平家への移行に伴い，高松城下も大きく変化することとなる。18 世紀代の絵図によれば，城下町の状況も変化し，大手筋以外にも町屋が展開し，当遺跡周辺にも西通町，鉄砲町，高嶋町，木蔵町などが形成され，その筋の南北に武家屋敷が展開している様子が描かれており，これ以後，当遺跡の所在地も含め，各武家屋敷に居住していた武士の変遷を追うことができる。また，先の寺院に加え，吉祥寺，泉立寺，日妙寺，常福寺，真行寺，王子権現，愛宕神社などの寺社が増えている様子が見て取れる[註1)]。当遺跡周辺の城下町の基本的な区割りや寺社はこの頃に築かれ，江戸時代を通じて大きな変化は認められない。そのため，先にも述べたように初代藩主松平頼重によって城下町の整備が進めれ，第２代藩主頼常にかけて（17 世紀後半～ 18 世紀初頭）高松の城下町の基本的構造が出来上がったものと考えられる。しかし，当遺跡周辺では，近代以降の都市整備等によって大きく街区が変貌し，特に当遺跡所在地およびそれ以南の地域では絵図に認められるような街区が認められない場合が多い（森下 1996）。

先にも述べたように，明治期以降，当遺跡の所在地は近代化に伴う新たな街区の形成の中で大きく変化する。遺跡名の二番丁小学校もその歴史の中でこの地につくられ，最近まで教育の場としての役割を果たしてきた。最後にその小学校の歴史について整理しておきたい。

明治５年の文部省の学制の改正により，小学校の設立が掲げられ，浜ノ町弘憲寺に第３小学が開校した。明治６年には西浜小学校（西浜町常福寺），糸浜小学校（浜ノ町弘憲寺），大浜小学校（浜ノ町泉立寺）となり，明治７年には県の補助が取りやめとなり，西浜小学校が廃校となった。その後，明治９年に公私立学校を廃止し，高松と接続する村を 13 学区に分けた。そして，先の２校が西浜小学校，日新小学校となった。明治 17 年には先の13学区を１学区とし，日新小学校が第５高松小学校，西浜小学校が第５小学校の分校となった。明治 19 年には小学校令の交付により第５小学校は五番丁尋常小学校に統合され，第５小学校の分校は西浜簡易小学校となる。さらに，明治 23 年の改正小学校令によって，明治 25 年に西浜簡易小学校を廃し，四番丁尋常小学校に統合される。その後，西通町周辺には明治 35 年に二番丁小学校が，明治 41 年には西浜小学校が創立されている。明治期の教育制度の変化の最終段階に二番丁小学校が創立されたのである。この二番丁小学校は昭和 59 年に旧校舎の配置となり，平成 21 年まで続いていく。校舎は運動場に対してアーチ状を呈する非常に珍しい形状である。平成 13 年に創立 100 周年を迎えたが，市街地の空洞化に伴う生徒数の激減が要因となり，平成 20 年から統合小学校の新校舎建設が開始された。平成 22 年４月に，旧二番丁，旧四番丁，旧日新小学校校区の生徒が通う新番丁小学校として生まれ変わったのである。

【註】

１）絵図には描かれていないが，それ以前から存在が想定される寺社もある。

【主要参考文献】

井上正夫 2007「経済史の観点から」『四国村落研究会シンポジウム　港町の原像　－中世港町・野原と讃岐の港町－』四国村落　遺跡研究会
上野進 2007「野原をめぐる寺社と領主」『四国村落研究会シンポジウム　港町の原像　－中世港町・野原と讃岐の港町－』四国村落遺跡研究会
永年會 1932『増補高松藩記』
胡光 2007「「高松城下図屏風」の歴史的前提」『調査研究報告　第３号』香川県歴史博物館
大嶋和則ほか 1999a『史跡高松城跡（地久櫓跡・三ノ丸跡）史跡高松城跡整備に伴う埋蔵文化財調査報告書』高松市教育委員会
大嶋和則 1999b『松平公益会事務所改築に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　高松城跡（作事丸）』高松市教育委員会・財団法人松平公益会
大嶋和則 2002『香川県弁護士会会館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡（松平大膳家中屋敷跡）』高松市教育委員会・香川県弁護士会
大嶋和則 2004「高松城跡（外堀，西内町，共同住宅建設）」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成 15 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
大嶋和則 2006「高松城跡（外堀、兵庫町）」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成 17 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
大嶋和則 2007a『史跡高松城跡整備報告書　第１冊　鉄門石垣調査・保存整備工事報告書』高松市・高松市教育委員会
大嶋和則 2007b「高松城の発掘成果から」『四国村落研究会シンポジウム　港町の原像　－中世港町・野原と讃岐の港町－』四国村落遺跡研究会
大嶋和則 2008a『史跡高松城跡整備報告書　第２冊　石垣基礎調査報告書』高松市・高松市教育委員会
大嶋和則 2008b「高松城」『季刊考古学　第 103 号　特集　近世城郭と城下町』優山閣
大嶋和則 2008c『史跡高松城跡整備報告書　第３冊　玉藻廟解体・記録保存調査報告書』高松市・高松市教育委員会
大嶋和則 2010a「史跡高松城跡 - 中堀南岸石垣（石垣復旧）-」『高松市内遺跡発掘調査概報平成 21 年度国庫補助事業』高松市教育委員会
大嶋和則 2010b「史跡高松城跡」『香川県文化財年報』（平成 20 年度）香川県教育委員会
小川賢 2002「片原町遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報　平成 12 年度』香川県教育委員会
小川賢ほか 2004『新ヨンデンビル別館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）』高松市教育委員会・四電ビジネス株式会社
小川賢ほか 2005『共同住宅建設（コトデン片原町パーキング跡地）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡（東町奉行所跡）』高松市教育

委員会・高松琴平電気鉄道株式会社
小川賢 2006a「高松城跡（寿町二丁目）」『高松市内遺跡発掘調査概報 －平成 17 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
小川賢ほか 2006b『丸亀町商店街 A 街区第一種市街地再開発事業に係る隔地駐車場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡（厩跡）』高松市教育委員会・高松市丸亀町商店街 A 街区市街地再開発組合
小川賢ほか 2007『寿町二丁目テナントビル建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡（寿町二丁目地区）』
小川賢ほか 2008『高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書第 1 冊　高松城跡（江戸長屋跡Ⅰ）』
小川賢 2009「高松城跡」『高松市内遺跡発掘調査概報平成 21 年度国庫補助事業』高松市教育委員会
小川賢 2011「高松城跡（本町地区）」『高松市内遺跡発掘調査概報平成 22 年度国庫補助事業』高松市教育委員会
香川県 1987a『香川県史　第九巻　資料編　近世史料Ⅰ』
香川県 1987b『香川県史　第五巻　通史編　近代Ⅰ』
香川県 1989a『香川県史　第三巻　通史編　近世Ⅰ』
香川県 1989b『香川県史　第四巻　通史編　近世Ⅱ』
香川県立文書館 1998『香川県立文書館史料集 1　高松藩御令條之内書抜上巻』
香川県立文書館 1999『香川県立文書館史料集 2　高松藩御令條之内書抜下巻』
川畑聰 2003a『史跡高松城跡地久檜台発掘調査概報　平成 11 ～ 13 年度調査』高松市教育委員会
川畑聰 2003b「史跡高松城跡（三の丸，竜檜台北側）」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成 14 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
川畑聰 2003c「高松城跡（丸の内）」『高松市内遺跡発掘調査概報－平成 14 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
川畑聰 2004a『史跡高松城跡地久檜台発掘調査概報　平成 14・15 年度調査』高松市教育委員会
川畑聰ほか 2004b「高松城跡（中掘，北浜町）」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成 15 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
川畑聰ほか 2004c「高松城跡（丸の内，都市計画道路高松海岸線街路事業）」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成 15 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
川畑聰ほか 2004d「高松城跡（丸の内，個人住宅建設）」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成 15 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
川畑聰ほか 2004e「史跡高松城跡（二の丸，玉藻公園西門料金所整備工事）」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成 15 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
川畑聰 2004f「高松城跡（丸の内，再生水管布設工事）」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成 15 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
川畑聰ほか 2004g「高松城跡（鶴屋町，共同住宅建設）」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成 15 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
川畑聰 2005a「高松城跡（西の丸町）」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成 16 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
川畑聰ほか 2005b「高松城跡（内町）」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成 16 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
川畑聰ほか 2005c「高松城跡（丸の内）」『高松市内遺跡発掘調査概報 －平成 16 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
川畑聰 2005d「高松城跡（丸の内）」『高松市内遺跡発掘調査概報－平成 16 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
北山健一郎 1999『香川県歴史博物館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡』香川県教育委員会･財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
小山騰 2005『ケンブリッジ大学秘蔵明治古写真　マーケーザ号の日本旅行』平凡社
財団法人松平公益会 1964a『高松藩祖松平頼重傳』
財団法人松平公益会 1964b『松平頼壽傳』
佐藤竜馬ほか 2003a『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 4 冊　高松城跡（西の丸町地区）Ⅱ』香川県教育委員会･財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
佐藤竜馬 2003b『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松城跡（西の丸町 D 地区）』香川県教育委員会
佐藤竜馬 2007a「考古学の視点から見た「高松城下図屏風」」『調査研究報告　第 3 号』香川県歴史博物館
佐藤竜馬 2007b「初期高松城下町の在地的要素」『四国村落研究会シンポジウム　港町の原像　－中世港町・野原と讃岐の港町－』四国村落遺跡研究会
佐藤竜馬 2007c「戦国期　伊勢御師の軌跡をたどる」『四国村落研究会シンポジウム　港町の原像　－中世港町・野原と讃岐の港町－』四国村落遺跡研究会
渋谷啓一 2007「古・高松湾と瀬戸内海世界」『四国村落研究会シンポジウム　港町の原像　－中世港町・野原と讃岐の港町－』 四国村落遺跡研究会
末光甲正 2003『紺屋町遺跡』高松市教育委員会
高上拓 2010「亀井戸跡」『高松市内遺跡発掘調査概報平成 22 年度　国庫補助事業』高松市教育委員会
高橋学 1992「高松平野の地形環境－弘福寺領山田郡田図比定地付近の微地形環境を中心に－」『讃岐国弘福寺領の調査　弘福寺領讃岐国山田郡田図調査報告書』高松市教育委員会
高松市 1957『重要文化財高松城　二ノ丸　月見櫓　續櫓　渡櫓　水手御門修理工事報告書』
高松市 1966『新修高松市史Ⅱ』
高松市 1974『史跡高松城跡保存修理工事報告書　石垣修理工事報告』
高松市 1988『高松百年史』上巻
高松市・高松市教育委員会 2009『高松城史料調査報告書』史跡高松城跡整備報告書第 4 冊
中西克也ほか 2005『市街地再開発関連街路事業（高松駅南線）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　第 1 冊　高松城跡（無量壽院跡）』高松市教育委員会
中西克也ほか 2007『市街地再開発関連街路事業（高松駅南線）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　第 2 冊　高松城跡（寿町一丁目）』高松市教育委員会
野村美紀 2007「「高松城下図屏風」の基礎的考察」『調査研究報告　第 3 号』香川県歴史博物館
乗松真也 2004『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 6 冊　浜ノ町遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
乗松真也 2007「漁撈集団と港町」『四国村落研究会シンポジウム港町の原像　－中世港町・野原と讃岐の港町－』四国村落遺跡研究会
古野徳久 2001『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 3 冊　高松城跡（西の丸町地区）Ⅰ』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財センター
松岡明子 2007「美術史の視点から見た「高松城下図屏風」」『調査研究報告　第 3 号』香川県歴史博物館
松本和彦 2003a『高松家庭裁判所移転に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
高松城跡（丸の内地区）』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
松本和彦ほか 2003b『サンポート高松総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　第 5 冊　高松城跡（西の丸町地区）Ⅲ』香川県教育委員会･財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
松本和彦 2007「野原の景観と地域構造　－発掘成果を中心に－」『四国村落研究会シンポジウム　港町の原像　－中世港町・野原と讃岐の港町－』四国村落遺跡研究会
松本和彦 2009「野原の景観と地域構造」『中世讃岐と瀬戸内世界』港町の原像（上）岩田書院
森下英治 1995「高松城跡」『香川県埋蔵文化財調査年報　平成 6 年度』香川県教育委員会
森下友子 1996「高松城下の絵図と城下の変遷」『財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 研究紀要Ⅳ』財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
山元敏裕ほか 1991「史跡高松城発掘調査報告書　－玉藻公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査－」『高松市文化財調査報告書』高松市教育委員会
山元敏裕ほか 2004「高松城跡（丸の内，共同住宅建設）」『高松市内遺跡発掘調査概報　－平成 15 年度国庫補助事業－』高松市教育委員会
山元素子ほか 1999『高松北警察署建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報　平成 10 年度　高松城跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
渡部明夫ほか 1987『高松城東ノ丸跡発掘調査報告書』香川県教育委員会
渡邊誠 2008「二番丁小学校遺跡」『高松市内遺跡発掘調査概報平成 19 年度国庫補助事業』高松市教育委員会
渡邊誠 2009『高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　第 2 冊　高松城跡（江戸長屋跡Ⅱ）』
渡邊誠 2010「高松城跡」『香川県文化財年報』（平成 20 年度）香川県教育委員会

第Ⅲ章　調査成果

調査成果についてはA，B，C区の順序で報告する。その際，建物遺構（SA，SB），土坑（SK），溝や区画施設（SD, SX），ピット（SP）の順序で報告を行っていくが，遺構の切り合い関係などから同時に報告することが望ましい遺構については，適宜適切な箇所で報告を行っているので注意いただきたい。遺構番号については調査時にA区：S●001，B区：S●101，C区S●201という呼称で行ったが，A区の遺構数が多く，重複が生じることとなった。そのため頭に工区名を付与することとした。なお，紙幅の関係で，遺物の詳細については遺物一覧表を参照していただきたい。

第一節　A区の調査成果

a　調査概要

本調査区では遺構面を２面（第４図，第26図）確認することができた。第１遺構面では建物状遺構，土坑などを多数確認した。後述するように，土坑は南東隅と北西隅に集中する傾向があり，偏在性が認められた。また，調査区南東隅部の土坑の集中する範囲は，遺構面を構成するシルト層が他の部分と異なり非常に汚れており，遺構の切り合いの検討作業に苦慮した。

第２遺構面は砂を基盤層とすると同時に，地山面にも当たる。ピット状の遺構が不規則に展開するが，居住に関わるような明確な遺構は確認することができず，遺物も非常に希薄であった。

b　基本層序

A区の土層図は第５図である。第１層から第４層までは近現代以降の整地と考えられ，特に旧校舎建設時およびそれ以降，運動場として利用するに際して造成および補修を行っているようである。第１遺構面を形成する土は第７層の灰黄色シルトである。第７層直上には第５層が薄く堆積しており，遺構面に掘り込まれた遺構の年代の遺物を包含している場合が多い。第２遺構面を形成する土は第８層の灰オリーブ色系の砂で，基本的に第７層を掘り下げると確認できる。この第２遺構面を形成する砂堆は東に向かうにつれ，高くなっており，この砂堆の微地形を示すものと考えられる。

c　遺構と遺物

ⅰ）第１遺構面（第４図）

建物遺構（第６図）

ASB

調査時より，いくつかの柱列を認識することができ，建物を想定できる空間が広がっていることから，現場での柱穴の柱筋と遺構埋土等から同時存在の柱穴の検出を試みたが，軸となる柱列を確認したものの，第６図のように柱筋のとおりが悪く，建物の明確な規模と構造は現場では判断できなかった。後述するが，敷地の西側に道路が想定でき，さらに絵図の屋敷地割から東西方向に建物が想定できる。一方，絵図などからはあまり複雑な構造をもつ建物は想定できない。以上の想定を考慮した結果が第６図のような復元となった。床束などがあり，単純に柱配列から構造を復元することはできないが，柱が総柱のように配列される箇所は床を想定でき，そうではない箇所は土間等が想定される。いずれにしても，明確な建物遺構の復元には至らなかった。また，多数の瓦が出土していることからある段階で瓦葺き建物になったことが想定される。その際には礎石への変化も想定されるが，今回の調査範囲ではそのような遺構は確認できなかった。

ただし，SP 002，SP003，SP051，SP052は同じ建物遺構もしくは柵列を構成するピット群で，長方形の柱材がかろうじて残存していたが，掘り込みは２～３cmと非常に浅く，掘り方が存在するため，本来は第１遺構面よりも高い位置から掘削され設置されたと考えられる。

時期は出土遺物が認められないため判断できない。

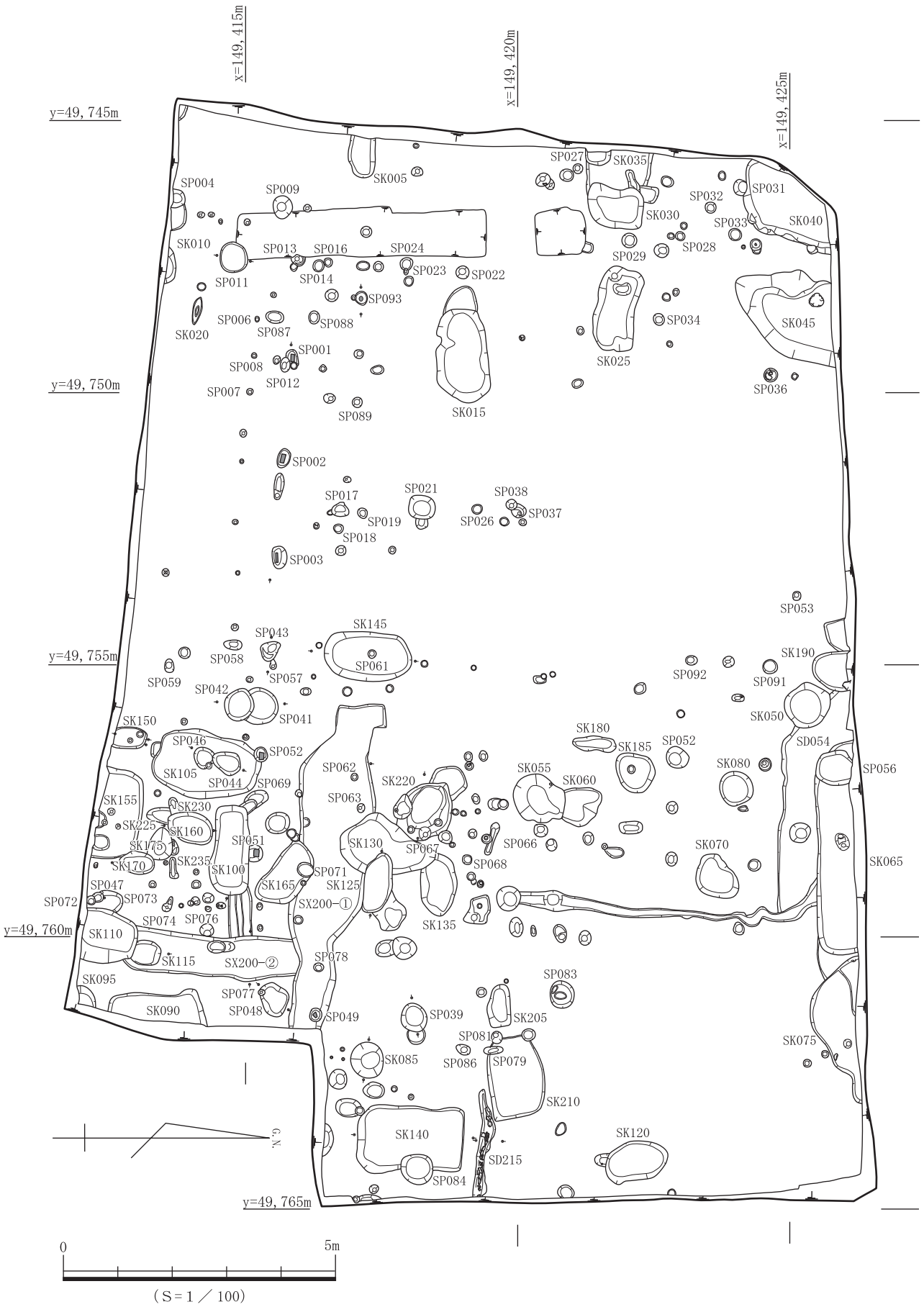
土坑

ASK005

調査区南西に位置する土坑で，調査区西側へとさらに伸びる。現存で，長さ0.8m，幅0.45mの隅丸方形を呈する。深度は0.38mで，埋土は炭化物および遺物を含む黒褐色砂質土である。出土遺物（84～86）は肥前系陶器，瀬戸美濃系陶器で，時期は17世紀後半である。

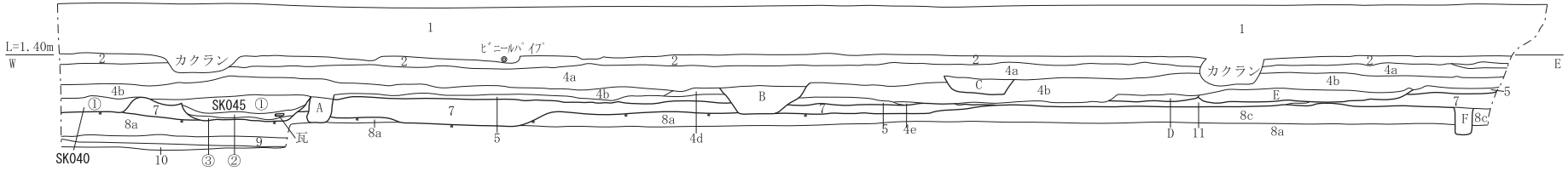
ASK010

調査区南西部に位置し，その大部分が調査区外側へとのびており，形状は不明である。現存で，長さ0.7m，幅

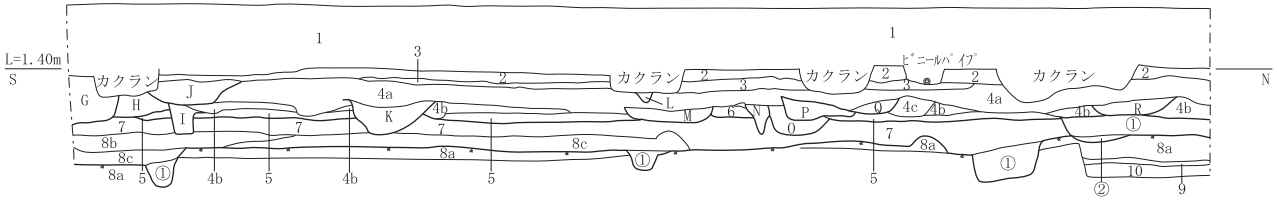


第４図　Ａ区第１遺構面遺構配置図

A 区北壁



A 区西壁



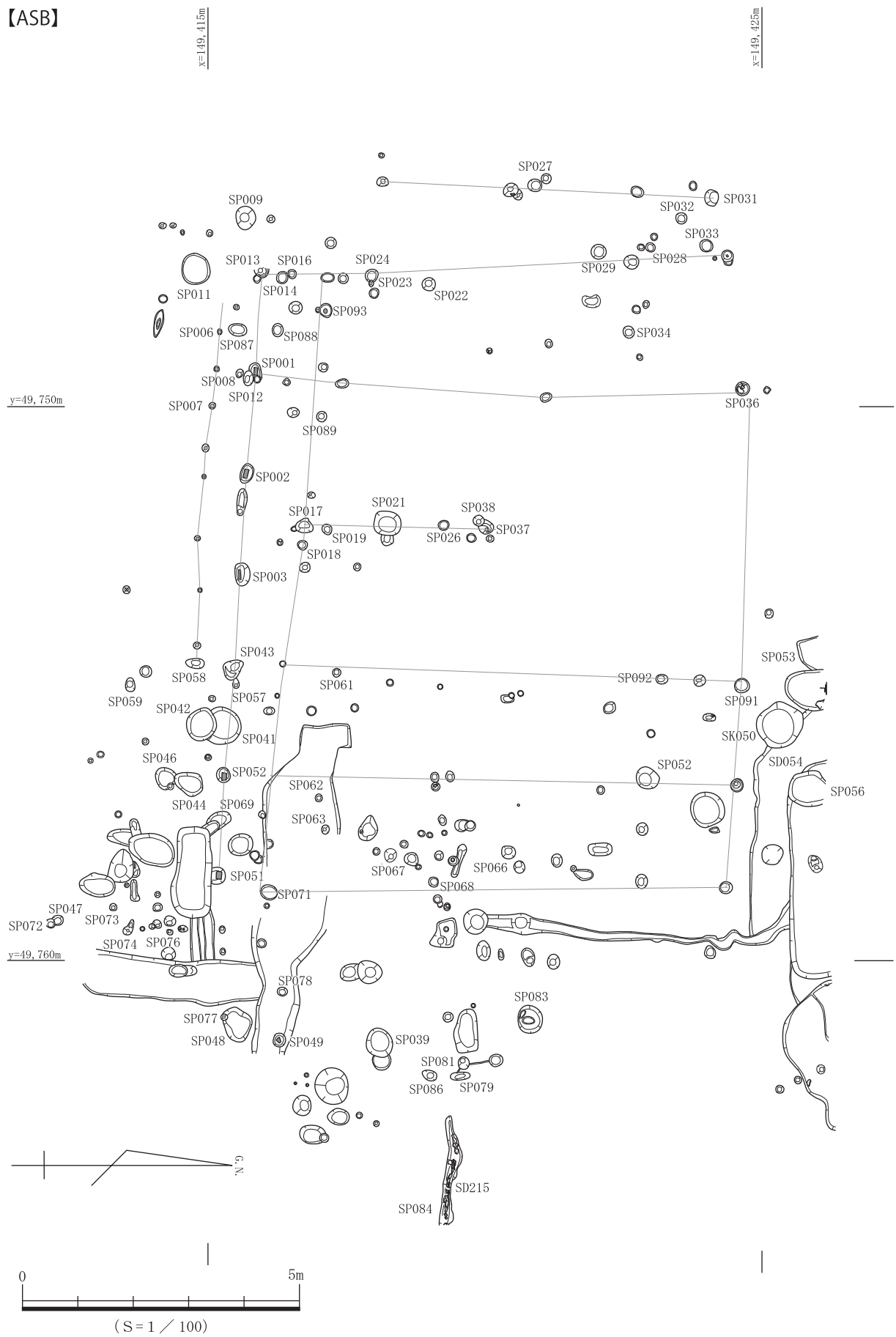
（S＝1／80）

1：表土（現代～戦災）
2:2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土
3:2.5Y6/4 にぶい黄色砂質土
4a:2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土（炭化物を含む）
4b:2.5Y6/2 灰黄色砂質土（炭化物を含む）
4c:2.5Y6/2 灰黄色砂質土（炭化物・赤く焼けた土を含む）
4d:2.5Y7/3 浅黄色砂質土
4e:2.5Y4/1 黄灰色砂質土
5:10YR6/2 灰黄褐色シルト質土（炭化物・遺物を含む）
6:2.5Y4/2 暗灰黄色砂
7:2.5Y6/2 灰黄色シルト
8a:5Y6/2 灰オリーブ色砂
8b:7.5Y6/1 灰色やや粘性のある砂質土
8c:5Y6/2 灰オリーブ色砂（円礫を多量に含む）
9:N5/0 灰色粘性のある砂質土
10:5Y8/3 浅黄色砂 +5Y6/2 灰オリーブ色砂
11:2.5Y5/1 黄灰色粘性のある砂質土（7 層ブロックを含む）
12:2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土

A:5Y5/2 灰オリーブ色砂質土
（2.5Y6/2 灰黄色シルトブロックを含む、遺物を含む）
B:2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（炭、遺物を含む）
C:2.5Y6/2 灰黄色砂質土（遺物を含む）
D:10YR3/1 黒褐色砂質土
E:10YR3/1 黒褐色砂質土（遺物を含む）
F:2.5Y6/2 灰黄色砂質土
G:2.5Y4/1 黄灰色砂質土
（2.5Y6/2 灰黄色シルトブロックを含む、炭化物含む）
H:2.5Y5/3 黄褐色砂質土
I:2.5Y6/2 灰黄色シルト
+2.5Y6/2 灰黄色砂質土（炭化物を含む）
J:2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土（炭化物を多量に含む）
K:2.5Y3/1 黒褐色砂質土（炭化物・遺物を含む）
L:2.5Y4/1 黄灰色粘質土（炭化物を多量に含む）
M:2.5Y4/1 黄灰色砂質土（炭化物を多量に含む）
N:2.5Y6/2 灰黄色砂質土
O:2.5Y6/2 灰黄色砂質土（地山ブロックわずかに含む）
P:2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土（炭化物含む）
Q:2.5Y4/1 黄灰色砂質土（炭化物を多量に含む）
R:5Y2/1 黒色粘質土（炭化物を多量に含む）

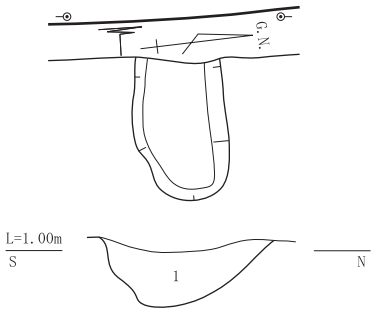
SK040
①:2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（炭化物を少量含む、遺物を含む）
SK045
①:2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（炭化物を少量含む、遺物を含む）
②:2.5Y4/1 黄灰色砂質土（炭化物を多量に含む）
③:5Y7/1 灰白色砂（2.5Y6/2 灰黄色シルトブロックを含む）
SK040
①:5Y5/1 灰色砂質土（炭化物含む）
②:①+2.5Y6/2 灰黄色シルトブロックを多量に含む
SK303・SP
①:2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（円礫を含む）

第５図　A 区土層断面図



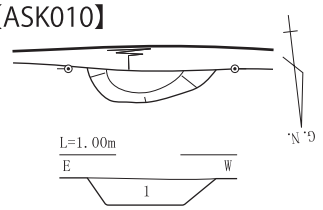
第６図　Ａ区建物遺構関連遺構

【ASK005】



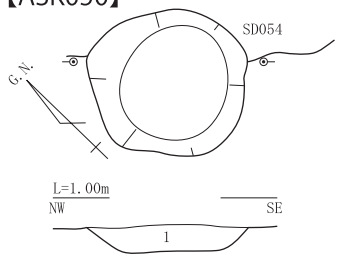
1:2.5Y3/1 黒褐色砂質土（炭化物・遺物を含む）

【ASK010】



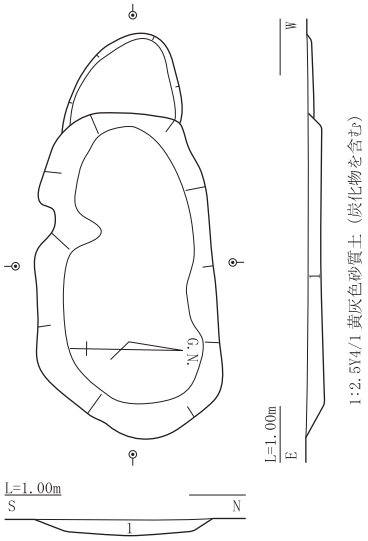
1:2.5Y4/1 黄灰色砂質土（炭を含む）

【ASK050】



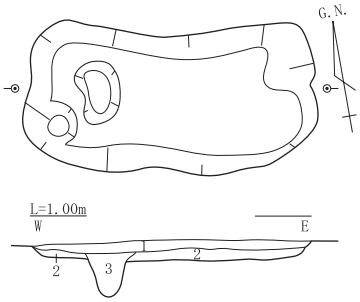
1:10YR7/2 灰黄褐色 +10YR6/2 灰黄褐色砂質土

【ASK015】



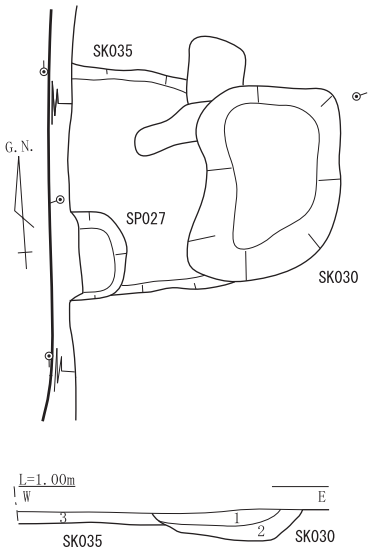
1:2.5Y4/1 黄灰色砂質土（炭化物を含む）

【ASK025】

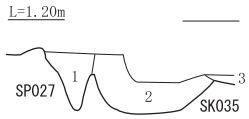


1:10YR3/1 黒褐色砂質土（炭化物を若干含む）
2:10YR6/2 灰黄褐色砂質土（Fe を含む）
3:10YR6/2 灰黄褐色 +10YR5/1 褐灰色砂質土

【ASK030/ASP027】

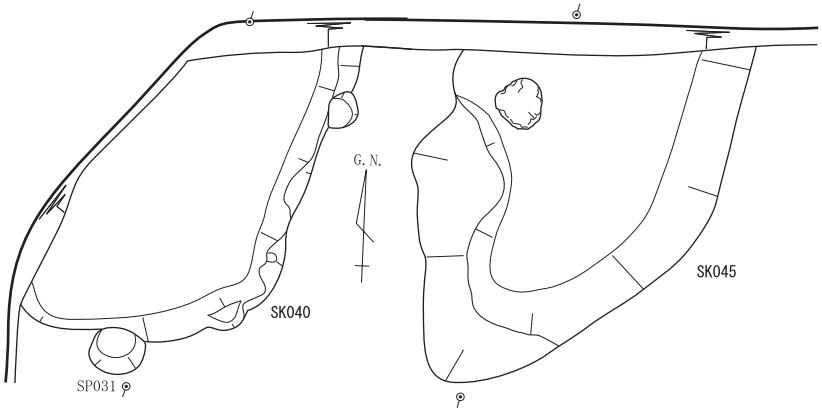


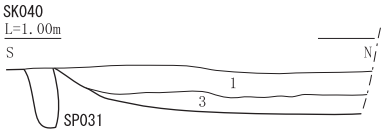
1:10YR3/1 黒褐色砂質土（炭化物を多量に含む）
2:10YR3/1 黒褐色砂質土
3:10YR7/1 灰白色 +10YR7/2 にぶい黄橙色砂質土

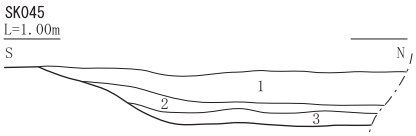


1:2.5Y6/2 灰黄色砂質土（地山ブロック僅かに含む）
2:2.5Y6/2 灰黄色砂質土
3:10YR6/2 灰黄褐色シルト質土（炭化物・遺物含む）

【ASK040/045】

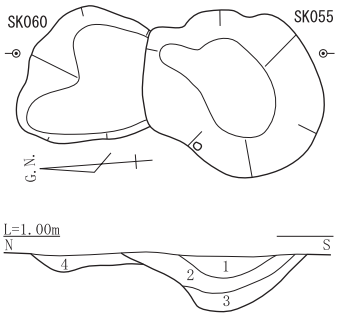






1:10YR6/1 褐灰色 +10YR7/1 灰白色砂質土（炭化物を若干含む）
2:10YR4/1 褐灰色砂質土（炭化物を若干含む）
3:2.5Y8/2 ～ 7/1 灰白色砂質土

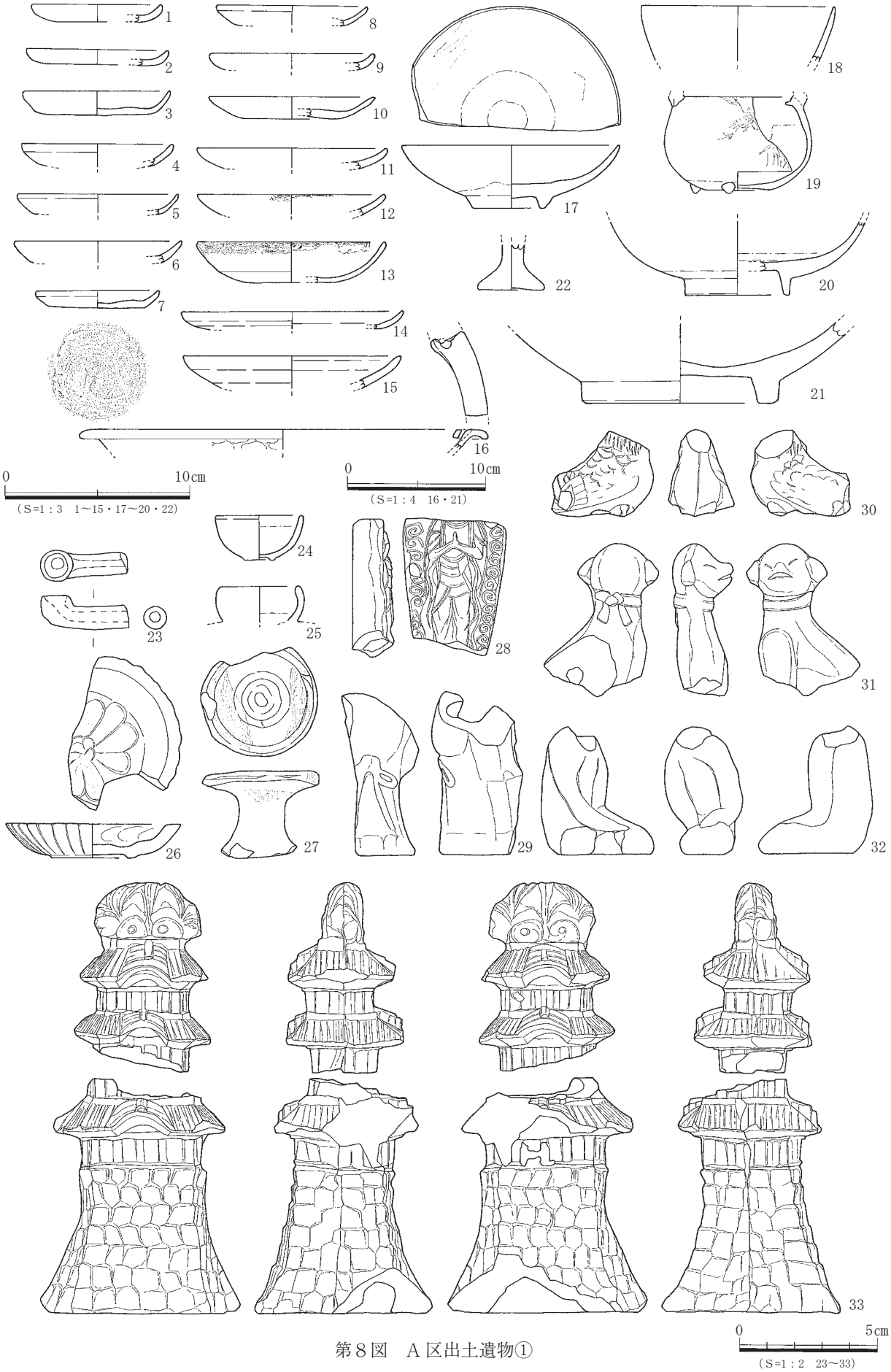
【ASK055/060】



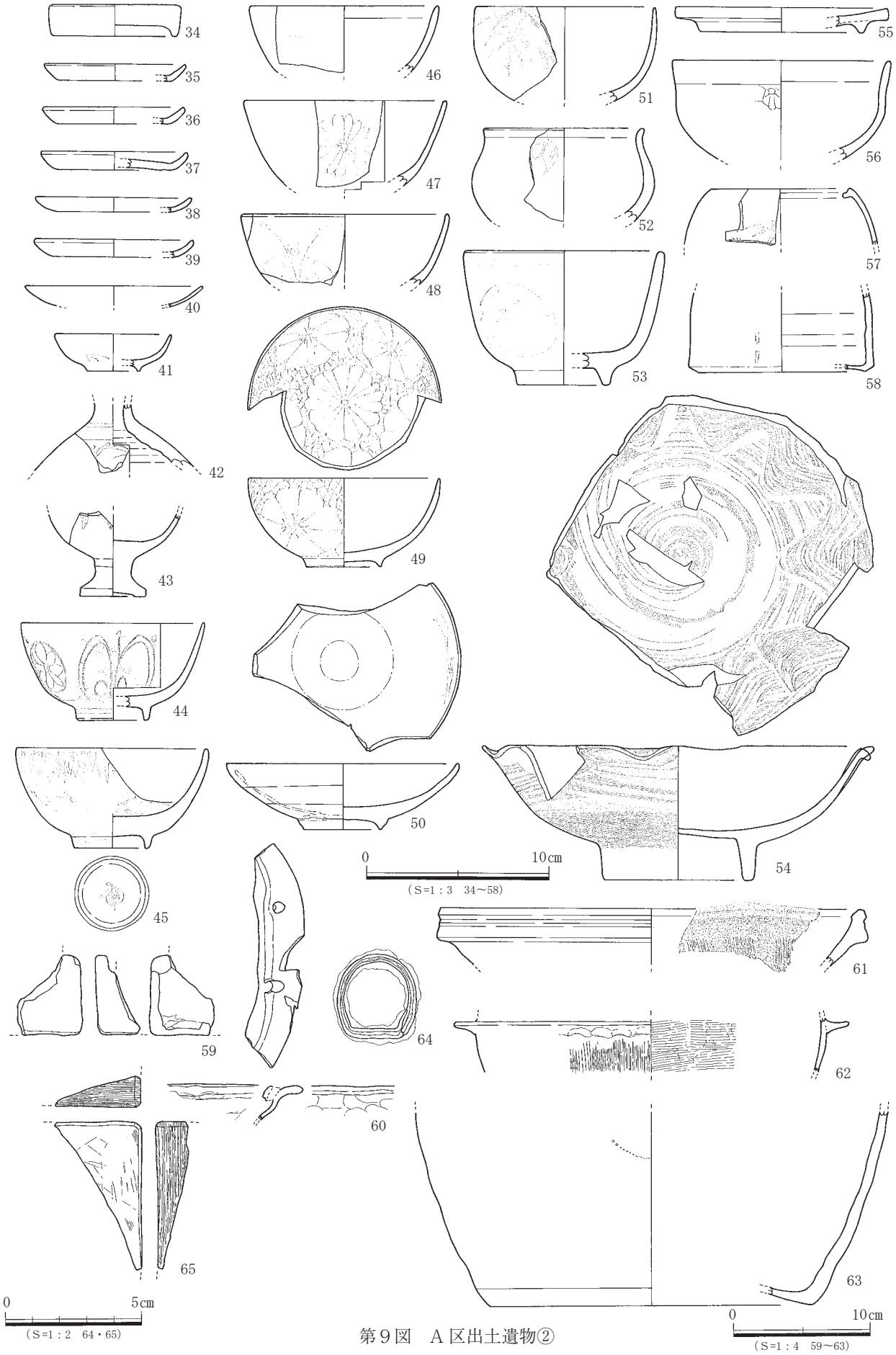
1:10YR6/1 褐灰色 +10YR7/1 灰白色砂質土
2:10YR6/1 褐灰色 +10YR7/1 灰白色砂質土
+2.5YR8/8/3 淡黄色シルト質細砂
3:10YR6/1 褐灰色 +10YR7/1 灰白色砂質土
（炭化物を若干含む）
4:10YR6/1 褐灰色 +10YR7/1 灰白色砂質土

（S＝1／40）

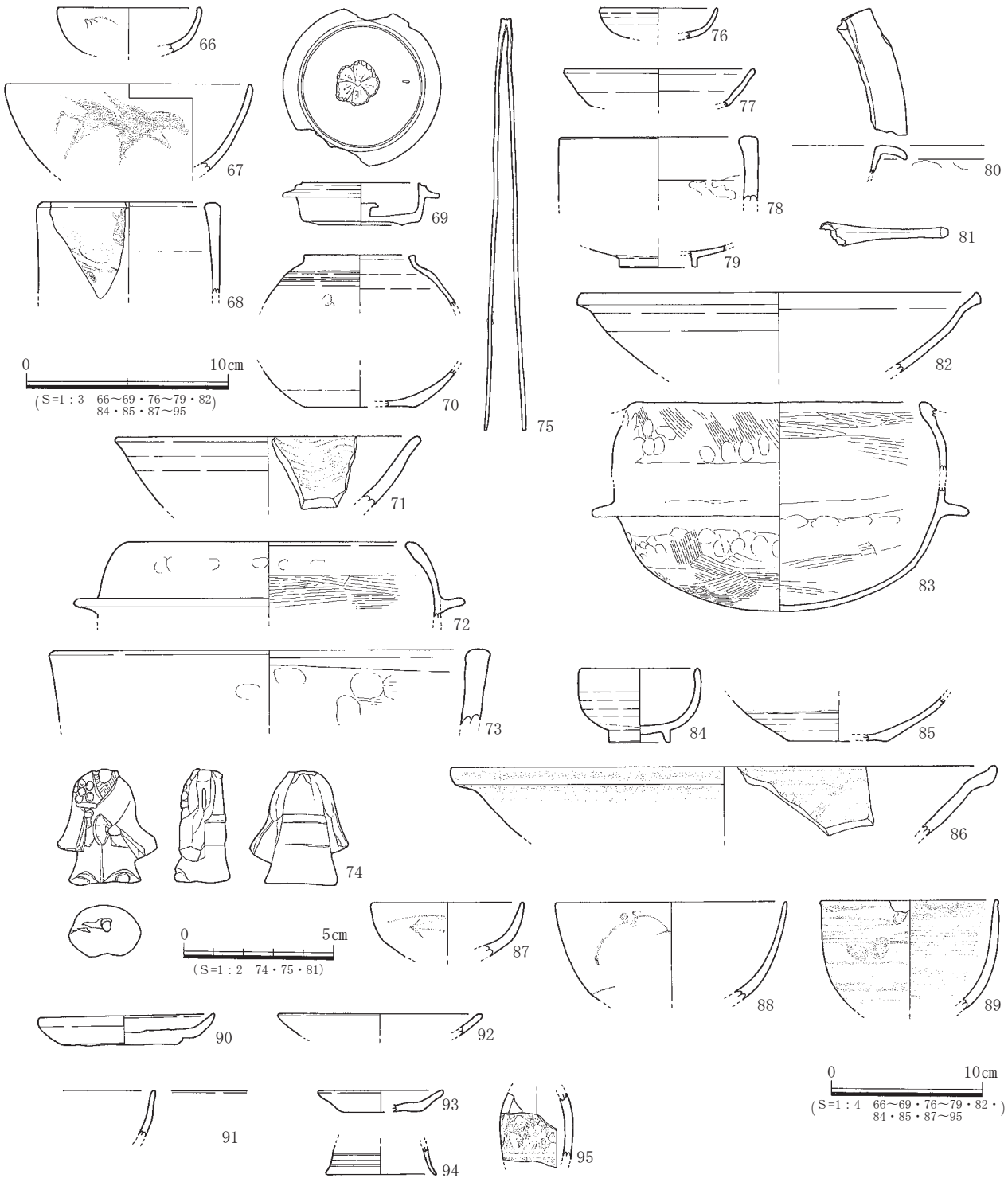
第７図　Ａ区土坑平・断面図①



第８図　Ａ区出土遺物①


34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
0
10cm
(S=1：3　34～58)
0
5cm
(S=1：2　64・65)
0
10cm
(S=1：4　59～63)

第９図　Ａ区出土遺物②

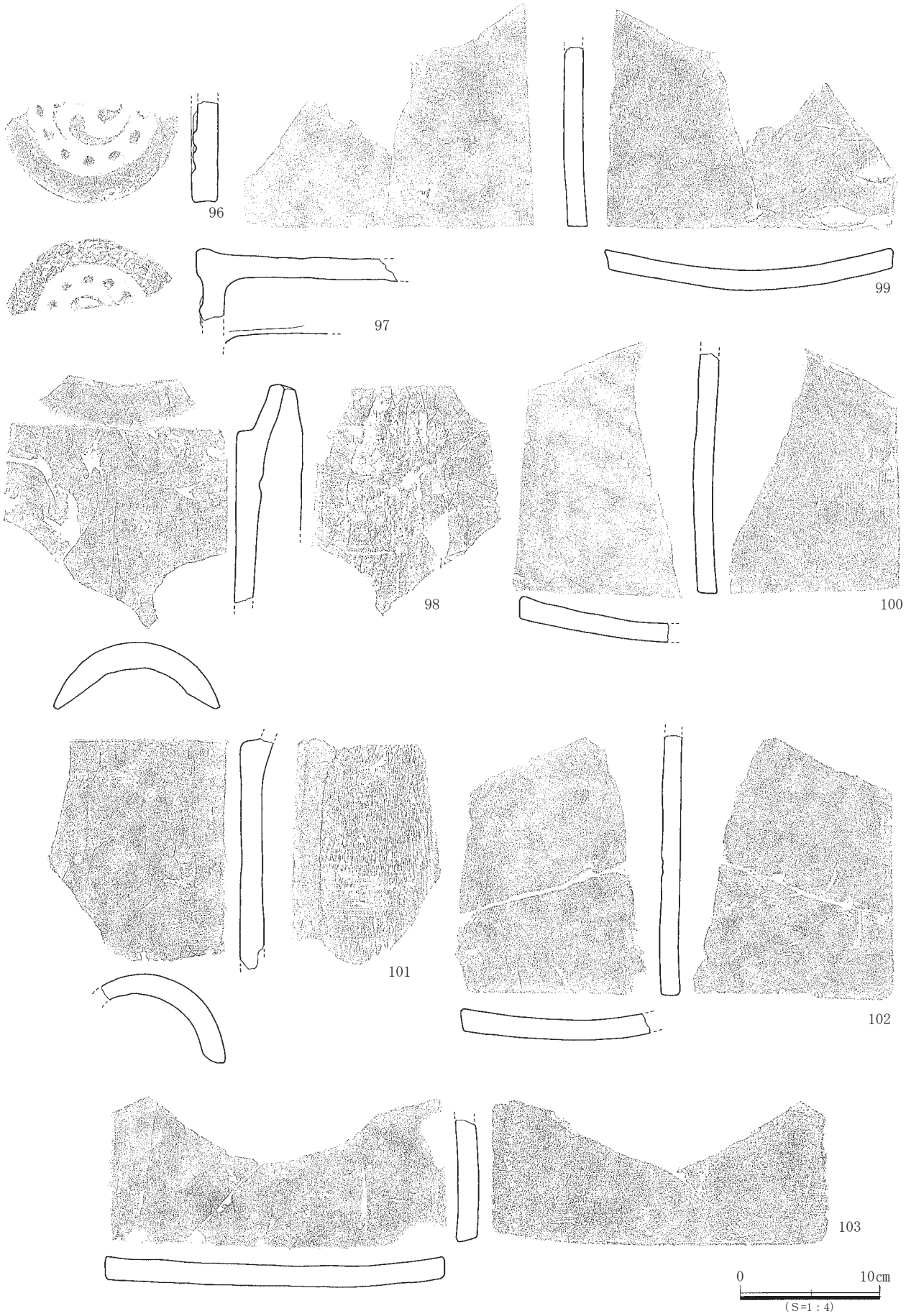


第10図　A区出土遺物③

0.16mである。埋土は黄灰色砂質土である。出土遺物(91)は土師質土器で，時期は限定できない。

ASK015

調査区西側中央部に位置し，長さ1.25m，幅0.94mの東西方向に長い楕円形を呈する。深度は0.08mで，掘り込みが非常に浅く，上層の遺構面（近代以降）からの掘り込んだものか，窪地状の遺構の可能性も想定できる。埋土は黄灰色砂質土である。出土遺物（87～89）は肥前系陶磁器で，時期は17世紀後半である。



第 11 図　A 区出土遺物④

ASK025

調査区の北西部に位置する土坑である。長さ 1.55m，幅 0.68m を測り，やや弧状を呈し，東西方向に長い隅丸方形を呈する。深度は 0.1m で，SK015 と同様に非常に掘り込みが浅い。埋土は上層が炭化物を含む黒褐色砂質土，下層が灰黄褐色砂質土である。出土遺物（76 ～ 83）は土師質土器，肥前系陶器，瀬戸美濃系陶器，青銅製の煙管の吸い口で，時期は限定できない。

ASK030

調査区の北西部に位置する土坑で，長さ 10.5m，幅 0.7m の不整の方形を呈する。深度は 0.17m で，埋土は黒褐色砂質土で，上層が炭化物を多量に含む。SK035 を切る。出土遺物（66 ～ 75）は土師質土器，肥前系陶磁器，瀬戸美濃系陶器，京焼系陶器，土製玩具，銅製品で，時期は 19 世紀である。

ASP027

調査区の北西部に位置し，隅丸方形を呈するピットである。現存で一辺 0.46m である。深度は 0.3m で，埋土は炭化物および遺物を含む灰黄褐色シルト質土である。SK035 に切られている。出土遺物（95）は肥前系磁器で，時期は限定できない。

ASK040

調査区の北西隅に位置し，長方形を呈すると考えられるが，大部分は調査区外へと伸びる。現存で，長さ 1.5m，幅 1.35m を測る。東側に段がある。深度は 0.2m で，埋土上層は炭化物を含む褐灰色砂質土をベースとして灰白色砂質土を含み，下層は灰白色砂質土である。出土遺物（1 ～ 22）は土師質土器，肥前系陶器，京信楽系陶器，備前系陶器で，時期は 17 世紀末から 18 世紀後半である。

ASK045

調査区の北西隅に位置し，南側が突出し，おむすび形を呈する土坑で，その一部は調査区外へと伸びる。現存で長さは 1.8m，幅 1.55m を測る。西側にテラスがある。深度は 0.3m で，埋土は 3 層に区分でき，上層から，炭化物を含む褐灰色砂質土をベースとして灰白色砂質土を含む層，炭化物を少し含む褐灰色砂質土，灰白色砂質土である。出土遺物（23 ～ 65，96 ～ 100，737，741）は土師質土器，肥前系磁器，瀬戸美濃系陶器，京焼系陶器，備前系陶器，軒平瓦，平丸瓦，土製玩具，鉄製品，砥石で，時期は 18 世紀後半である。

ASK050

調査区の北側のほぼ中央部に位置し，一辺 0.76m の不整形土坑である。深度は 0.12m で，断面逆台形を呈し，埋土は灰黄褐色砂質土である。出土遺物（90）は土師質土器で，時期は限定できない。

ASK055

調査区の中央部ほぼ東側に位置し，不整形の土坑である。長さで 0.96m，幅で 0.56m を測る。深度は 0.3m で，中央部が大きく窪む。SK060 を切る。出土遺物（92）は土師質土器で，時期は限定できない。

ASK060

調査区の中央部ほぼ東側に位置し，不整形土坑で，SK055 に切られており，全形は不明である。現存で，長さで 0.76m，幅 0.6m を測る。深度は 0.08m と浅く，埋土は褐灰色と灰白色の砂質土である。出土遺物（93 ～ 94）は土師質土器，肥前系磁器で，時期は限定できない。

ASK065

調査区の北側やや中央部より東側に位置する土坑である。さらに調査区北側へと伸びるため全形は不明であるが，長さ 3.9m，幅 0.7m と東西に長く，隅丸方形を呈する。西側の一部を SP056 に切られている。深度は 0.12m と浅く，埋土は黄灰色砂質土である。出土遺物（205 ～ 207）は土師質土器，肥前系磁器で，時期は限定できない。

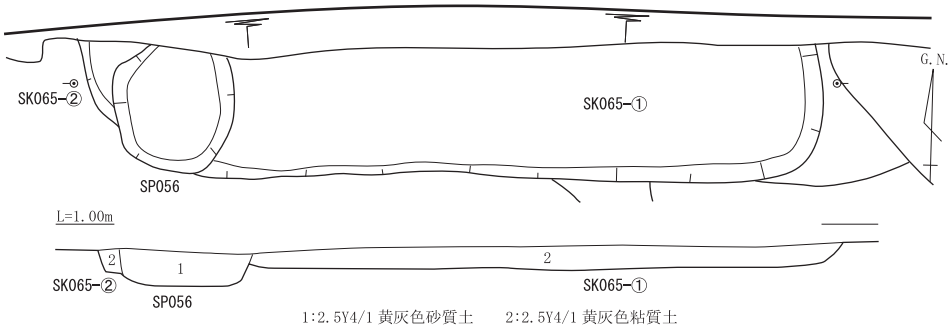
ASP056

調査区の北側やや中央部より東側に位置する柱穴である。さらに調査区北側へと伸びるため全形は不明であるが，現存で長さ 0.64m，幅 0.64m とやや南北に長い，不整形な円形を呈する。SK065 を切っている。深度は 0.2m と浅く，埋土は黄灰色砂質土である。出土遺物がなく時期は判断できない。

ASK070

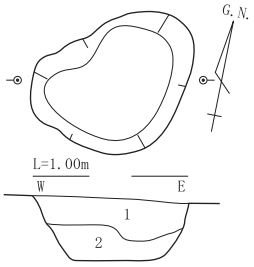
調査区北側の中央やや東よりに位置する土坑である。やや歪な隅丸三角形を呈し，底辺 0.93m，高さ 0.64m を測る。深さは 0.33m で，埋土は 2 層に区分できる。上層

【ASK065/SP056】



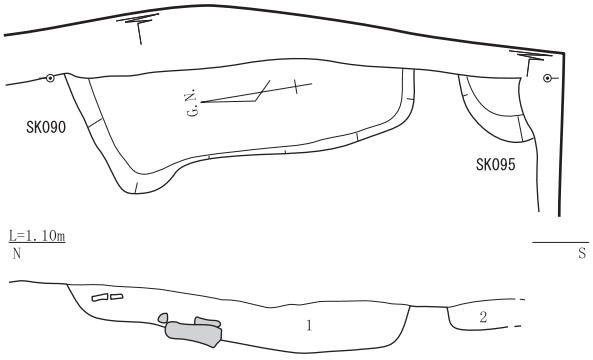
1:2.5Y4/1 黄灰色砂質土　2:2.5Y4/1 黄灰色粘質土

【ASK070】



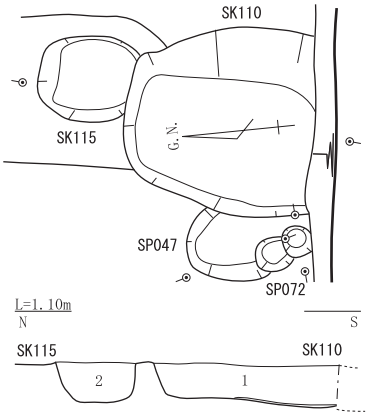
1:10YR6/1 褐灰色 +10YR7/1 灰白色
砂質土（炭化物を若干含む）
2:2.5Y7/1 灰白色細砂

【ASK090/095】



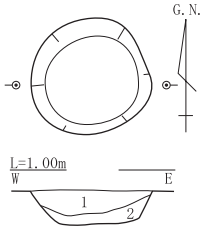
1:2.5Y3/2 黒褐色シルト～細砂（土器片・瓦片・漆喰？板石・炭化物など含む）
2:7.5Y3/2 オリーブ黒色砂

【ASK110/115/SP072】

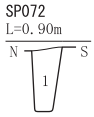


1:2.5Y3/1 黒褐色シルト～極細砂
下面に炭が薄く堆積する
2:2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土
（炭化物・土器片を含む）

【ASK080】

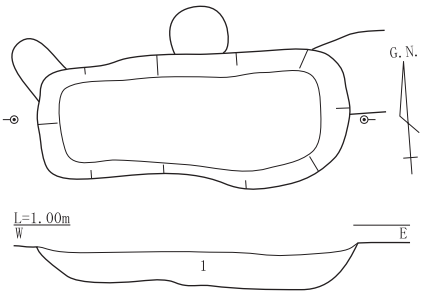


1:10YR6/1 褐灰色砂質土
（炭化物を含む）
2:10YR6/3 にぶい黄橙色 +
10YR6/1 褐灰色砂質土



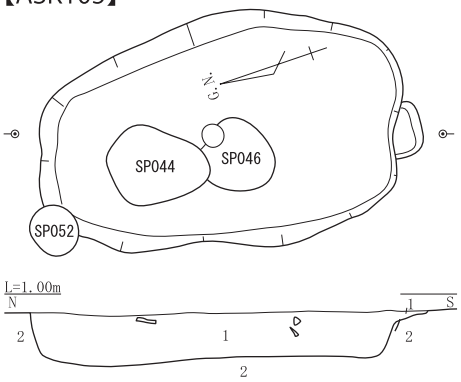
1:2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土
（地山ブロックを含む）

【ASK100】



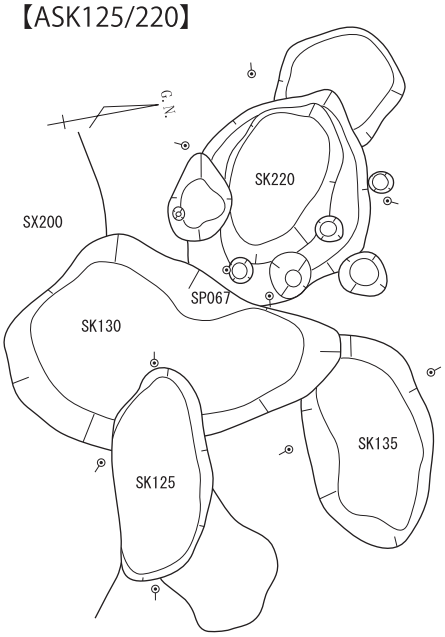
1:2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土（炭・径 5 cm以上の円礫含む）

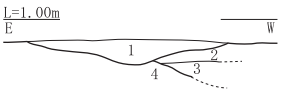
【ASK105】



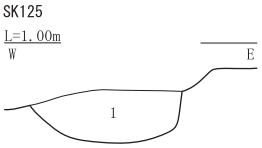
1:2.5Y3/1 黒褐色砂質土（炭化物・土器片混じる）
2:2.5Y5/3 黄褐色シルト～極細砂 +2.5Y7/6 明黄褐色土を
斑状に 20%程度含む

【ASK125/220】

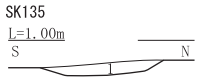




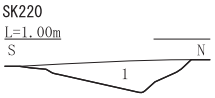
1:2.5Y4/2 暗灰黄色極細砂（炭化物・土器多く含む）
2:2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土（別遺構埋土）
3:2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土（別遺構埋土）
4:2.5Y6/3 にぶい黄色砂層



1:10YR3/2 黒褐色砂混じり粘土
（土器・瓦片多く含む）



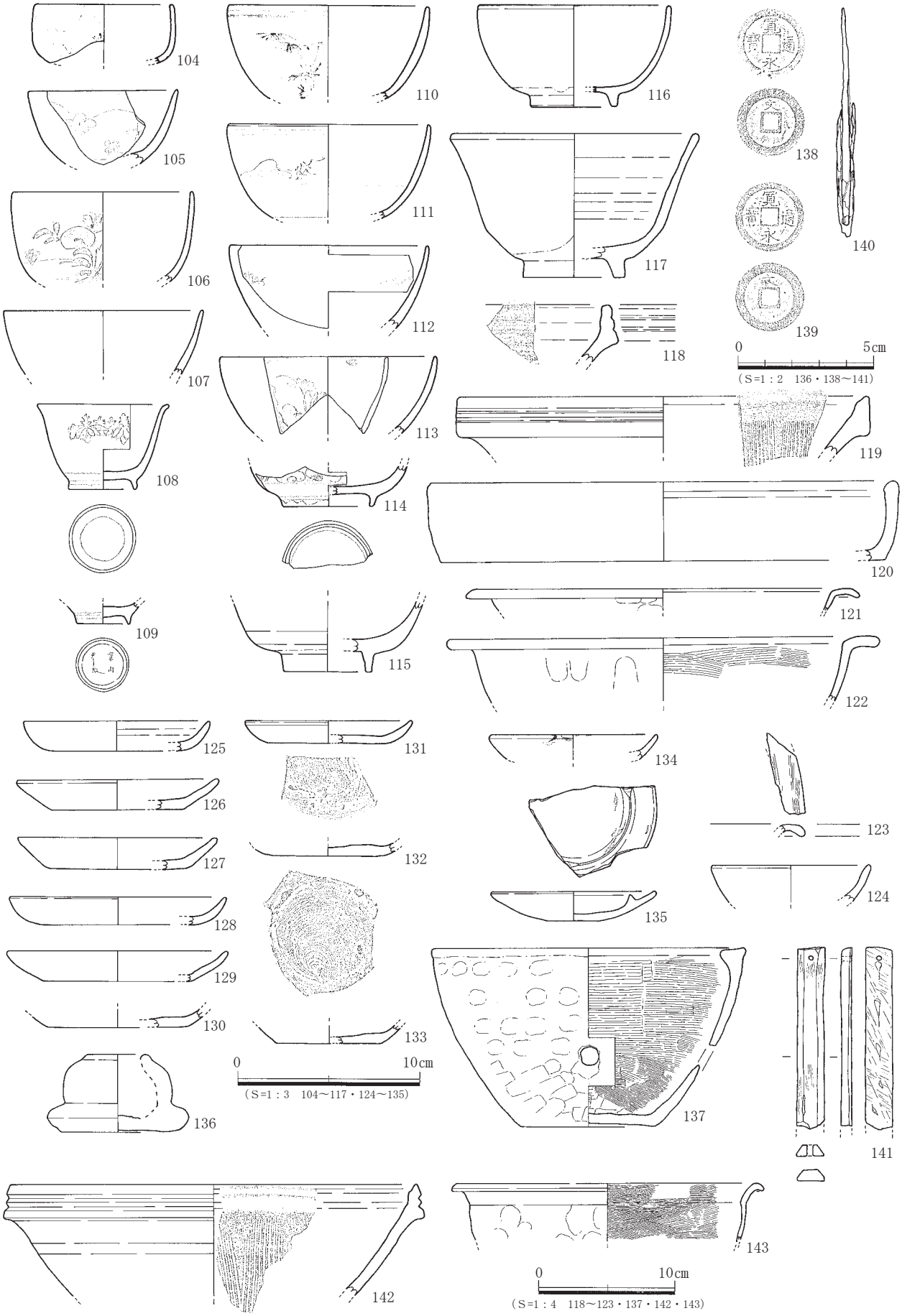
1:2.5Y4/2 暗灰黄色極細砂
（炭化物・土器多く含む）



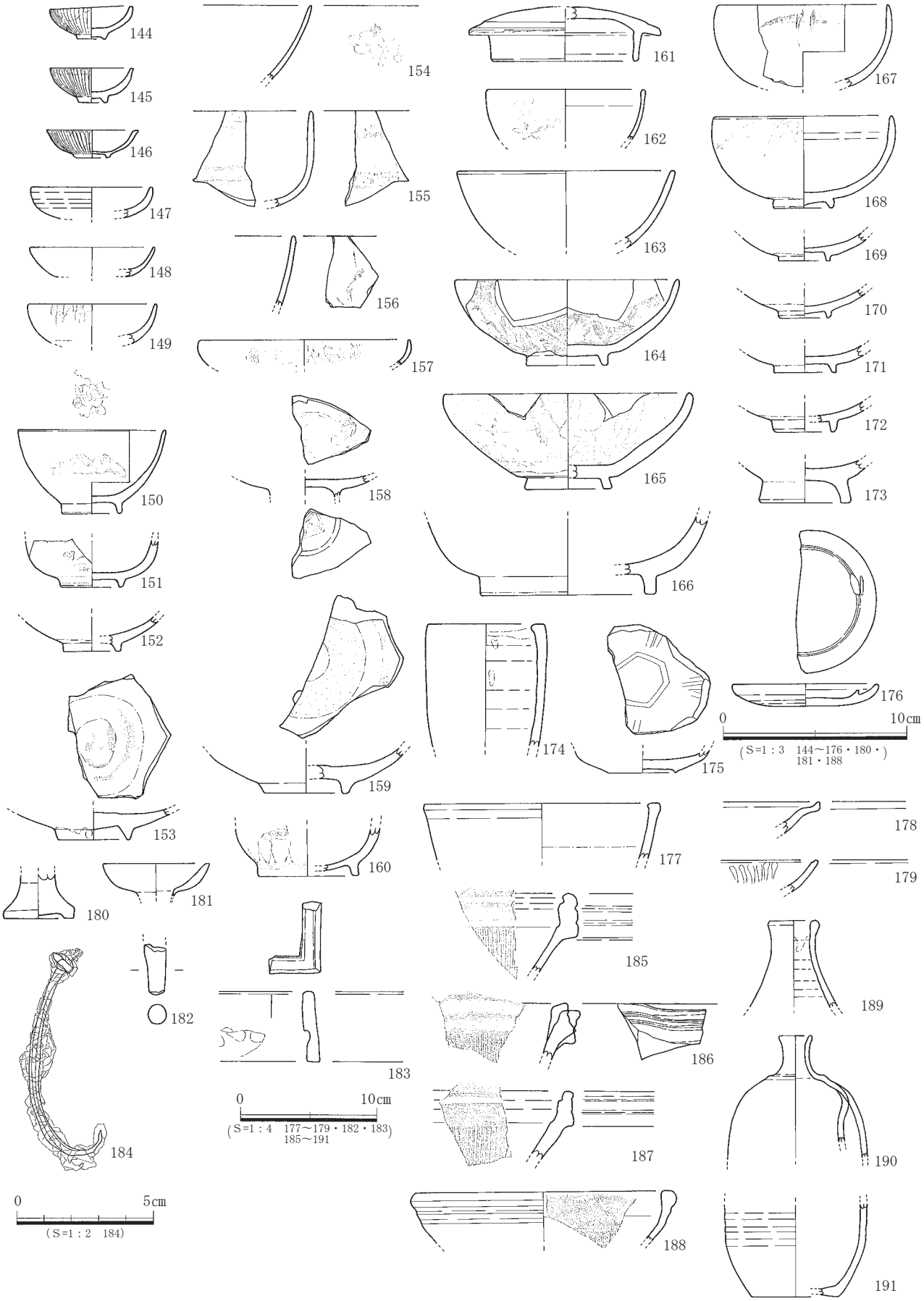
1:2.5Y4/2 暗灰黄色極細砂
（炭化物・土器多く含む）

（S＝1／40）

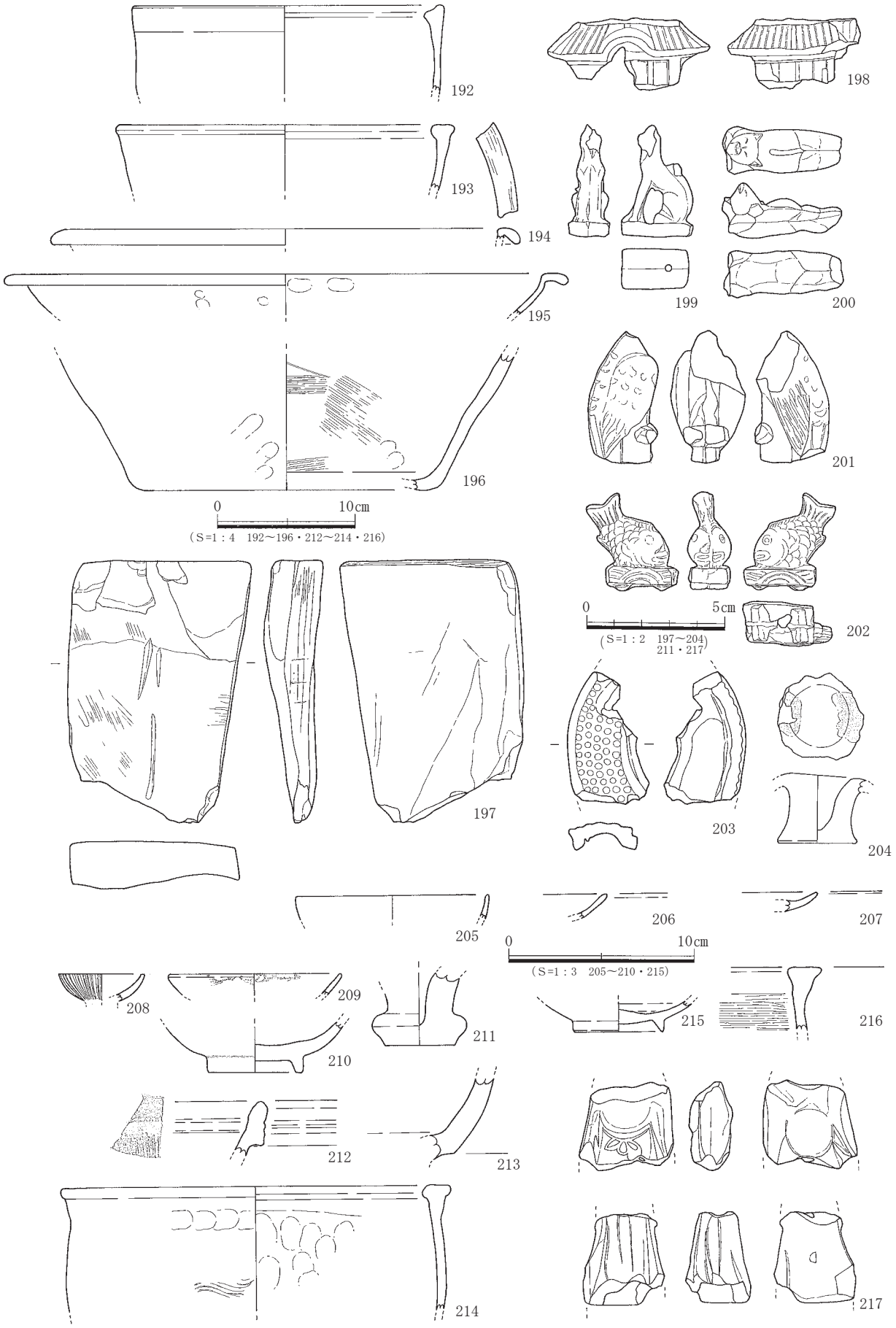
第 12 図　A 区土坑平・断面図②



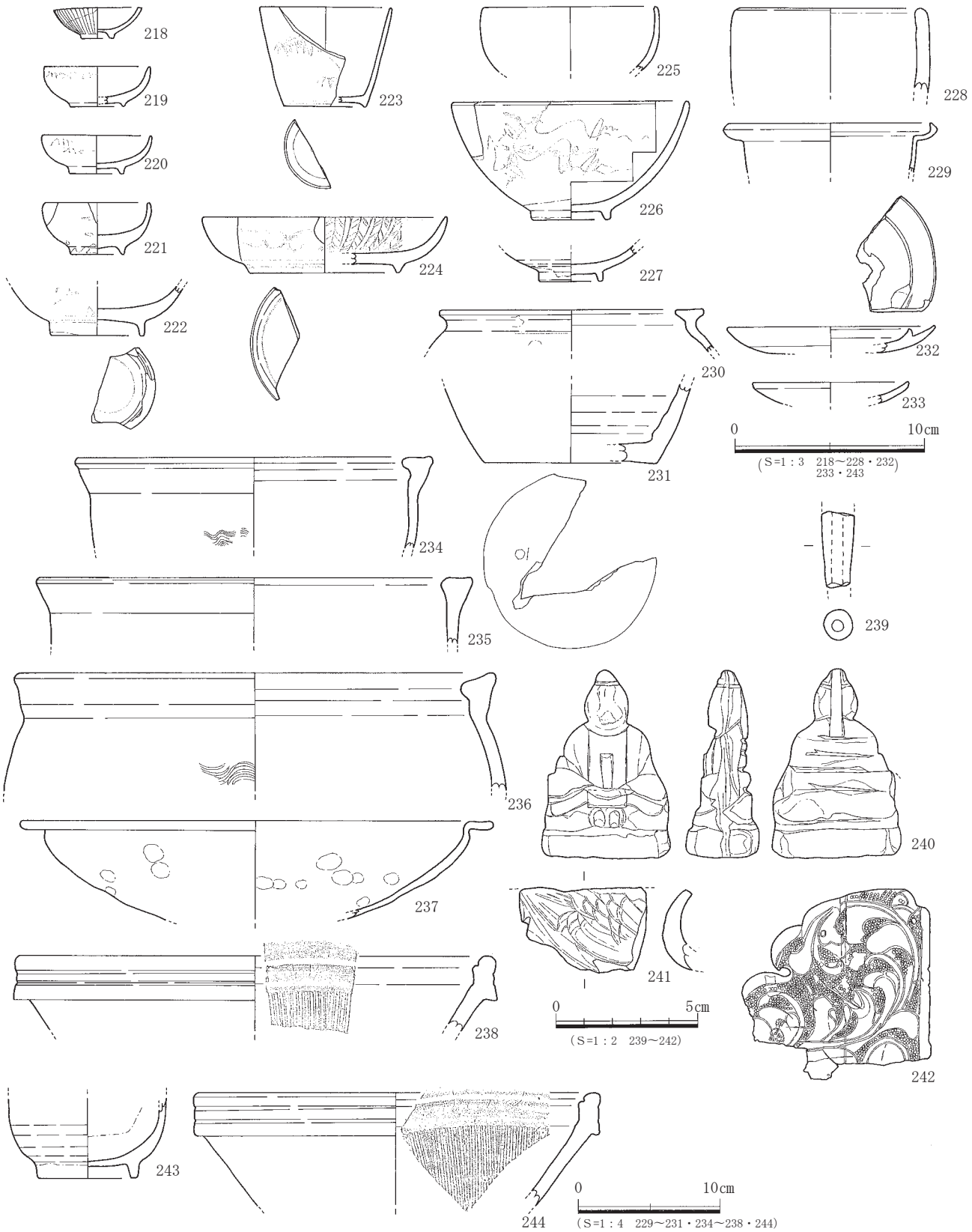
第13図　A区出土遺物⑤



第 14 図　A 区出土遺物⑥

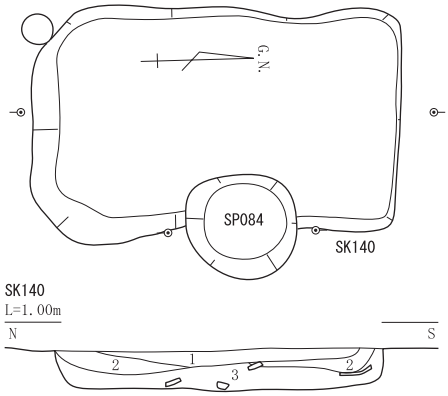


第 15 図　A 区出土遺物⑦

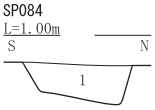


第 16 図　A 区出土遺物⑧

【ASK140/ASP084】

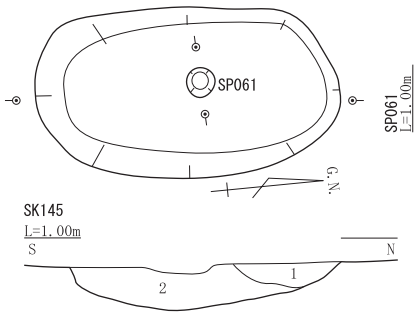


1:2.5Y4/2 暗灰黄色極細砂～細砂（炭化物・土器片含む）
2:2.5Y5/6 黄褐色 +2.5Y4/3　オリーブ褐色極細砂～中砂
3:2.5Y4/1 黄灰色シルト（炭化物・土器・瓦を多く含む）



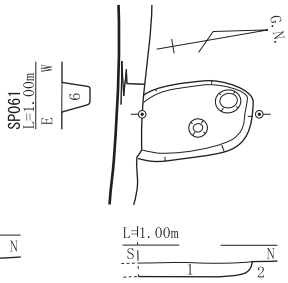
1:10YR3/2 黒褐色砂質土
（炭化物を含む）

【ASK145】



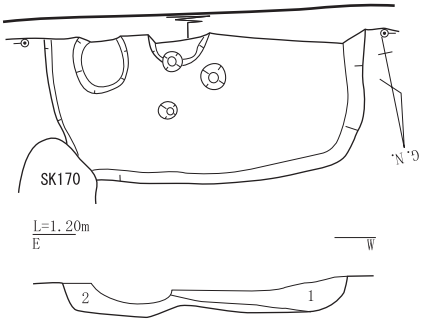
1:2.5Y5/4 黄褐色シルト（2 層を斑に 10%含む）
2:2.5Y3/3 暗オリーブ褐色極細砂～細砂
3:7.5Y3/2 オリーブ黒色砂層

【ASK150】



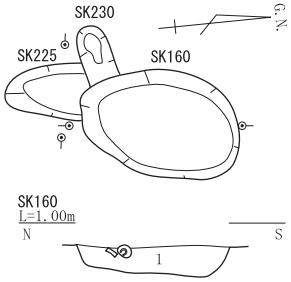
1:2.5Y3/2 黒褐色砂質土（炭化物多く含む）
2:2.5Y5/3 黄褐色シルト～極細砂 +
2.5Y7/6 明黄褐色土を斑状に 20%程度
含む

【ASK155】

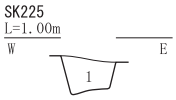


1:2.5Y5/2 暗灰黄色砂
2:10YR6/2 灰黄褐色シルト質土（炭化物・遺物を含む）

【ASK160/225】

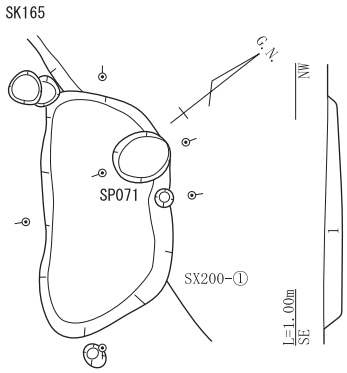


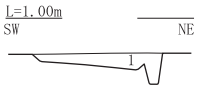
1:2.5Y3/3 暗オリーブ褐色極細砂～細砂
（土器・瓦・炭化物を含む）

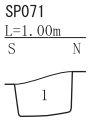


1:2.5Y3/3 暗オリーブ
褐色極細砂

【ASK165/ASP071】

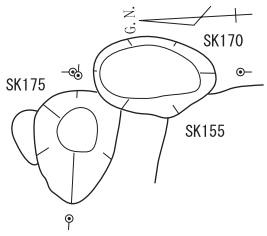


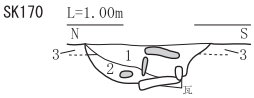




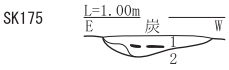
1:2.5Y4/1 黄灰色砂質土
（炭化物を含む）

【ASK170/175】



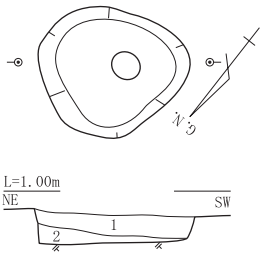


1:2.5Y5/3 黄褐色極細砂～細砂（石・瓦含む）
2:2.5Y7/4 浅黄色粘土混砂層（石含む）
3:2.5Y5/3 黄褐色シルト～極細砂 +2.5Y7/6
明黄褐色土を斑状に 20%程度含む



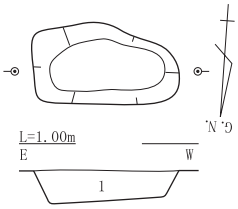
1:2.5Y3/3 暗オリーブ褐色極細砂
（炭化物・瓦・土器を多く含む）
2:2.5Y5/3 黄褐色シルト～極細砂
+2.5Y7/6 明黄褐色土を斑状に
20%程度含む

【ASK185】



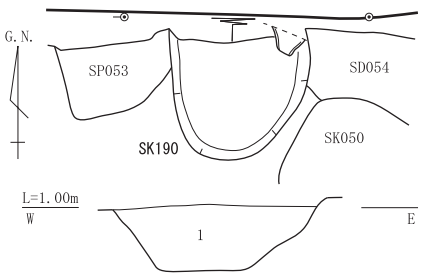
1:5Y6/6 オリーブ色砂質土
2:2.5Y5/3 黄褐色砂

【ASK205】



1:2.5Y4/1 黄灰色砂質土（炭化物を含む）

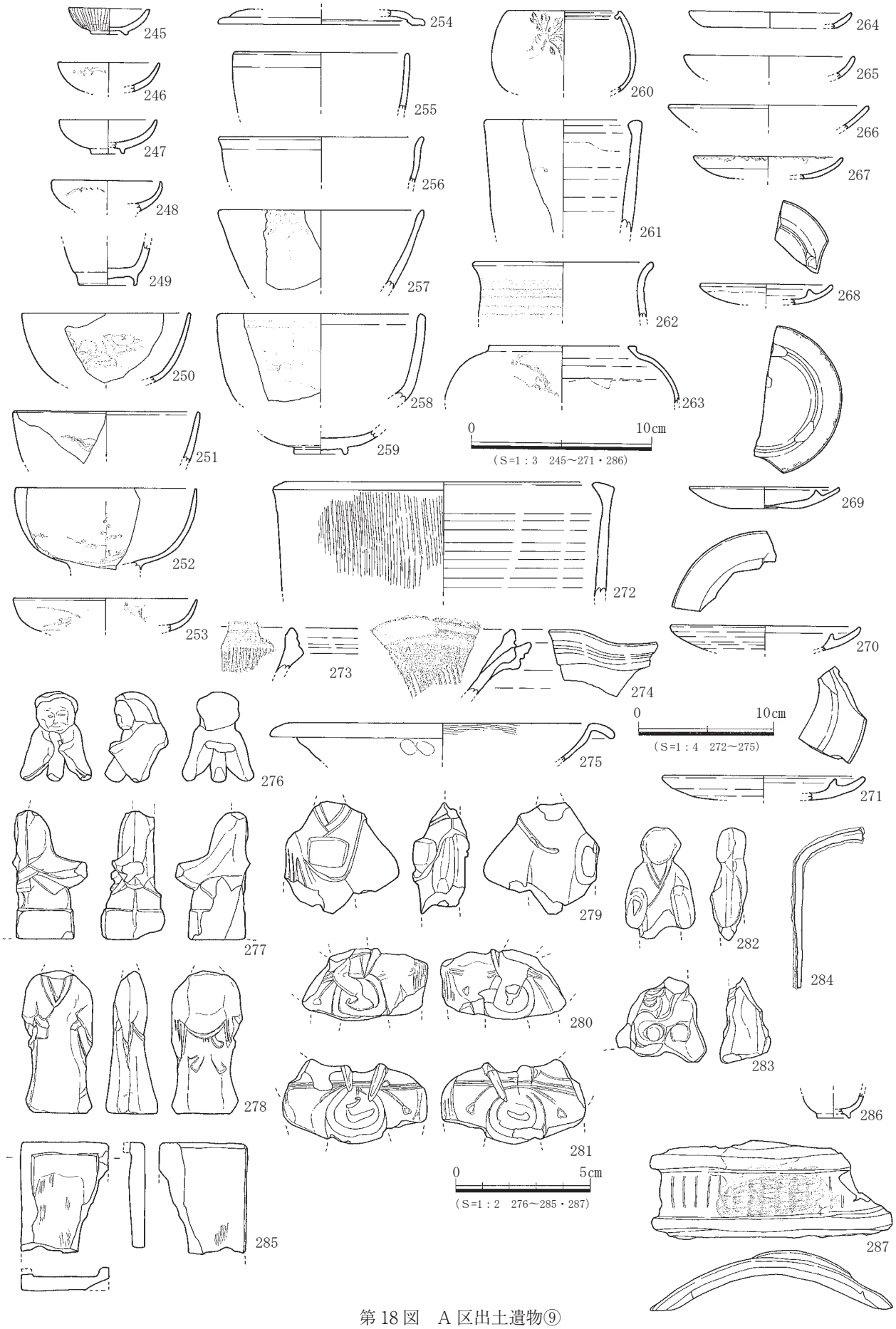
【ASK190】



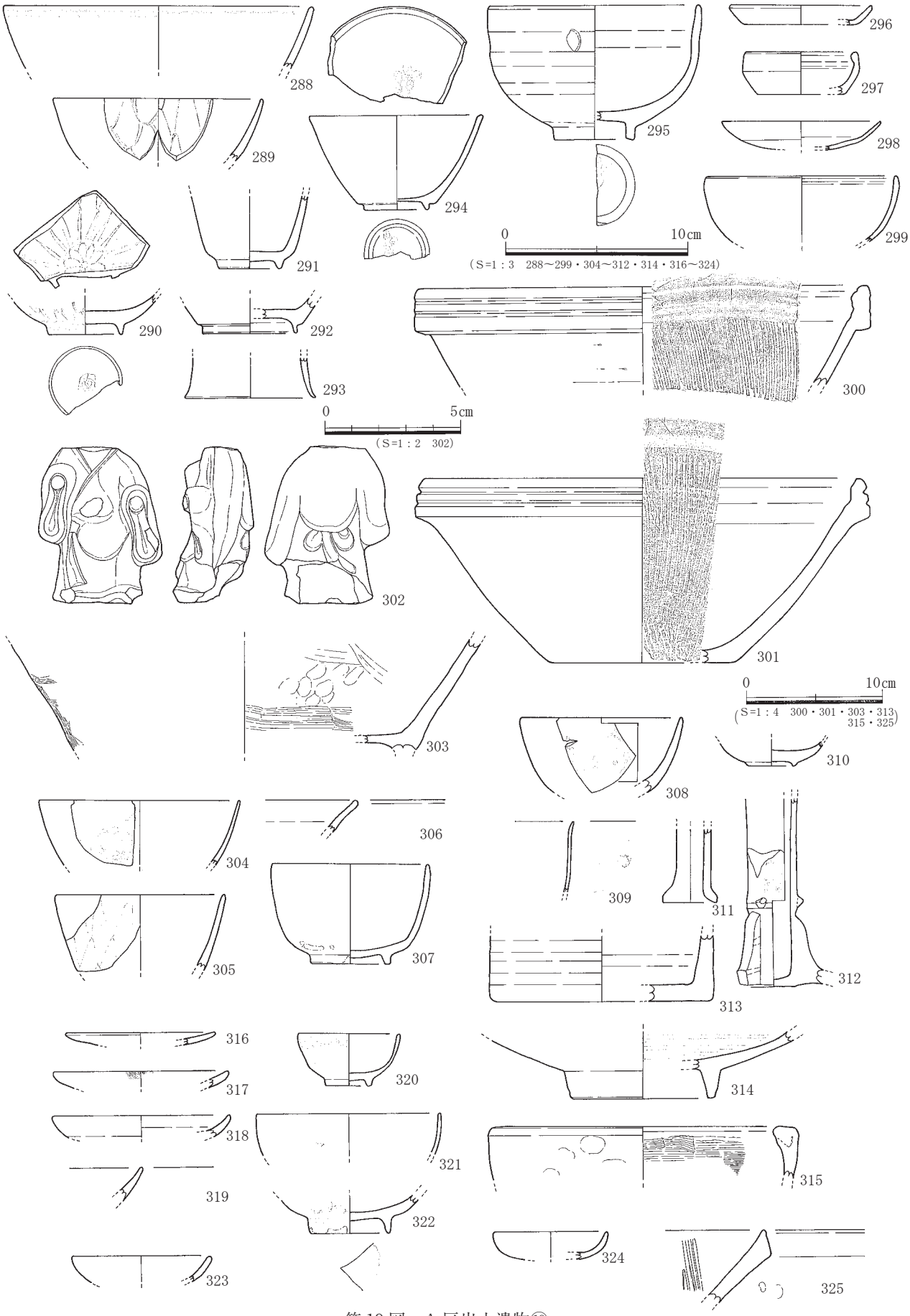
1:2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（炭化物，遺物を含む）

（S＝1／40）

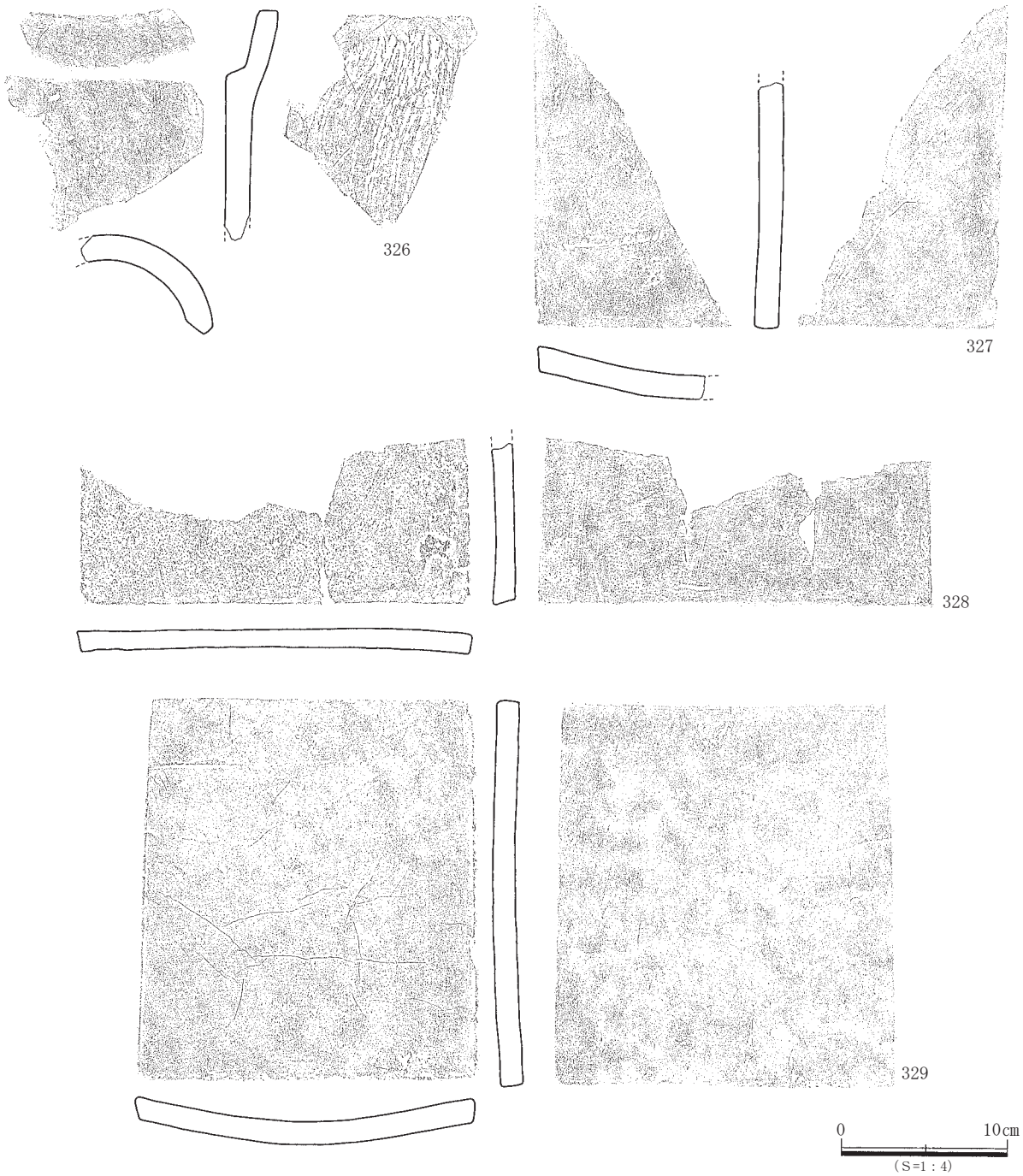
第 17 図　A 区土坑平・断面図③



第 18 図　A 区出土遺物⑨



第19図　A区出土遺物⑩



第 20 図　A 区出土遺物⑪

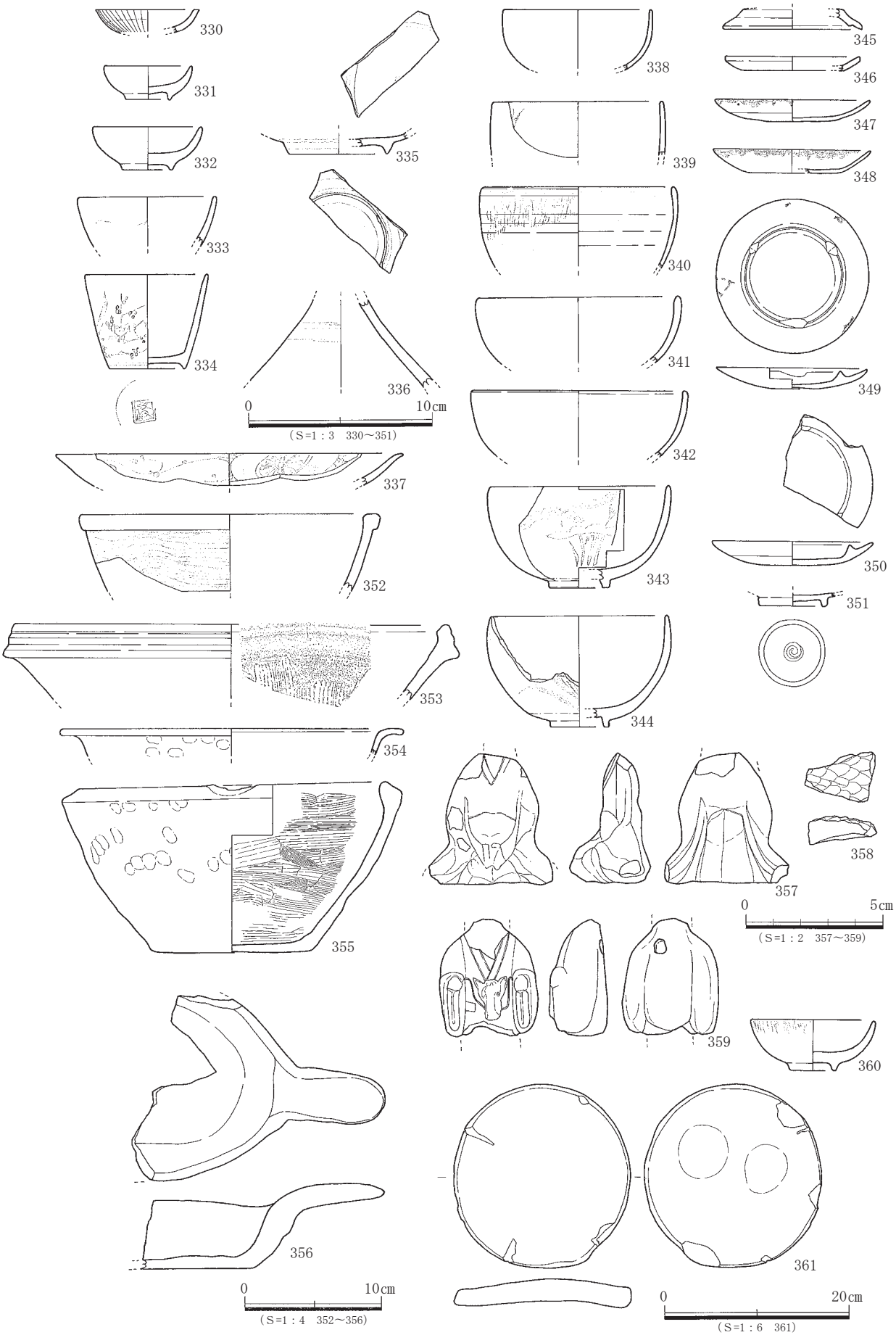
は炭化物を含む褐灰色と灰白色の砂質土で，下層は灰白色細砂である。出土遺物がなく時期は判断できない。

ASK080

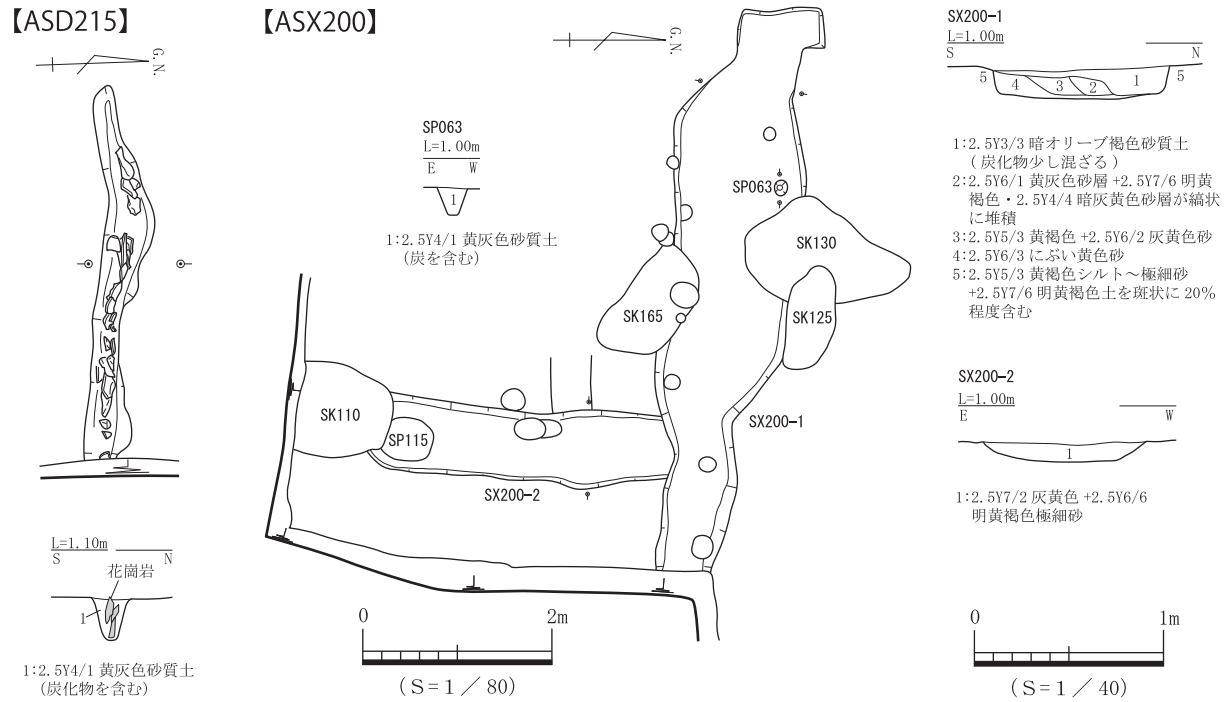
調査区の北側やや中央部より東側に位置する土坑である。直径 0.62m のやや不整形の円形を呈する。西側の一部を SP056 に切られている。深度は 0.2m で，埋土は上層が炭化物を含む褐灰色砂質土で，下層はにぶい黄褐色砂質土に褐灰色砂質土を含む。出土遺物（142 ～ 143）は土師質土器，備前系陶器で，時期は 18 世紀前半である。

ASK090・095

調査区の南東隅部に位置する土坑である。検出当初は同一遺構と認識して掘削を行ったものの，上層に薄く堆積土が堆積していた状況が南側の土層で明らかとなった。そのため，遺構としては別の遺構として報告するも



第 21 図　A 区出土遺物⑫



第 22 図　A 区区画施設・溝　平・断面図

のの，遺物は取り上げが区分できていないため，一括して報告せざるを得ないが，包含状況および土層の観察から SK090 に基本的に帰属するものと考えられる。

いずれも調査区の外側へとのびるため，全形は不明であるが，現存で SK090 は長さ 1.7m，幅 0.63m の隅丸方形，SK095 は計測不能であるが円形状を呈すると考えられる。SK090 の深度は 0.25m で埋土が土器片などを多量に含む黒褐色シルトもしくは細砂である。SK095 は深度 0.16m で埋土はオリーブ黒色砂である。出土遺物（218 ～ 242，735，742）は土師質土器，肥前系陶磁器，京焼系陶器，瀬戸美濃系陶器，備前系陶器，軒平瓦，針金で，時期は 19 世紀である。

ASK100

調査区の南東隅に位置する土坑である。長さ 1.16m，幅 0.65m の東西方向に長い隅丸方形を呈する。北西隅を SP052 によって切られている。深度は 0.2m で，埋土は暗灰黄色砂質土である。出土遺物（245 ～ 285）は土師質土器，肥前系陶磁器，瀬戸美濃系陶器，京信楽系陶器，京焼系陶器，備前系陶器，土製玩具，硯，鉄釘で，時期は 19 世紀である。

ASK105

調査区の南東部に位置する土坑である。長さ 2 m，幅 1.28m のやや不整形な隅丸方形を呈する。深度は 0.26m で，埋土は炭化物を含む黒褐色土である。出土遺物（144 ～ 204，738，740）は土師質土器，肥前系陶磁器，瀬戸美濃系陶器，京焼系陶器，京信楽系陶器，備前系陶器，土製玩具，砥石，軒丸瓦，鉄滓で，時期は 18 世紀後半である。

ASK110

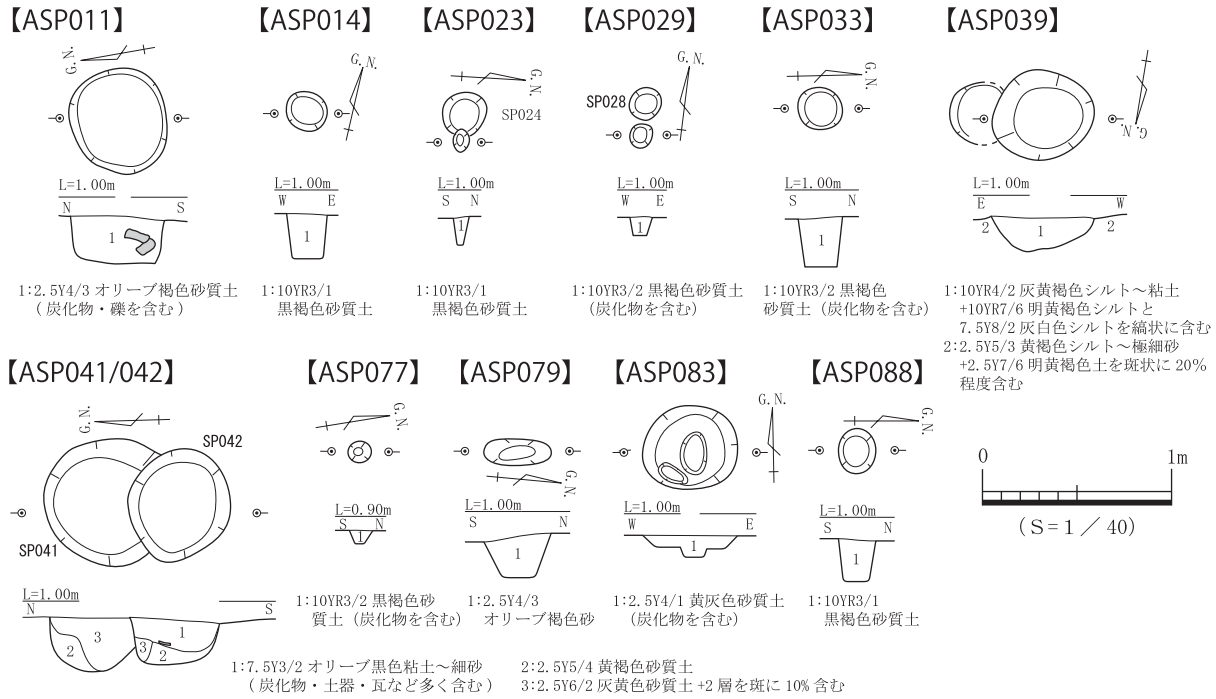
調査区南東隅に位置する土坑である。SK115 を切り，さらに調査区南側へとのびるため，全形は不明であるが，中央部分が広がる隅丸方形を呈するものと考えられる。現存で長さ 1 m，幅 0.96m を測る。深度は 0.18m で，埋土は黒褐色シルトもしくは極細砂で，最下層に炭化物が薄く堆積している。出土遺物（215 ～ 217）は土師質土器，陶器，土製玩具で，時期は限定できない。

ASK115

調査区南東隅に位置する土坑である。南側を SK110 に切られ，全形は不明であるが隅丸方形を呈すると考えられる。現存で長さ 0.5m，幅 0.45m を測る。深度は 0.2m で，埋土は炭化物を多量に含む暗灰黄色砂質土である。出土遺物（208 ～ 214）は土師質土器，瀬戸美濃系陶器，備前系陶器で，時期は限定できない。

ASP072

調査区南東隅の SK110 西側に位置し，直径 0.18m の



第 23 図　A 区ピット平・断面図

円形を呈するピットである。深度 0.34m で，埋土は暗灰黄色砂質土である。出土遺物がなく時期は判断できない。

ASK125

調査区中央部やや東側に位置し，楕円形を呈する土坑である。SK130 と切りあっており，検出状況ではその切り合い関係がやや不明瞭であったが，一段下げると SK125 が SK130 を切っていることが判明した。多量の瓦が出土しており，瓦の廃棄土坑と考えられる。南側を SX200 に切られているが，ほぼ全形をとどめており，長さ 1.13m，幅 0.53m の楕円形を呈する土坑である。深度は 0.28m で，埋土は遺物を多量に含む黒褐色の砂混じり粘土である。出土遺物（101，102，105，106，111，113 ～ 117，120，123 ～ 130，133，135，138，139，141）は土師質土器，肥前系陶磁器，京信楽系陶器，備前系陶器，銭，骨角器，平丸瓦で，時期は 17 世紀後半から 18 世紀前半である。

なお，104，107 ～ 110，112，118 ～ 122，128，131 ～ 132，134，136 ～ 137，140 は切り合い関係を確認する際に一段下げを行った際に出土した遺物である。

ASK220

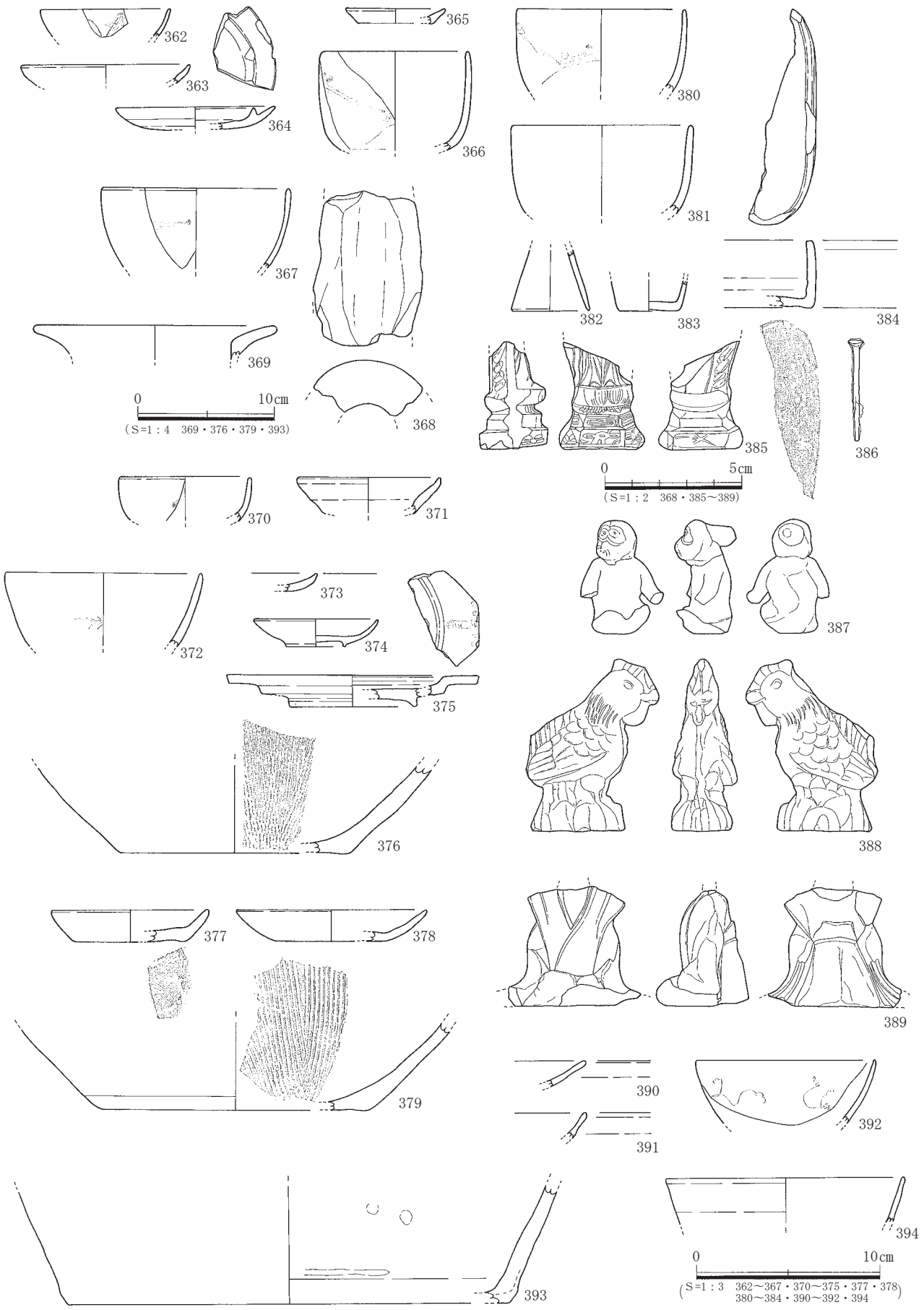
調査区南西に位置する土坑で，長さ 0.96m，幅 0.57m のややいびつな楕円形を呈する。深度は 0.18m で，埋土は炭化物および遺物を多量に含む暗灰黄色極細砂である。出土遺物（286，287）は肥前系磁器，土製玩具で，時期は限定できない。

ASK140

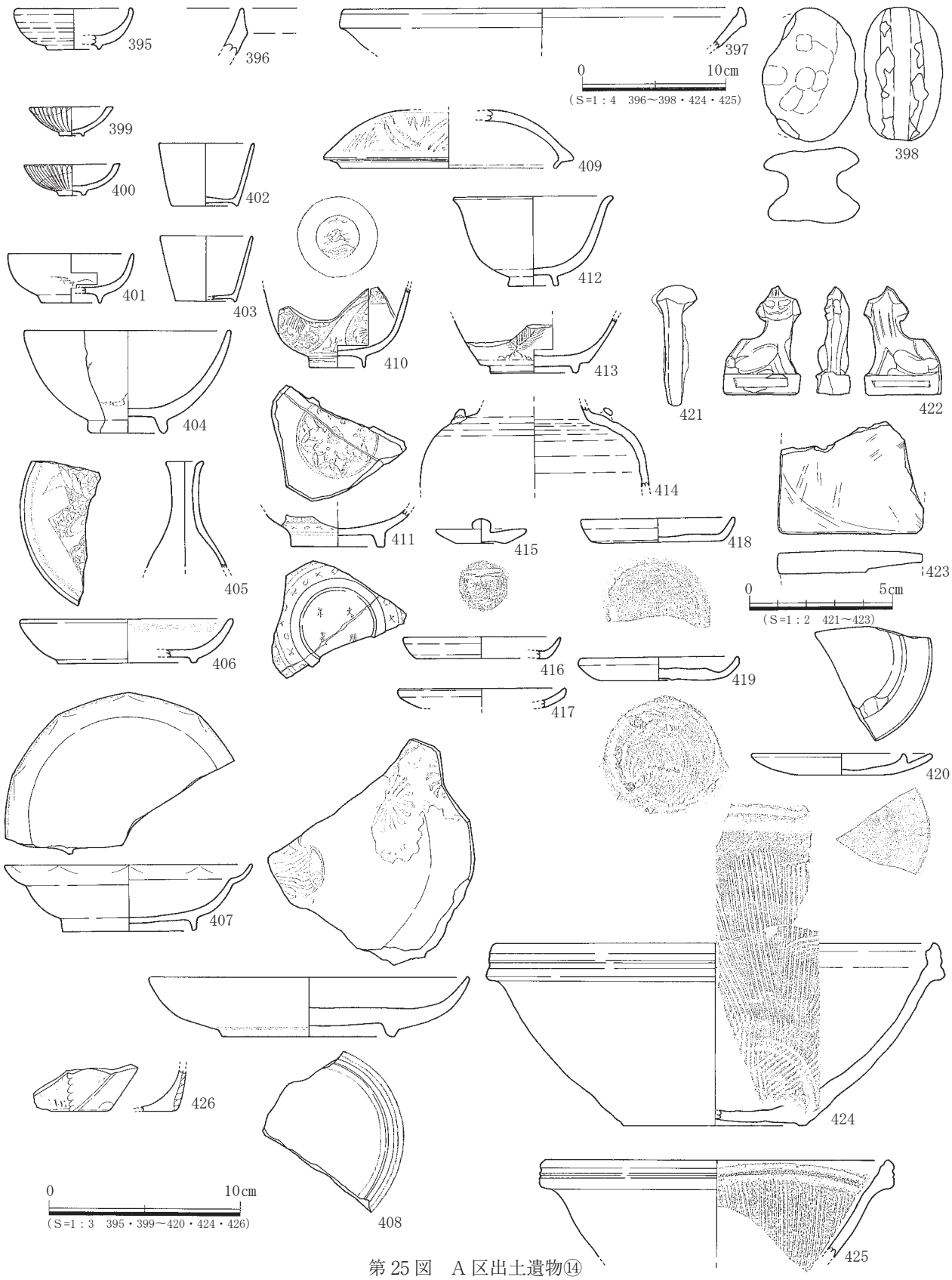
調査区東側ほぼ中央に位置する土坑で，長さ 1.94m，幅 1.16m の隅丸方形を呈する。深度は 0.22m で，埋土は３層に区分でき，上から炭化物および遺物を含む暗灰黄色極細砂／細砂，黄褐色極細砂／砂の中にオリーブ褐色極細砂／砂も含む，炭化物および遺物を多量に含む黄灰色シルトである。SP084 に切られている。出土遺物（329 ～ 359，743）は土師質土器，肥前系陶磁器，京焼系陶器，京信楽系陶器，備前系陶器，土製玩具，軒平瓦，平瓦で，時期は 19 世紀である。

ASP084

調査区東側ほぼ中央に位置する SK140 の東側中央部を切っているピットである。直径 0.55m の隅丸方形に近い円形を呈する。深度は 0.2m で，埋土は炭化物を含む黒褐色砂質土である。出土遺物（387 ～ 388）は土製玩具で時期は限定できない。



第 24 図　A 区出土遺物⑬



第 25 図　A 区出土遺物⑭

ASK145

調査区中央やや南よりに位置する土坑である。長さ 1.62m，幅 0.91m の楕円形を呈する。深度は 0.26m で，埋土は南北でやや異なり，北側が黄褐色シルト，南側が暗オリーブ褐色極細砂である。出土遺物（368）は鞴の羽口で，時期は判断できない。

SK150

調査区南側の中央よりやや東側に位置する土坑である。さらに調査区南側へとのびるため，全形は不明であるが隅丸方形と考えられる。現存で長さ 0.6m，幅 0.4m である。深度は 0.08m で，埋土は炭化物を多く含む黒褐色砂質土である。出土遺物（323）は土師質土器で，時期は限定できない。

ASK155

調査区南東隅部に位置する土坑である。SK170 に北東隅部を切られ，さらに調査区南側へとのびるため，全形は不明であるが隅丸方形を呈するものと考えられる。現存で長さ 1.7m，幅 0.8m である。深度は 0.15m で，埋土は東西で異なり，西側は暗灰黄色砂で，東側が炭化物を含む灰黄褐色シルト質土である。出土遺物（304 ～ 307）は土師質土器，肥前系陶器，京信楽系陶器で時期は 17 世紀後半から末である。

ASK160

調査区南東隅部に位置する土坑である。長さ 0.88m，幅 0.64m の楕円形を呈する。深度は 0.26m で，埋土は炭化物および遺物を含む暗オリーブ褐色極細砂である。SK225，SK230 を切っている。出土遺物（316 ～ 322，326）は土師質土器，肥前系磁器，丸瓦，時期は限定できない。

ASK225

調査区南東隅部に位置する土坑である。一部を SK160 に切られており，全形を知ることはできないが楕円形を呈すると考えられる。現存で長さ 0.47m，幅 0.3m を測る。深度は 0.2m で，埋土は暗オリーブ褐色極細砂である。出土遺物（380 ～ 386，731，733）は土師質土器，肥前系磁器，瀬戸美濃系陶器，備前系陶器，土製玩具，鉄釘で時期は 19 世紀である。

ASK165

調査区南東隅部に位置する土坑である。一部 SP071 に切られているが，長さ 1.3m，幅 0.68m の隅丸台形を呈する。深度は 0.08m で，埋土は炭化物を含む黄灰色砂質土である。出土遺物（362 ～ 364）は土師質土器，肥前系磁器，備前系陶器で，時期は限定できない。

ASP071

調査区南東隅部に位置するピットで，SK165 を切っている。長さ 0.3m，幅 0.25m の楕円形を呈する。深度は 0.22m で，埋土は炭化物を含む黄灰色砂質土である。出土遺物（324）は肥前系磁器で，時期は限定できない。

ASK170

調査区南東隅部に位置する土坑で，SK155，SK175 を切っている。長さ 0.65m，幅 0.4m の楕円形を呈する。深度は 0.22m で，埋土は円礫および遺物を含む黄褐色砂質土である。出土遺物（360 ～ 361）は肥前系磁器，備前系陶器で，時期は 17 世紀後半から 18 世紀前半である。

ASK175

調査区南東隅部に位置する土坑である。一部を SK170 に切られているが，長さ 0.6m，幅 0.45m の隅丸三角形を呈する。深度は 0.12m で，埋土は炭化物および遺物を多量に含む暗オリーブ褐色極細砂である。出土遺物（367 ～ 368）は肥前系磁器，弥生土器で，時期は限定できない。

ASK185

調査区南西に位置する土坑で，一辺が大よそ 0.74m の隅丸三角形状を呈する。深度は 0.1m で，埋土はオリーブ色砂質土である。出土遺物（288 ～ 303，327）は肥前系磁器，京信楽系陶器，備前系陶器，土製玩具，平瓦で，時期は 18 世紀前半である。

ASK190

調査区北側中央に位置する土坑である。調査区北側にさらにのびるため全形は不明であるが，現存で長さ 0.62m，幅 0.74m の楕円形を呈すると考えられる。深度は 0.35m で，埋土は炭化物および遺物を含む暗灰黄色砂質土である。出土遺物（365 ～ 366）は土師質土器，肥前系磁器で，時期は限定できない。

ASK205

調査区東側中央部に位置する土坑で，長さ 0.78m，幅 0.43m の不整形な隅丸方形を呈する。深度は 0.18m で，埋土は炭化物を含む黄灰色砂質土である。出土遺物（308 ～ 315，328）は土師質土器，肥前系磁器，京信楽系陶器，備前系陶器，平瓦で，時期は 17 世紀末から 18 世紀後半である。

溝

ASD215

調査区東側中央部に位置する溝で，確認できる範囲で２m，幅 0.15 ～ 0.2m を測る。深度 0.2m で，溝の中央部には花崗岩の端材を縦方向に敷き詰めている。埋土は炭化物を含む黄灰色砂質土である。排水施設と考えられるが，近接する SK210 との切りあい関係はなく，この溝自体も調査区外へとのびているため，具体的な構造の詳細は不明である。出土遺物（370）は肥前系磁器で，時期は限定できない。

ASX200

調査区南東隅に位置する溝状遺構で，切り合い関係が認められたが，埋土や掘り方などから関連するものと考え，東西に伸びるものを１，南北に伸びるものを２とした。前者は SK125，130，165 によって切られている。全長３m，幅 0.3 ～ 0.7m の両側が細くなる形態である。後者は北側を前者に，南側を SK110，115 に切られている。全長 1.5m，幅 0.35m で，埋土は灰黄色および明黄褐色極細砂である。機能については不明であるが，区画施設の可能性が想定できる。出土遺物（371）は土師質土器で，時期は限定できない。

ASP063

調査区南東部に位置し，SX200 の中にあるピットで，直径約 0.15m のやや不整形な円形を呈する。深度は 0.14m で，埋土は炭化物を含む黄灰色砂質土である。時期は出土遺物がなく判断できない。

その他の柱穴

ASP011

調査区南西部に位置するピットで，直径約 0.5m のやや不整形な円形を呈する。深度は 0.25m で，埋土は炭化物を含むオリーブ褐色砂質土である。出土遺物（393）は土師質土器で，時期は限定できない。

ASP014

調査区南西部に位置するピットで，SP011 の北側に位置する。直径約 0.25m のやや不整形な円形を呈する。深度は 0.25m で，埋土は黒褐色砂質土である。出土遺物（392）は肥前系磁器で，時期は限定できない。

ASP023

調査区西部の中央に位置するピットで，直径約 0.12m の楕円形を呈する。深度は 0.15m で，埋土は黒褐色砂質土である。SP024 を切る。出土遺物（396）は土師質土器で，時期は限定できない。

ASP029

調査区北西部に位置するピットで，直径約 0.12m のやや不整形な円形を呈する。深度は 0.1m で，埋土は炭化物を含む黒褐色砂質土である。出土遺物（390，391）は土師質土器で，時期は限定できない。

ASP033

調査区北西部に位置するピットで，直径約 0.23m のやや不整形な円形を呈する。深度は 0.25m で，埋土は炭化物を含む黒褐色砂質土である。出土遺物（389）は土製玩具で，時期は限定できない。

ASP039

調査区東側ほぼ中央部に位置するピットで，直径約 0.5m のやや不整形な円形を呈する。深度は 0.17m で，埋土は灰黄褐色シルトもしくは粘土と灰白色シルトを縞状に含む明黄褐色シルトである。時期は出土遺物がなく，判断できない。

ASP041

調査区南部の中央よりやや東側に位置するピットで，直径約 0.68m のやや不整形な円形を呈する。深度は 0.3m で，埋土は炭化物を含むオリーブ褐色砂質土である。SP042 を切っている。出土遺物（377 ～ 379）は土師質土器，備前系陶器で，時期は限定できない。

ASP042

調査区南部の中央よりやや東側に位置するピットで，直径約 0.55m のやや不整形な円形を呈する。深度は 0.23m で，埋土は炭化物を含むオリーブ褐色砂質土である。SP041 を切る。出土遺物（372 ～ 376）は土師質土器，肥前系磁器，瀬戸美濃系陶器，備前系陶器で，時期は 18 世紀前半である。

第 26 図　A 区第 2 遺構面遺構配置図

ASP077

調査区南東部に位置するピットで，直径約 0.1m の円形を呈する。深度は 0.06m で，埋土は炭化物を含む黒褐色砂質土である。SP048 を切る。時期は出土遺物がなく判断できない。

ASP079

調査区東部の中央に位置するピットで，直軸 0.36m，幅 0.14m の南北に長い楕円形を呈する。深度は 0.24m で，埋土は炭化物を含むオリーブ褐色砂である。SK210 を切る。出土遺物（394）は京信楽系陶器で，時期は限定できない。

ASP083

調査区東部の中央部に位置するピットで，直径約 0.5m のやや不整形な円形を呈する。深度は 0.12m で，埋土は炭化物を含む黄灰色砂質土である。出土遺物（398）は土錘で，時期は限定できない。

ASP088

調査区南西部に位置するピットで，直軸約 0.23m，幅 0.18m の東西方向に長い楕円形を呈する。深度は 0.24m で，埋土は黒褐色砂質土である。出土遺物（395）は肥前系磁器で，時期は 18 世紀後半から 19 世紀初頭である。

ii）第２遺構面（第 26 図）

第２遺構面では，不定形な土坑，ピットが散在し，規則的な配置は認められない。下記では遺物が出土した遺構のみ報告する。

土坑（第 27 図）

ASK306

調査区南西部に位置する土坑で，長さ 0.7m，幅 0.6m の隅丸方形を呈する。深度は 0.4m で，埋土は暗灰黄色砂質土で円礫を含む。出土遺物（430）は弥生土器で，時期は弥生時代後期である。

ASK307

調査区南西部に位置する土坑で，長さ 0.6m，幅 0.5m の隅丸三角形を呈する。深度は 0.35m で，埋土は暗灰黄色砂質土で円礫を含む。出土遺物（429）は黒色土器で，時期は 10 世紀後半から末である。

柱穴（第 27 図）

ASP318

調査区中央部に位置する直径 0.4m の円形のピットで，深度は 0.35m で，埋土は上層が灰色砂，下層が灰オリーブ色砂である。内部には木製の曲げ物が残存していたが，側のみで底板状のものは認められなかった。また，この曲げ物は腐敗が著しく取り上げることができなかった。曲げ物の内部には，土師器の小皿が第２層中に埋置されるような状況であった。機能は明らかではないが，廃絶時の祭祀行為と推定される。出土遺物（427）は土師質土器で，時期は判断できない。

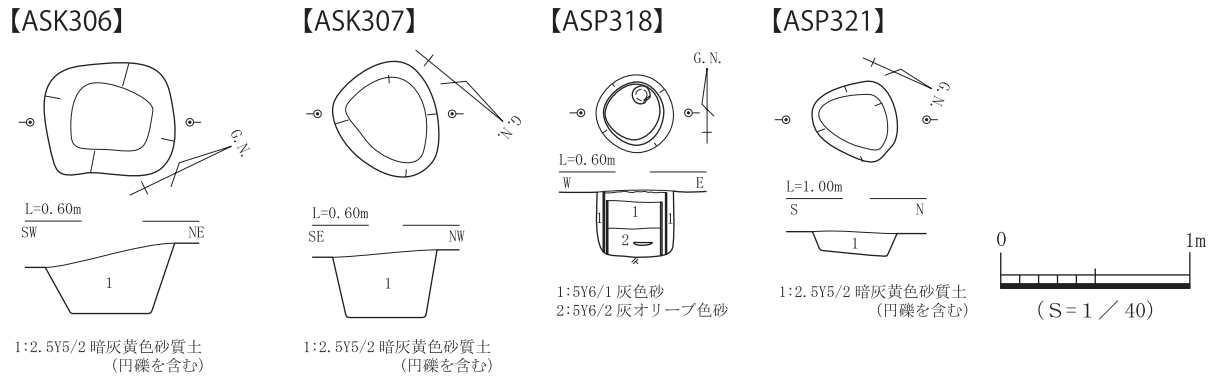
ASP321

調査区南東部に位置するピットで，長さ 0.44m，幅 0.4m の隅丸三角形を呈する。深度は 0.6m で，埋土は暗灰黄色砂質土で円礫を含む。出土遺物（428）は弥生土器高杯で，時期は弥生時代後期である。

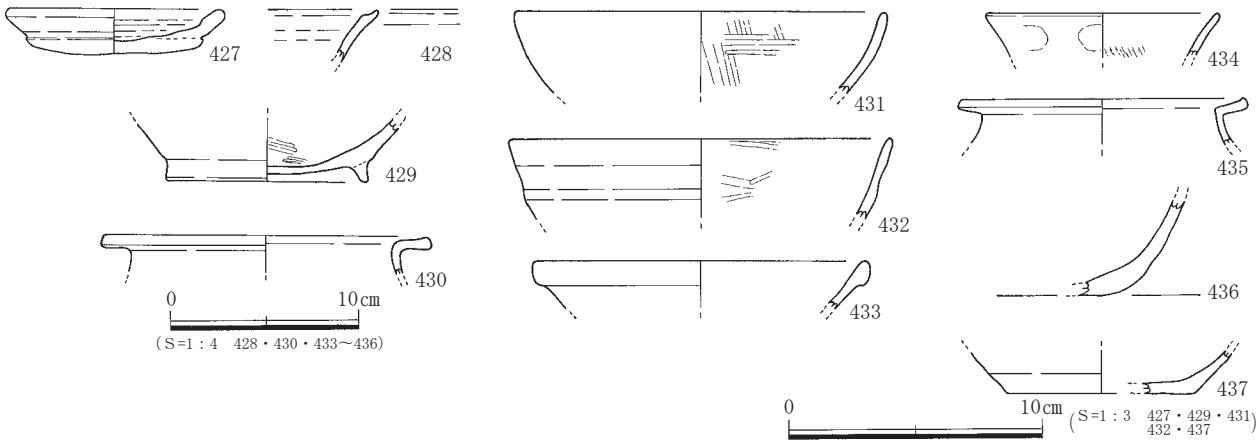
d　小結

第１遺構面は比較的安定した基盤層に遺構が掘り込まれているが，掘り込み深度が浅く，本来はもう少し高い位置から掘り込まれたことが想定される。基本層序，特に直上層の状況から，第１遺構面が造成等に伴い削平を受け，それらの堆積層が遺構面直上層を形成しているため，遺構も本来の姿をとどめていないと考えた方がよさそうである。

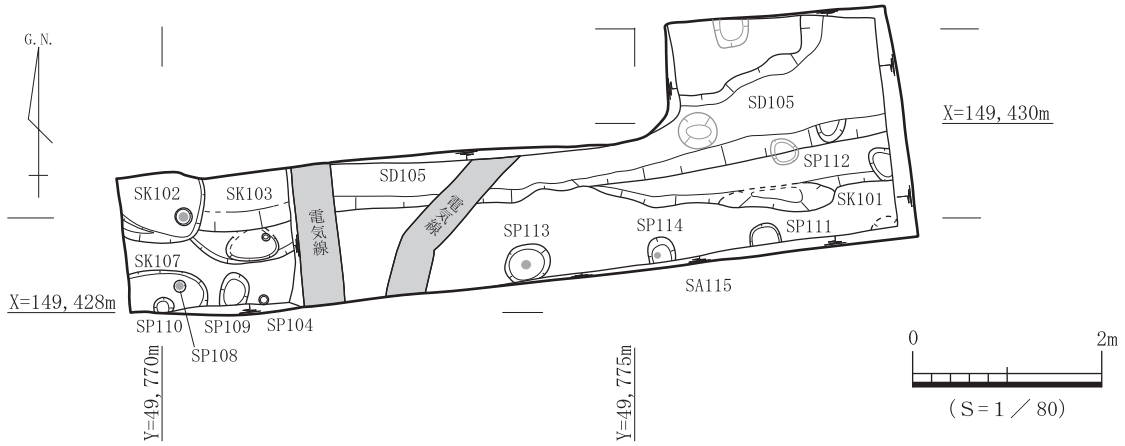
また，廃棄土坑が多く集中する範囲が認められた。具体的な建物配置の復元はできなかったが，建物配置との関係で屋敷地内の機能分割が行われている可能性が想定される。第２遺構面では遺物も希薄で，時期を特定できる遺構は非常に少数であった。以上の成果から生活の痕跡は希薄で，居住域としての土地利用は濃密ではなかったものと考えられる。



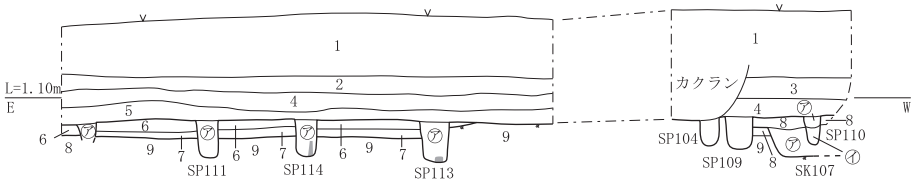
第 27 図　A 区第 2 遺構面土坑およびピット平・断面図



第 28 図　A 区第 2 遺構面土坑およびピット出土遺物



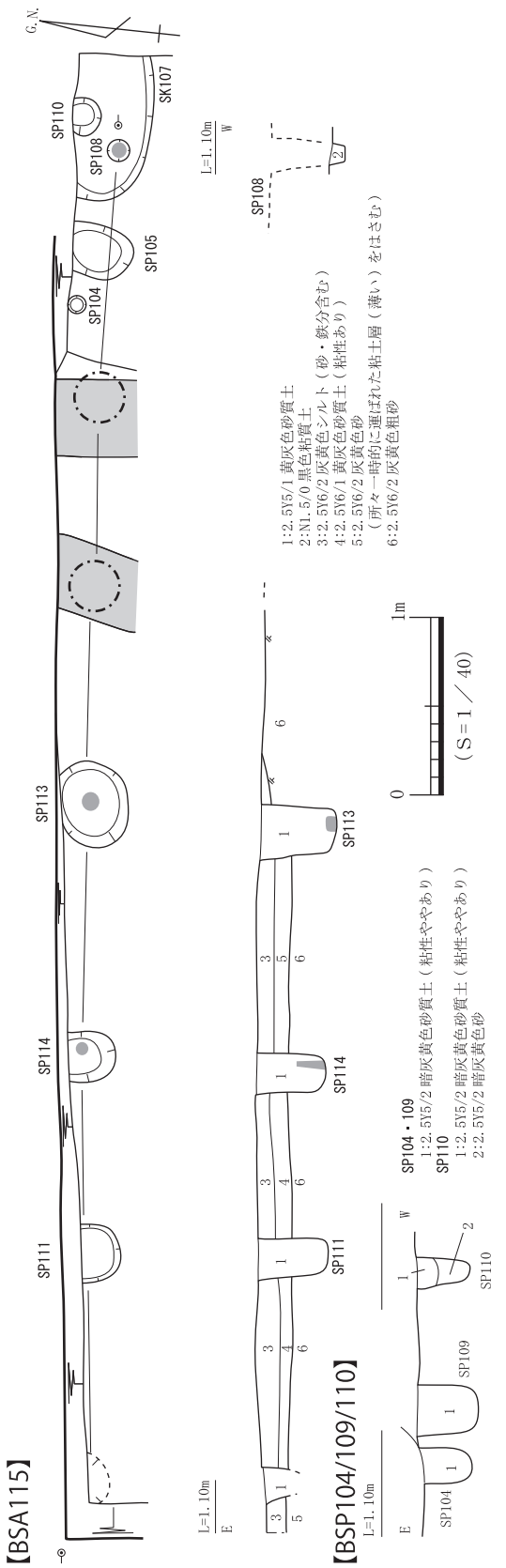
B 区南壁



1: 表土（配管など含む）
2:10YR3/1 黒褐色シルト質土（炭化物・遺物含む）
3:2.5Y6/3 にぶい黄色砂質土
4:2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（粘性ややあり）
5:10YR6/2 灰黄褐色シルト質土（炭化物・遺物を含む）
6:2.5Y6/2 灰黄色シルト（砂・鉄分含む）
7:2.5Y6/1 黄灰色砂質土（粘性あり）
8:2.5Y6/2 灰黄色砂
（所々一時的に運ばれた粘土層（薄い）をはさむ）
9:2.5Y6/2 灰黄色粗砂

SP111・113・114・116
㋐:2.5Y5/1 黄灰色砂質土
SP104・109
2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（粘性ややあり）
SP110
㋐:2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（粘性ややあり）
㋑:2.5Y5/2 暗灰黄色砂
SK107
㋐:2.5Y5/2 暗灰黄色砂

第 29 図　B 区遺構配置図および土層断面図



第30図　B区柵状遺構平・断面図

第２節　B区の調査成果

a　調査概要

B区（第29図）は東西8.4m，南北1.4mで東側がL字を呈する調査区である。水道管，電気線などによって，当初予定していた範囲より大幅に調査区を減らさせざるを得なかった。調査区の北側に東西に走る溝を確認し，それに並行する柱列を確認した。

b　基本層序

第１～３層は近現代以降の整地で，旧校舎建設時およびそれ以降，運動場として利用するに際して行われた造成および補修を行っているようである。第１遺構面を形成する土は第６層の灰黄色シルトで，A区の第７層に相当する。ただし，B区の多くの遺構の状況から，近世に関連する遺構面は第４層以下と考えられる。第２遺構面を形成する土は第９層の灰黄色粗砂である。調査区は狭小であったため，A区のようなピットなどの遺構は僅かしか確認できなかったが，後述するように屋敷地を区画する施設と考えられる遺構を確認した。

c　遺構と遺物

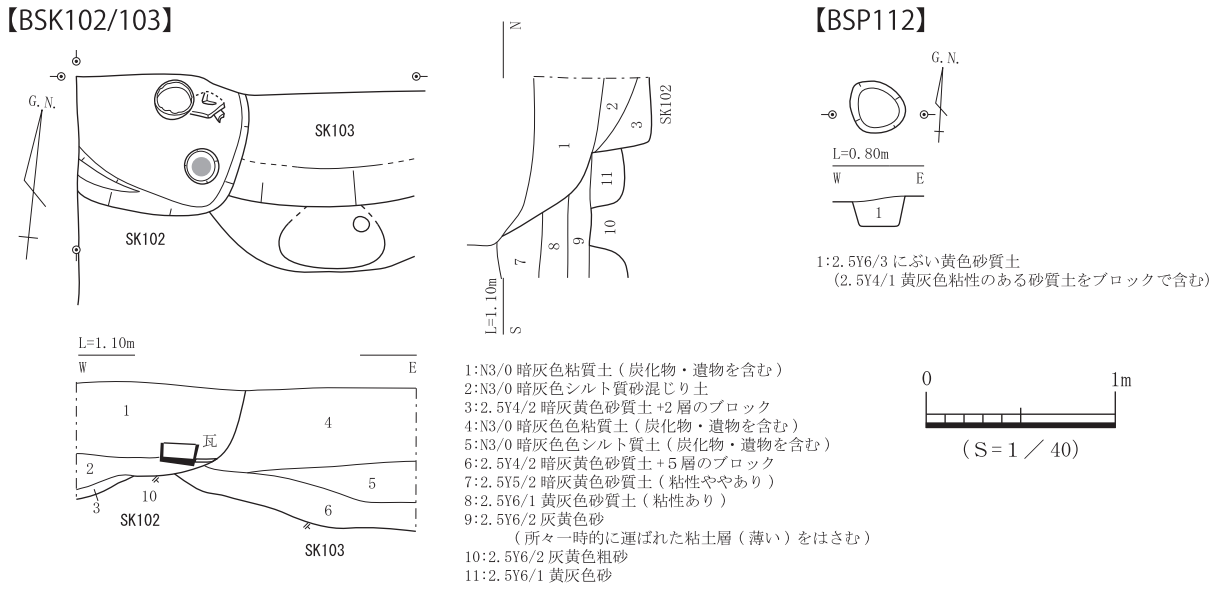
柱列および柱穴

BSA115（SP108，111，113，114）

調査区南側に位置し，東西方向に列状をなすピット群である。建物を構成する可能性も十分想定されるが，現状では建物と想定することができないため，柵列として報告しておく。1.2mの柱間間隔からすると，SP108，111，113，114のほかに電気線の下に柱穴が想定でき，調査区中では７つの柱穴が想定できる。柱穴の直径は0.3～0.5m，深度0.35～0.48mである。SP108，113，114については柱材が残存していた。SD105と平行している点から，敷地の区画施設となる可能性が高い。時期は出土遺物がなく判断できない。

BSP104

調査区西側南壁に接するピットで，掘り込み面は攪乱によって上層が壊されているため不明である。土層から直径0.2m，深度0.24mである。埋土は暗灰黄色砂質土である。時期は出土遺物がなく判断できない。



第 31 図　B 区土坑・ピット平・断面図

BSP109

調査区西側に位置し，調査区南側へと伸びる南北方向に楕円形を呈するピットである。長幅 0.32m，短幅 0.28m を測り，深度は 0.32m である。埋土は暗灰黄色砂質土である。時期は出土遺物がなく判断できない。

BSP110

調査区西側に位置し，調査区南壁へと伸びる直径 0.2m の円形ピットである。深度は 0.3m で，埋土は暗灰黄色砂で，上層はやや粘性がある。時期は出土遺物がなく判断できない。

土坑

BSK102/BSK103

SK102 と SK103 は東端に位置する土坑である。面的に切り合いを確認することが困難で，少しずつ掘削を行ったが，最終的には調査区北壁土層にてその判断を行った。そのため，帰属遺構を区分できなかった遺物がある。SK103 については SD105 の一部の可能性が想定できるが，掘り込み面が異なること，遺物を多量に包含していたこと，SK102 との切り合い関係を重視して，SK103 として報告している。SK102 および SK103 ともに深さ 0.44m が残存している。

SK102 の出土遺物（438 ～ 499，594，732，734，747，748）は土師質土器，瓦質土器，肥前系陶磁器，瀬戸美濃系陶器，京信楽系陶磁器，備前系陶器，土製玩具，軒丸瓦，軒平瓦，丸瓦，鉄釘，等で，時期は 19 世紀である。SK103 の出土遺物（500 ～ 533，569 ～ 582，588 ～ 589）は土師質土器，肥前系磁器，瀬戸美濃系陶器，京信楽系陶器，土製玩具，軒丸瓦，丸瓦，鉄製品，砥石で，時期は 19 世紀である。

この他に 534 ～ 561，584 ～ 585，745 は SK102 ／ 103 の切り合い確認のために一段下げを行った際に出土した遺物である。

BSP112

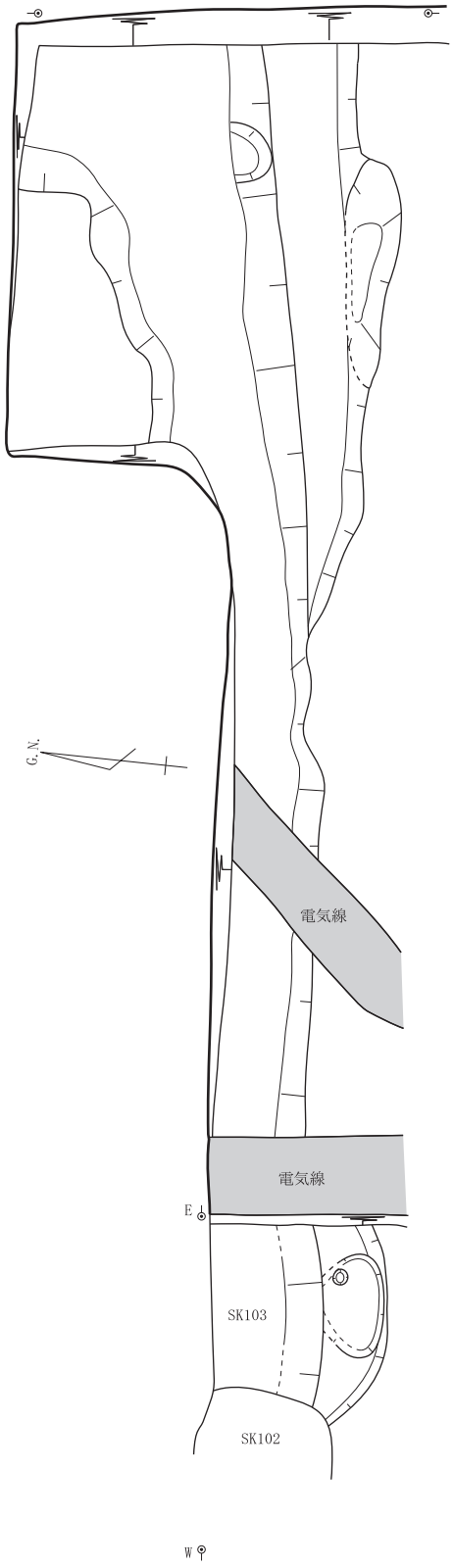
SD105 下層で検出したピットで，第 2 遺構面に伴うものと考えられる。隅丸三角形状を呈し，長幅 0.3m，短幅 0.25m を測る。深度は 0.13m で，埋土はにぶい黄色砂質土である。出土遺物（583）は土師質土器で，時期は限定できない。

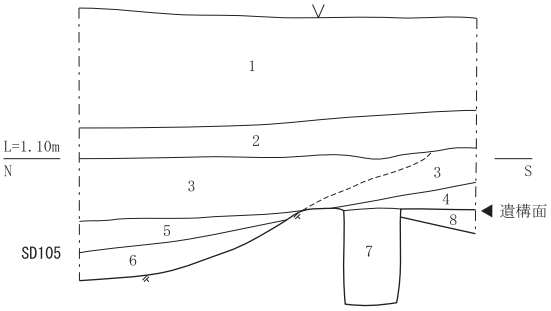
溝

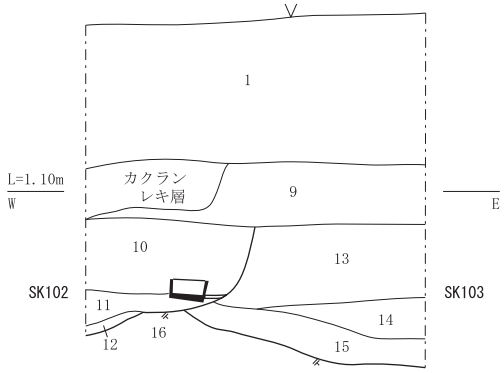
BSD105

これは東西に走る溝で，C 区では確認できなかったことから，B 区の東隅で北へと屈曲しており，調査区外へ伸びていくものと考えられる。埋土は暗灰色粘質土である。先にも述べたように SK103 との関係については SK102 で報告したように，SD105 と同一遺構である可能性があるが，既述のとおり違いも認められ，電気線など

【BSD105】



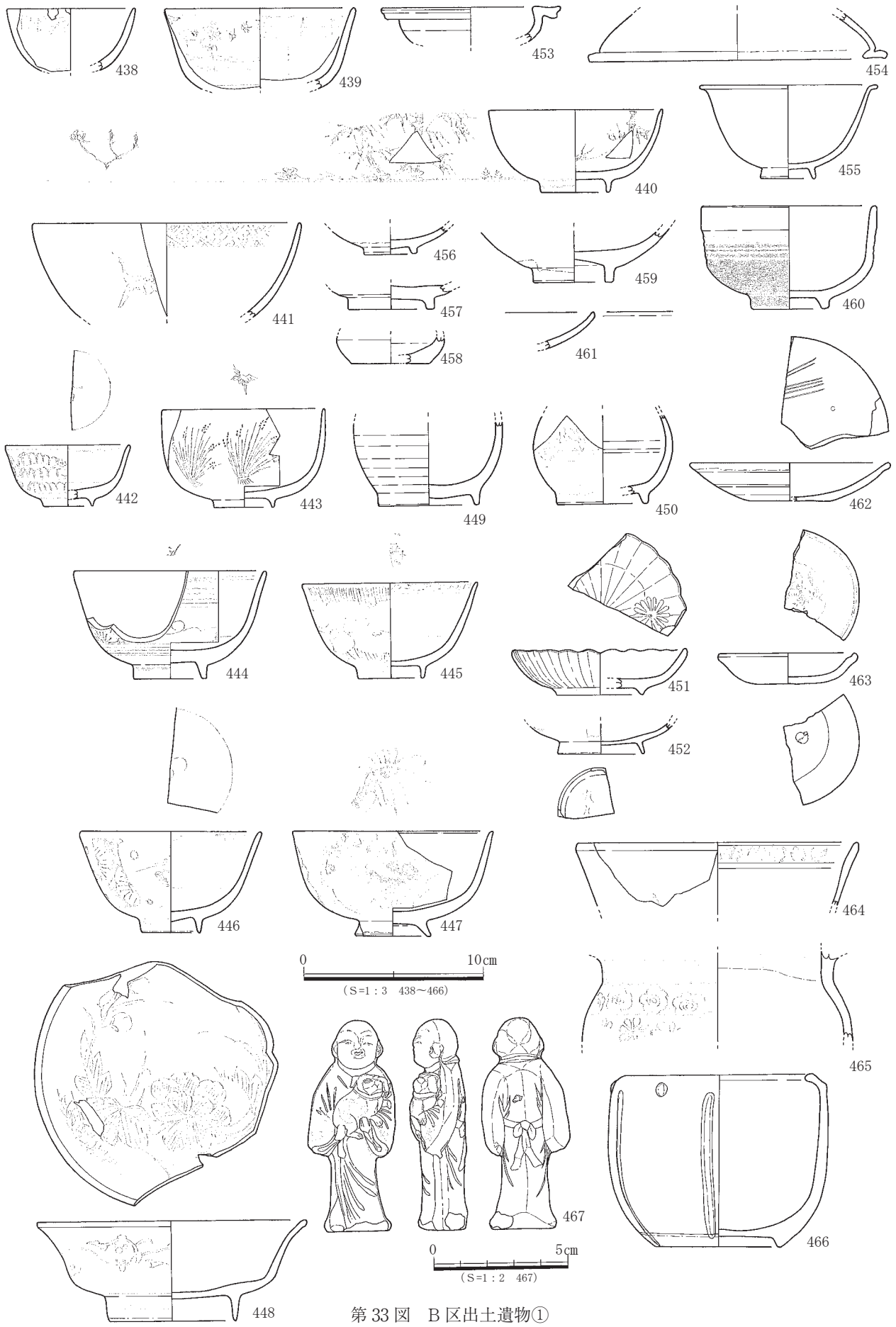




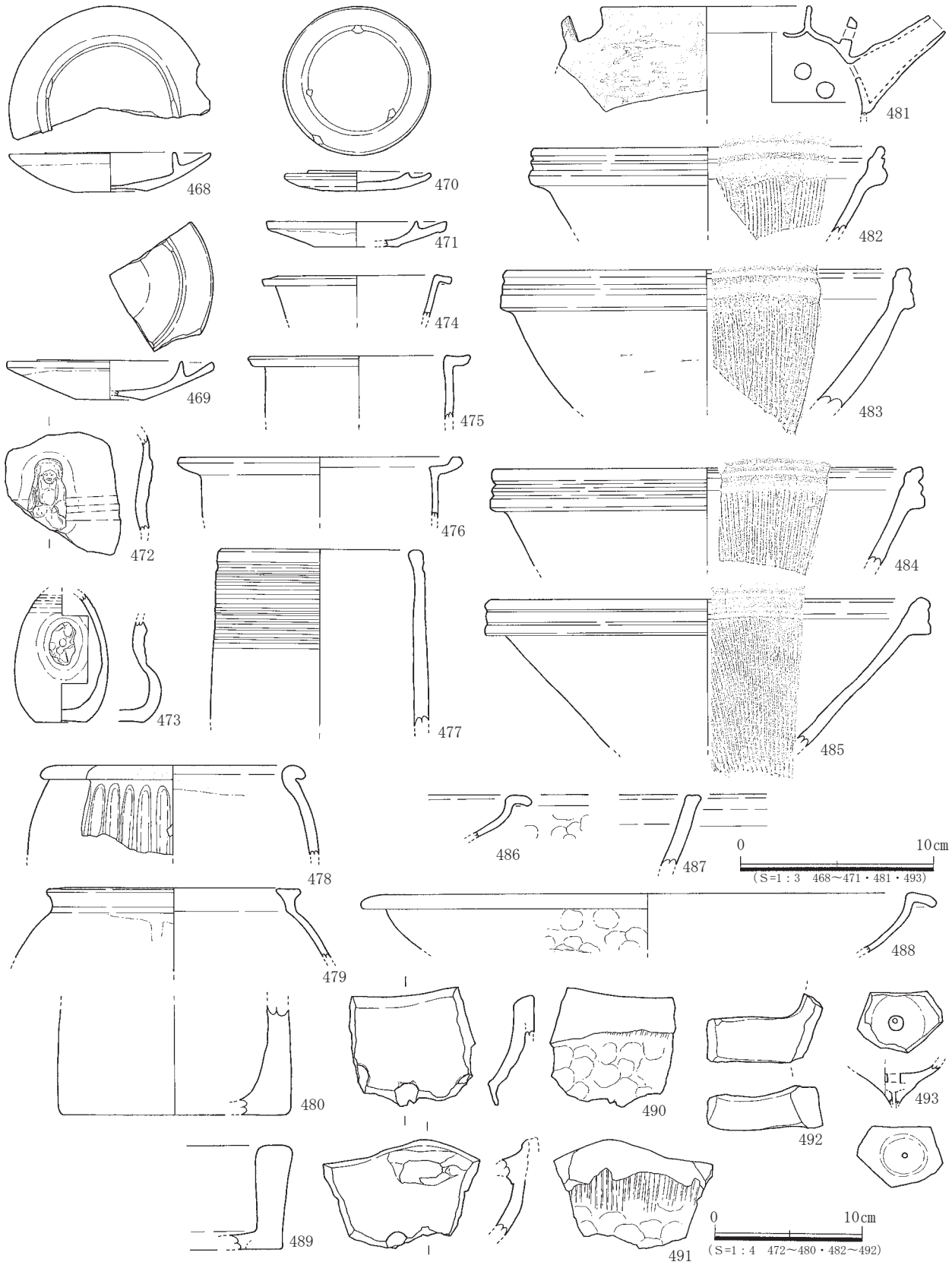
1: 表土（配管など含む）
2:10YR3/1 黒褐色シルト質土（炭化物・遺物）
3:2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（粘性ややあり）
4:10YR6/2 灰黄褐色シルト質土（炭化物・遺物含む）
5:N3/0 暗灰色粘質土+(2.5Y6/2　灰黄色砂ブロックを含む）
6:N3/0 暗灰色粘質土（炭化物・小円礫を含む）
7:2.5Y5/1 黄灰色砂質土
8:2.5Y6/2 灰黄色シルト（砂・鉄分含む）
9:2.5Y6/3 にぶい黄色砂質土
10:N3/0 暗灰色粘質土（炭化物・遺物を含む）
11:N3/0 暗灰色シルト質砂混じり土
12:2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土+11 層のブロック
13:N3/0 暗灰色粘質土（炭化物・遺物を含む）
14:N3/0 暗灰色シルト質土（炭化物・遺物を含む）
15:2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土+14 層のブロック
16:2.5Y6/2 灰黄色粗砂

0　1m
（S＝1／40）

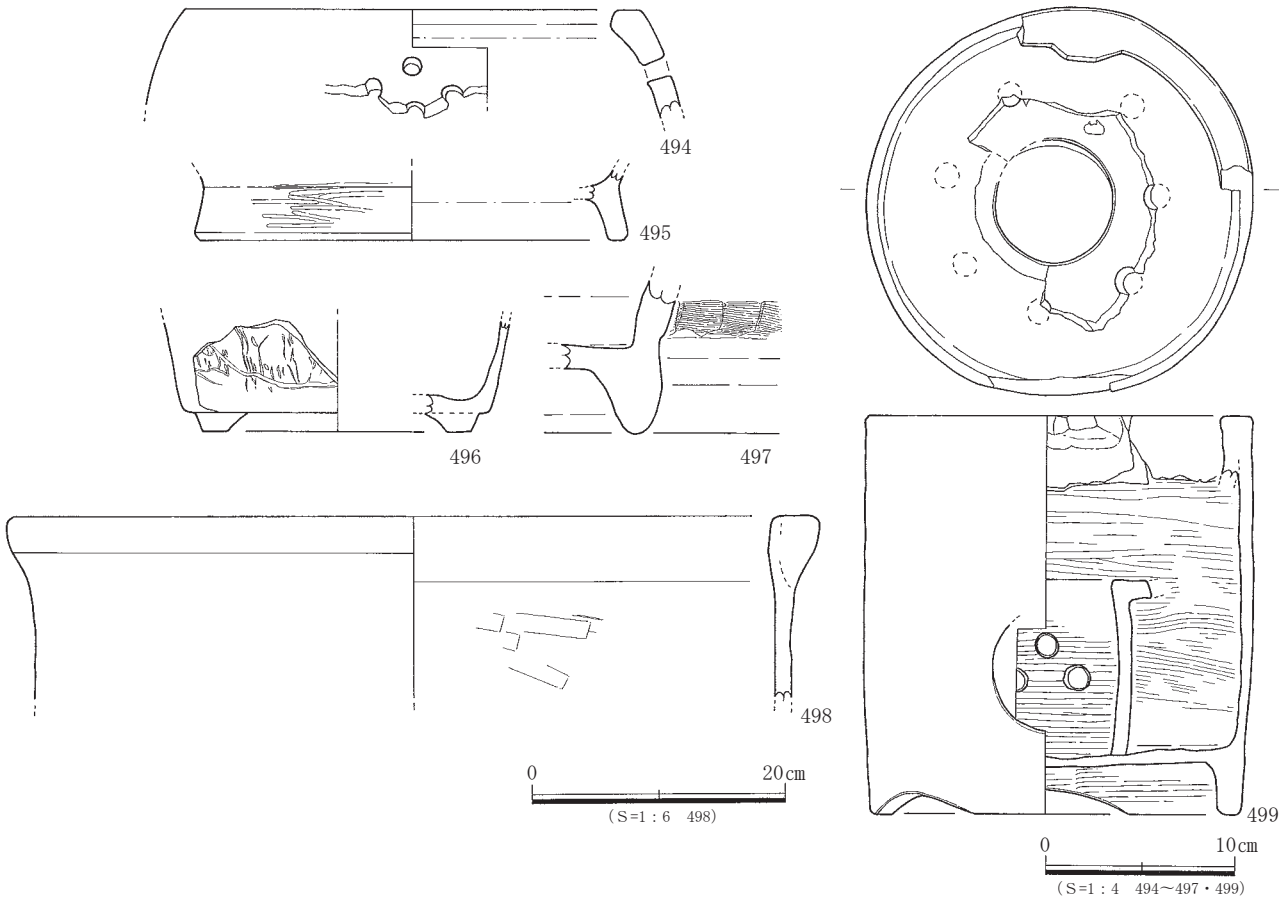
第 32 図　B 区溝平・断面図



第33図　B区出土遺物①



第 34 図　B 区出土遺物②



第35図　B区出土遺物③

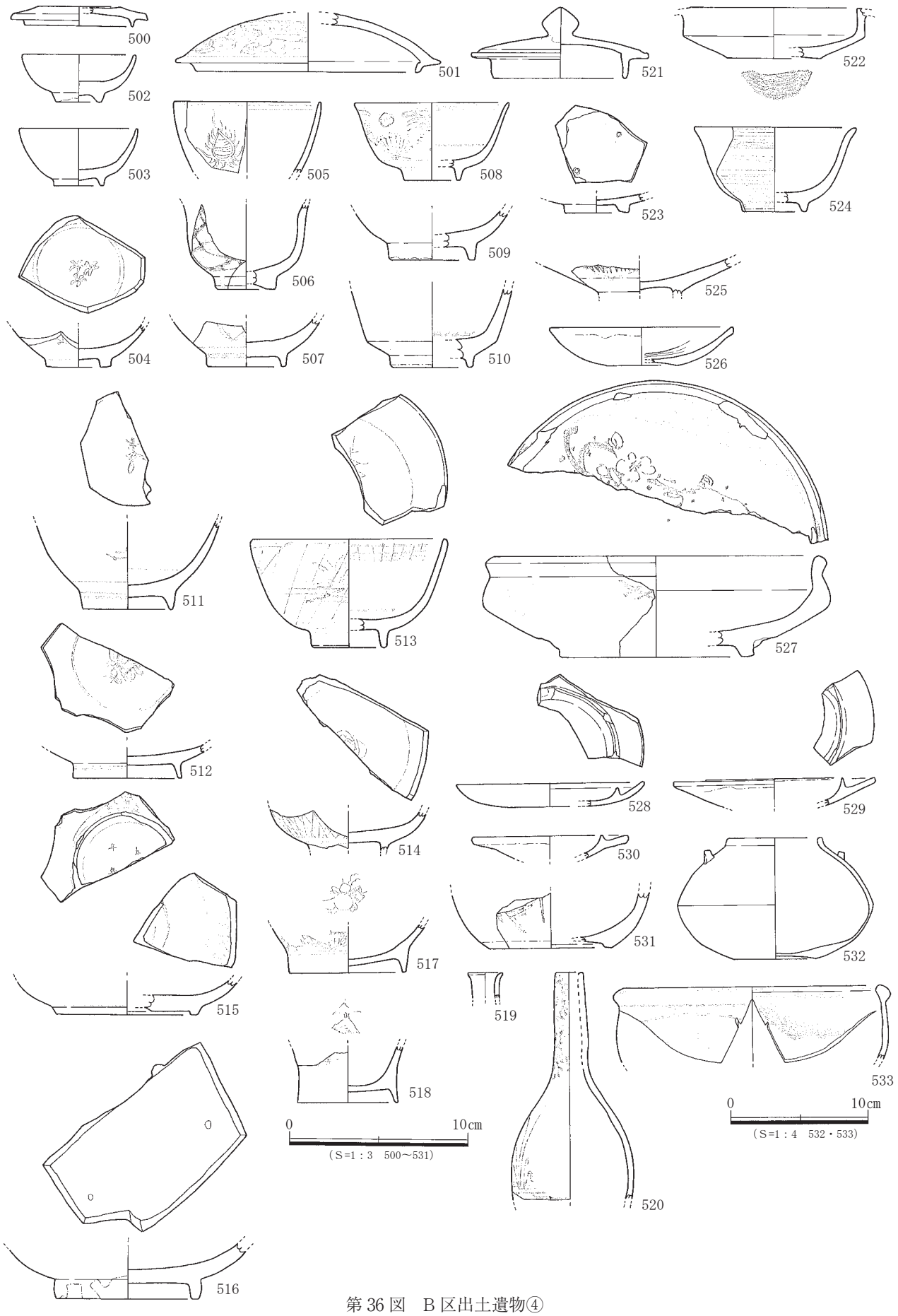
の状況から調査ができなかったことから明確に述べることができない。いずれにしてもこの溝はさらに西側へと伸びていくものと考えられる。この溝に平行して，先のSA115が確認されていることを考慮すると，区画施設としての機能が想定される。なお，遺物取り上げ時に黒灰色粘土層，中央掘削時とした遺物はいずれも，このSD105の埋土から出土したものである。

土層図からも明らかなように，これらの遺構の掘り込みは遺構面と認識した部分よりも高い面からのもので，基本層序で述べたように，４層以下が近世に関連するものと考えられる。出土遺物（565～568，587，590～592，596～617，862）は土師質土器，肥前系陶磁器，瀬戸美濃系磁器，京信楽系陶器，軒丸瓦，平瓦，土製玩具で，時期は19世紀である。

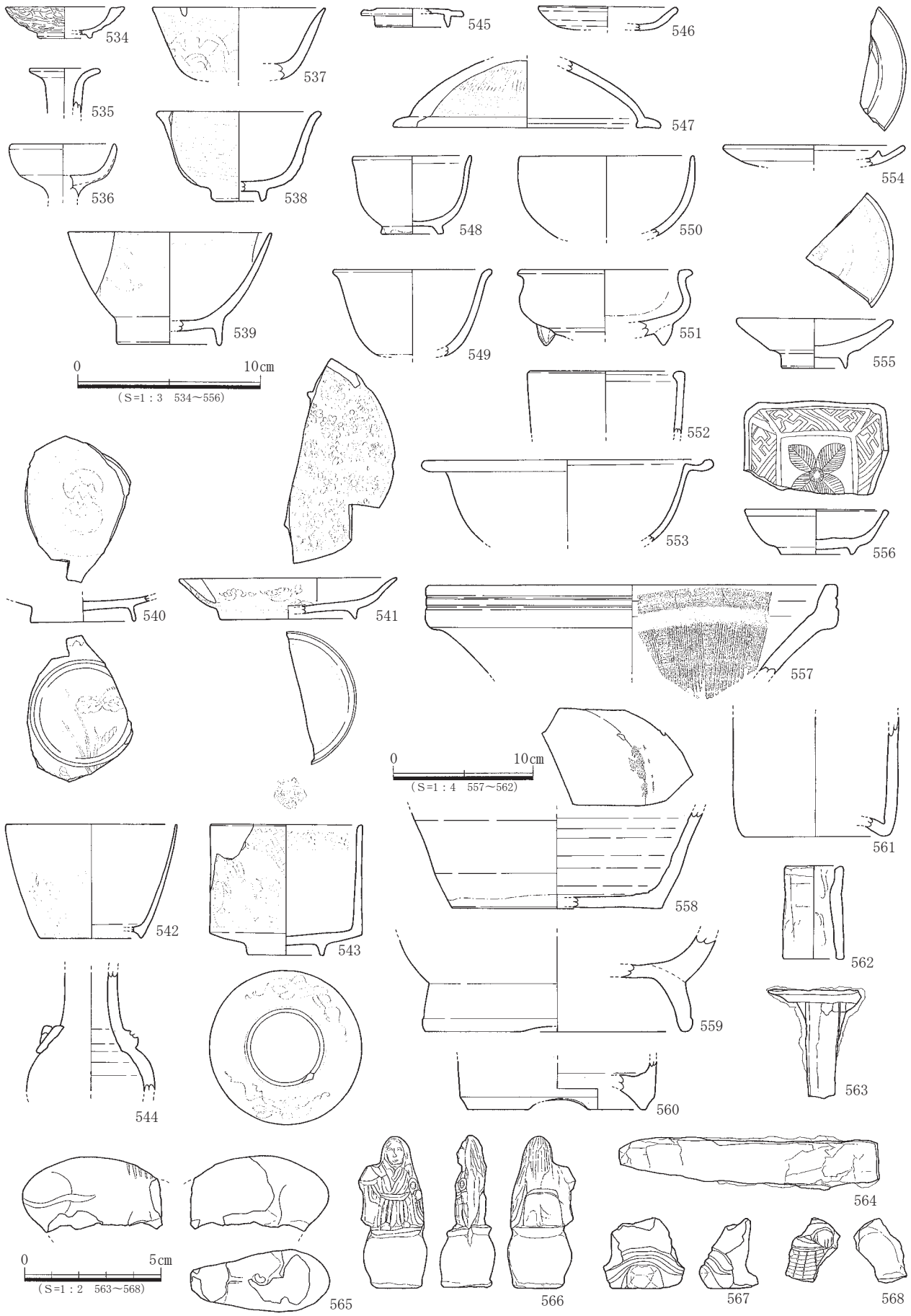
上記の他に第２遺構面に掘り込まれた遺構も僅かに確認したが，近世以降の遺構などに大規模に撹乱され，遺物もほとんどないことから，時期等が明らかにすることはできなかった。

d　小結

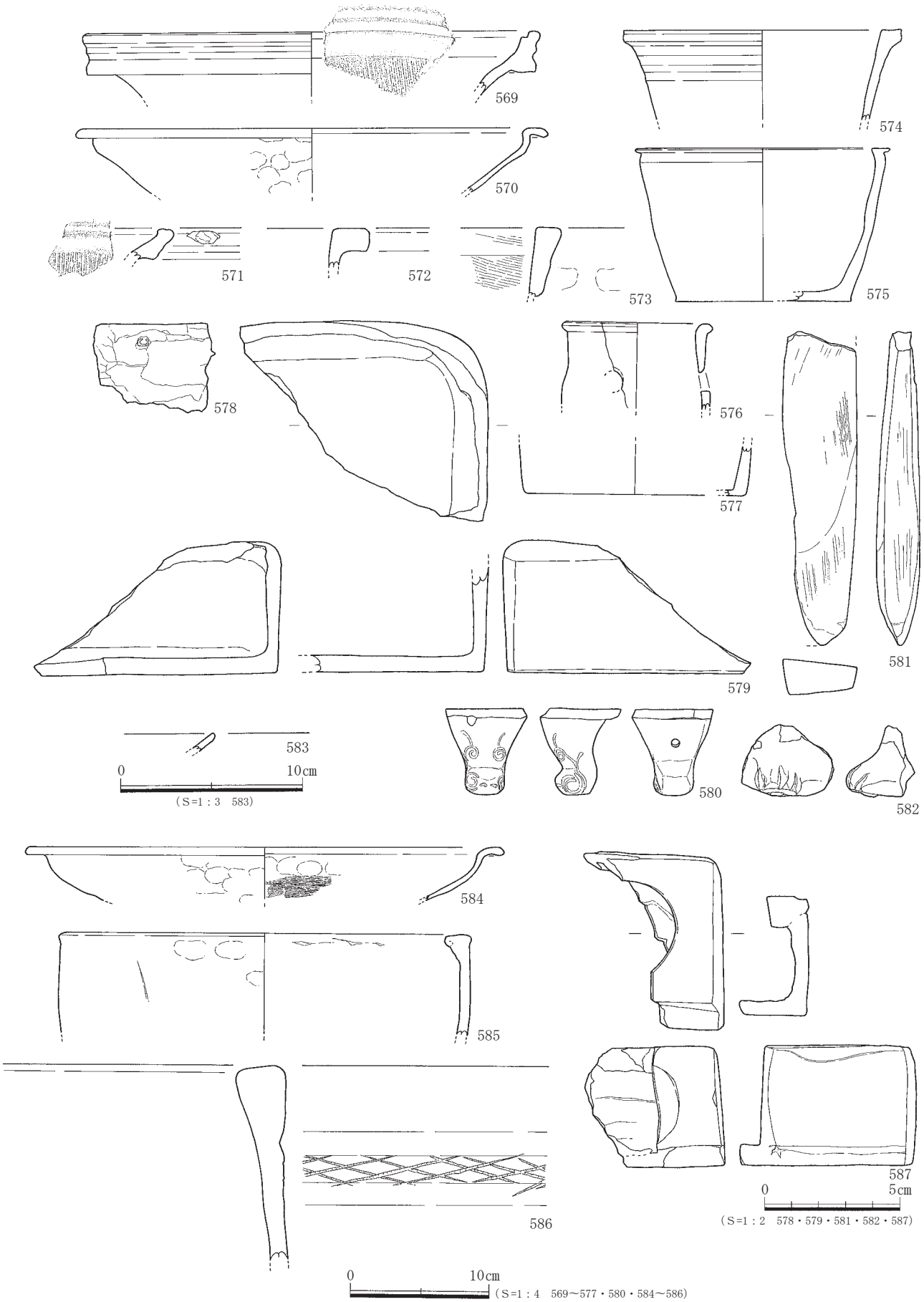
以上のようにB区では区画施設と推定される遺構が確認することができた。いずれも他の調査区では認められないため，これらの区画施設はB区を境に南北を隔てる役割のものと考えられる。既述したように，SD105がC区へとのびないことから，B区東端では東西を区画する役割があったと考えられる。



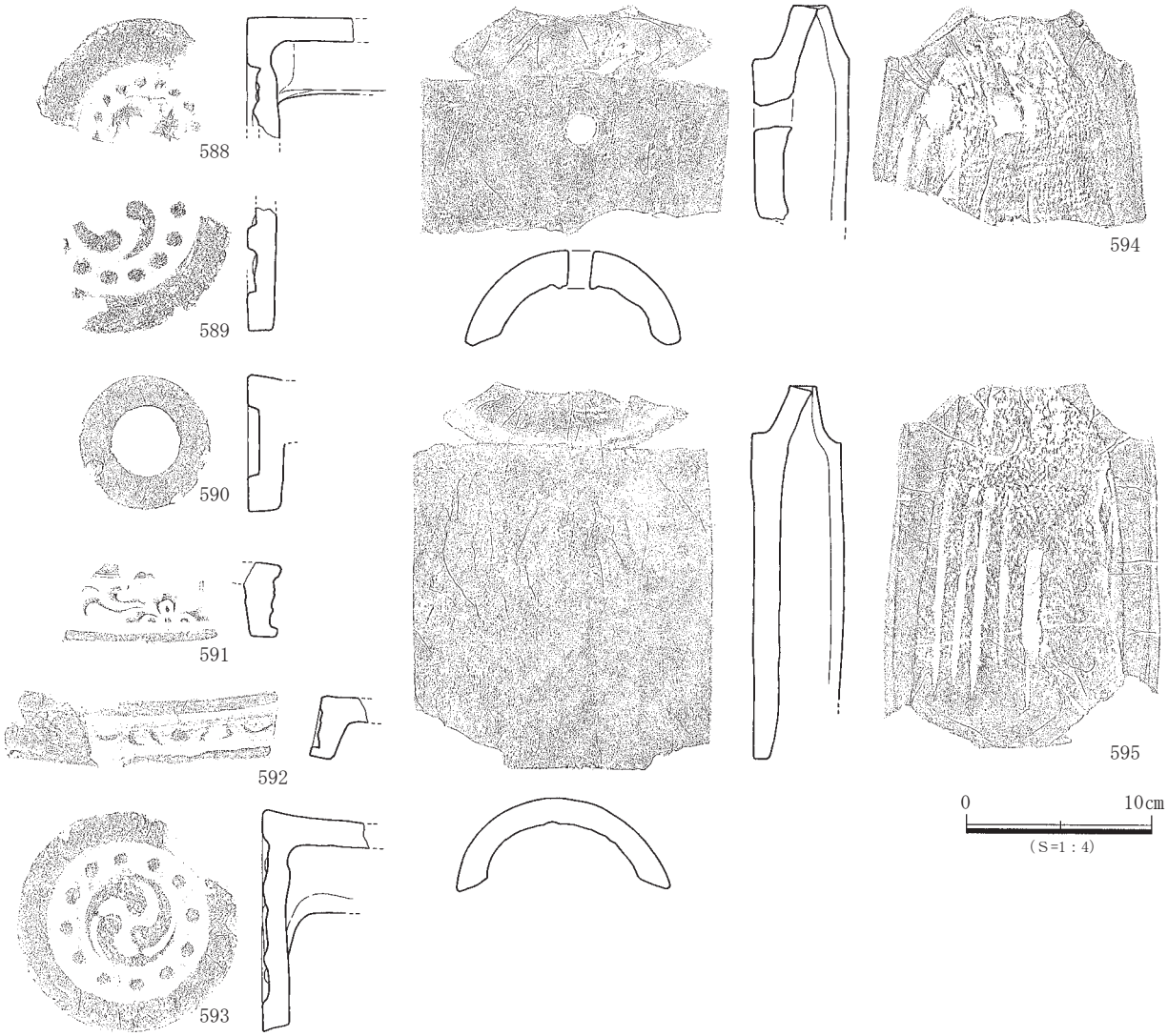
第 36 図　B 区出土遺物④



第 37 図　B 区出土遺物⑤



第38図　B区出土遺物⑥



第 39 図　B 区出土遺物⑦

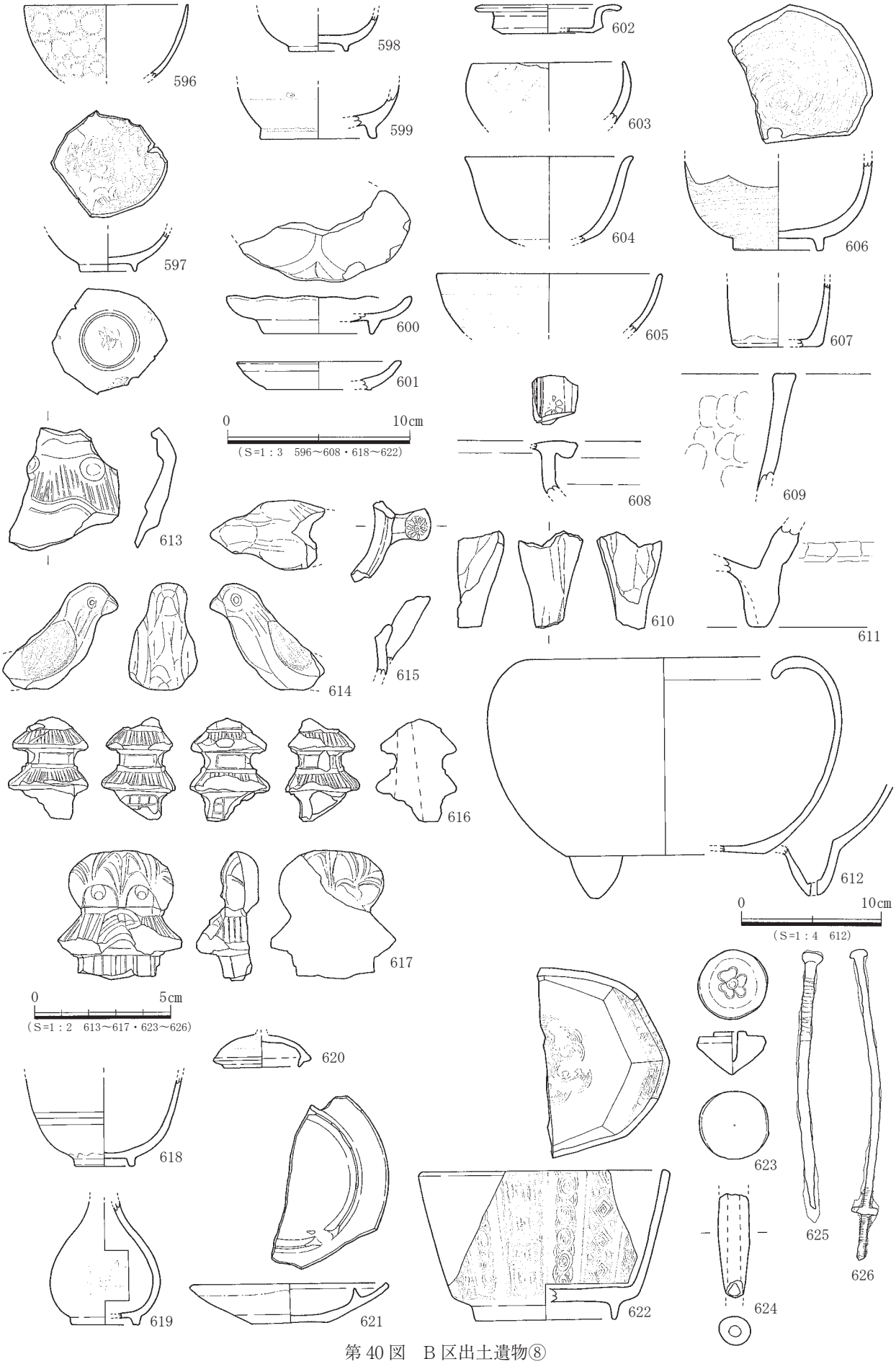
第３節　C 区の調査成果

a　調査概要

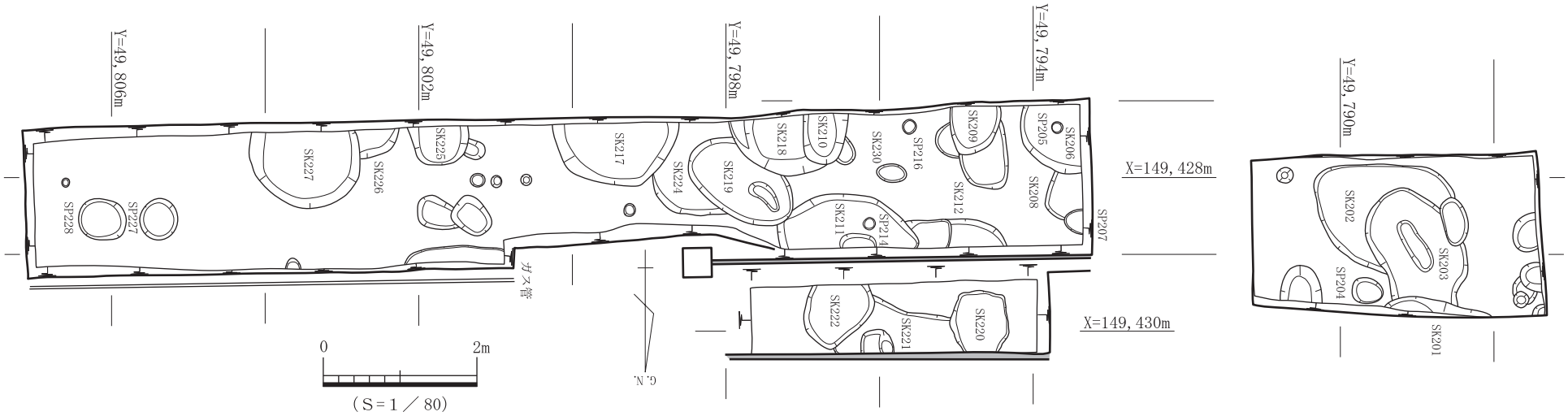
C 区は東西約 20m，幅２m の調査区である。ガス管，電気線等によって，大幅に調査区を減らさせざるを得なかった。西側の調査区は近世の基盤層が認められず，第２遺構面上に近世の遺構が僅かに残っていた程度であったが，東側の大部分は第１遺構面が認められた。第２遺構面と考えられる面では，近世の大型土坑等に攪乱を受け，明確な遺構は確認することができなかった。

b　基本層序

第１層から第４層までは近現代以降の整地と考えられ，特に旧校舎建設時およびそれ以降，運動場として利用するに際して造成および補修を行っているようである。第１遺構面を形成する土は第７層の灰黄色シルトである。第７層直上には第６a 層が薄く堆積しており，遺構面に掘り込まれた遺構の年代の遺物を包含している場合が多く認められた。第２遺構面を形成する土は第９層の灰黄色砂で，基本的に第７層を掘り下げると確認できるが，調査区西側が若干高いレベルで検出された。

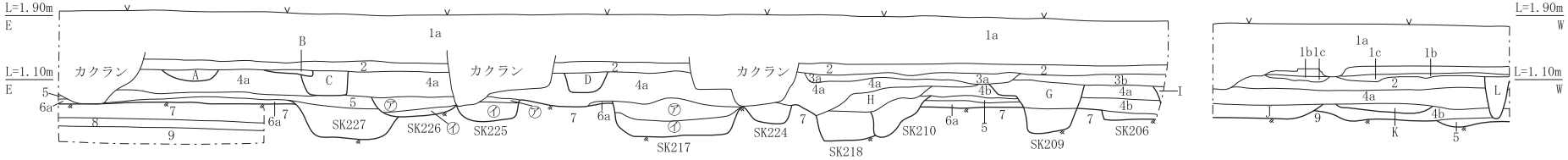


第 40 図　B 区出土遺物⑧

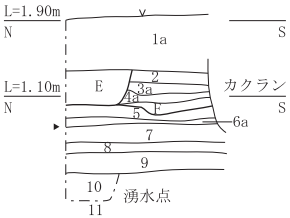


（S＝1／80）

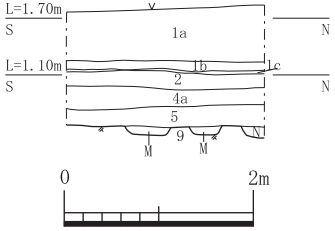
C区南壁



C区東壁



C区西壁



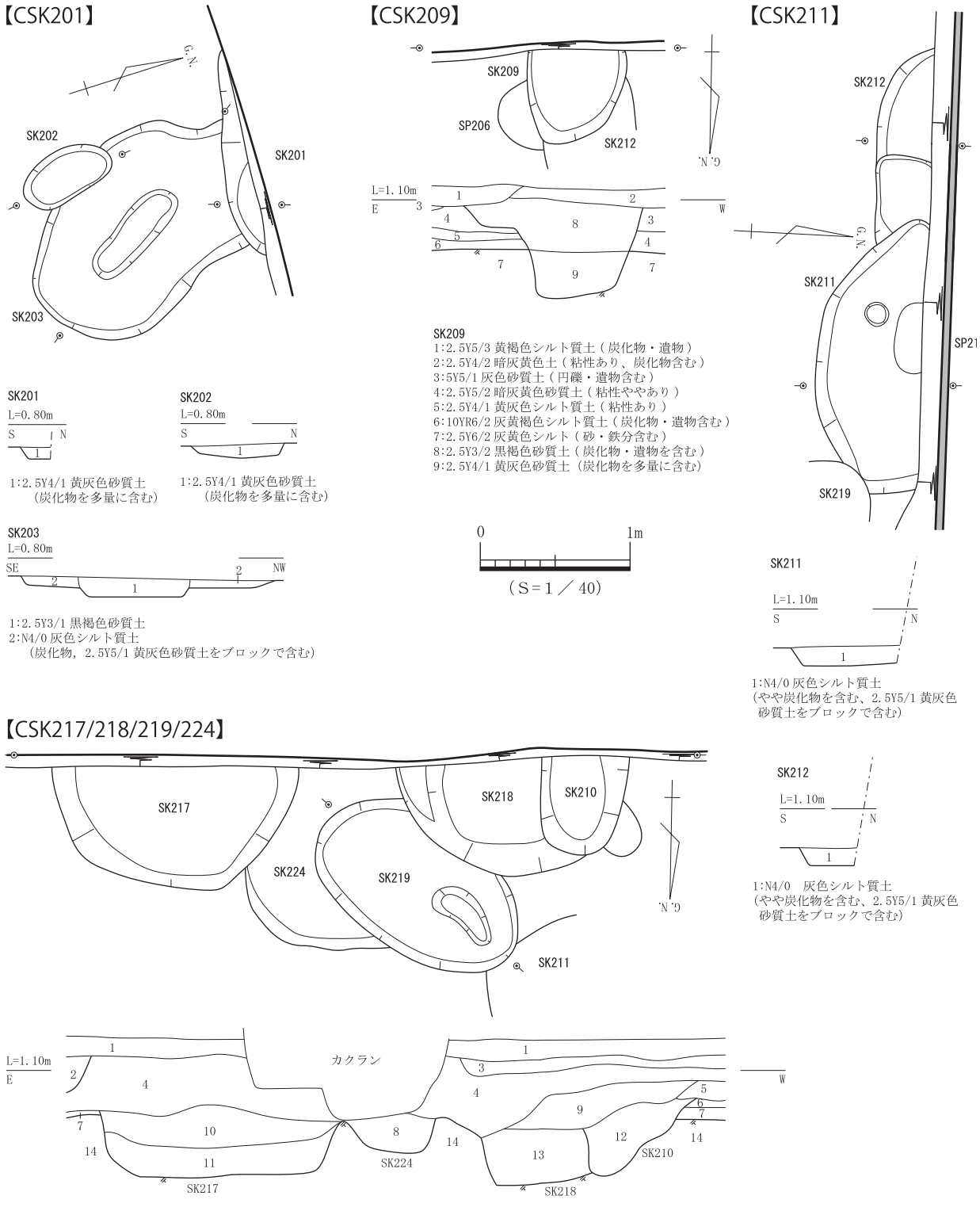
（S＝1／80）

1a：表土（配管など含む）　1b：5Y6/1 灰色砂質土
1c：2.5Y5/4 黄褐色砂質土
2：10YR3/1 黒褐色シルト質土（炭化物・遺物含む）
3a：2.5Y5/3 黄褐色シルト質土（炭化物・遺物含む）
3b：2.5Y4/2 暗灰黄色土（粘性あり、炭化物含む）
4a：5Y5/1 灰色砂質土（円礫・遺物含む）
4b：2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（粘性ややあり）
5：2.5Y4/1 黄灰色シルト質土（粘性あり）
6a：10YR6/2 灰黄褐色シルト質土（炭化物・遺物含む）
6b：7 層の直上に薄く堆積（場所によって厚さ様々）
7：2.5Y6/2 灰黄色シルト（砂・鉄分含む）
8：2.5Y6/1 黄灰色砂質土（粘性あり）
9：2.5Y6/2 灰黄色砂
（所々一時的に運ばれた粘土層（薄い）をはさむ）
10：2.5Y6/2 灰黄色粗砂
11：2.5Y6/2 灰黄色粗砂（礫を含む）
12：2.5Y6/3 にぶい黄色砂質土

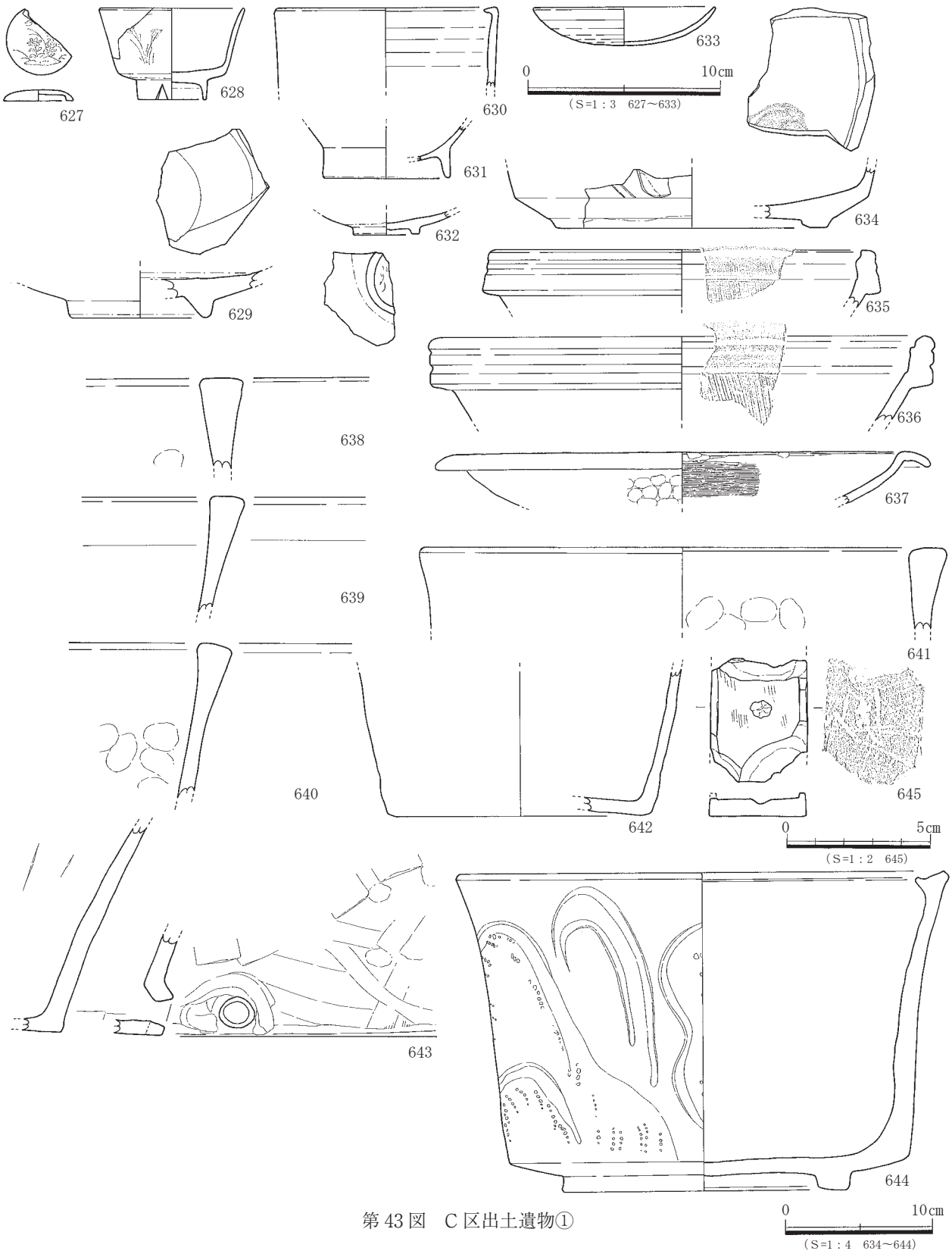
A：10YR3/1 黒褐色シルト質土（炭化物・遺物含む）
B：10YR3/1 黒褐色シルト質土（炭化物・遺物含む）
C：5Y5/1 灰色砂質土（円礫・遺物・瓦礫を含む）
D：2.5Y5/2　暗灰黄　砂質土（炭化物・遺物を含む）
E：10YR3/1 黒褐色シルト質土（炭化物・遺物含む）
F：2.5Y4/1 黄灰色シルト質土（粘性あり）
+2.5Y7/3 浅黄色シルトブロックを多量に含む
G：2.5Y3/2 黒褐色砂質土（炭化物・遺物を含む）
H：2.5Y5/3 黄褐色砂質土（炭化物をわずかに含む）
I：10YR3/1 黒褐色シルト質土（炭化物・遺物含む）
J：10YR4/1 褐灰色粘質土
K：2.5Y6/2 灰黄色粘質土（炭化物・瓦を含む）
L：10YR3/1 黒褐色シルト質土（炭化物・遺物含む）
M：2.5Y5/1 黄灰色砂質土
N：N1.5/0 黒色粘質土

SK206　N4/0 灰色シルト質土（やや炭化物を含む、2.5Y5/1 黄灰色砂質土をブロックで含む）
SK209　2.5Y4/1 黄灰色砂質土（炭化物を多量に含む）
SK210　2.5Y4/1 黄灰色砂質土（炭化物を多量に含む）
SK217　㋐：2.5Y4/1 黄灰色砂質土（炭化物を多量に含む）
㋑：2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土（㋐をブロックで含む）
SK218　2.5Y4/1 黄灰色砂質土（炭化物を多量に含む）
SK224　2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土
SK225　㋐：2.5Y4/1 黄灰色砂質土（炭化物を多量に含む）
㋑：2.5Y4/1 黄灰色砂質土（炭化物をわずかに含む）
SK226　㋐：2.5Y5/1 黄灰色砂質土（炭化物・遺物を含む）
㋑：5Y4/1 灰色粘性の強い砂質土（炭化物を多量に含む）
SK227　N4/0 灰色シルト質土（やや炭化物を含む、2.5Y5/1 黄灰色砂質土をブロックで含む）

第41図　C区遺構配置図・土層断面図



第 42 図　C 区土坑平・断面図



第 43 図　C 区出土遺物①

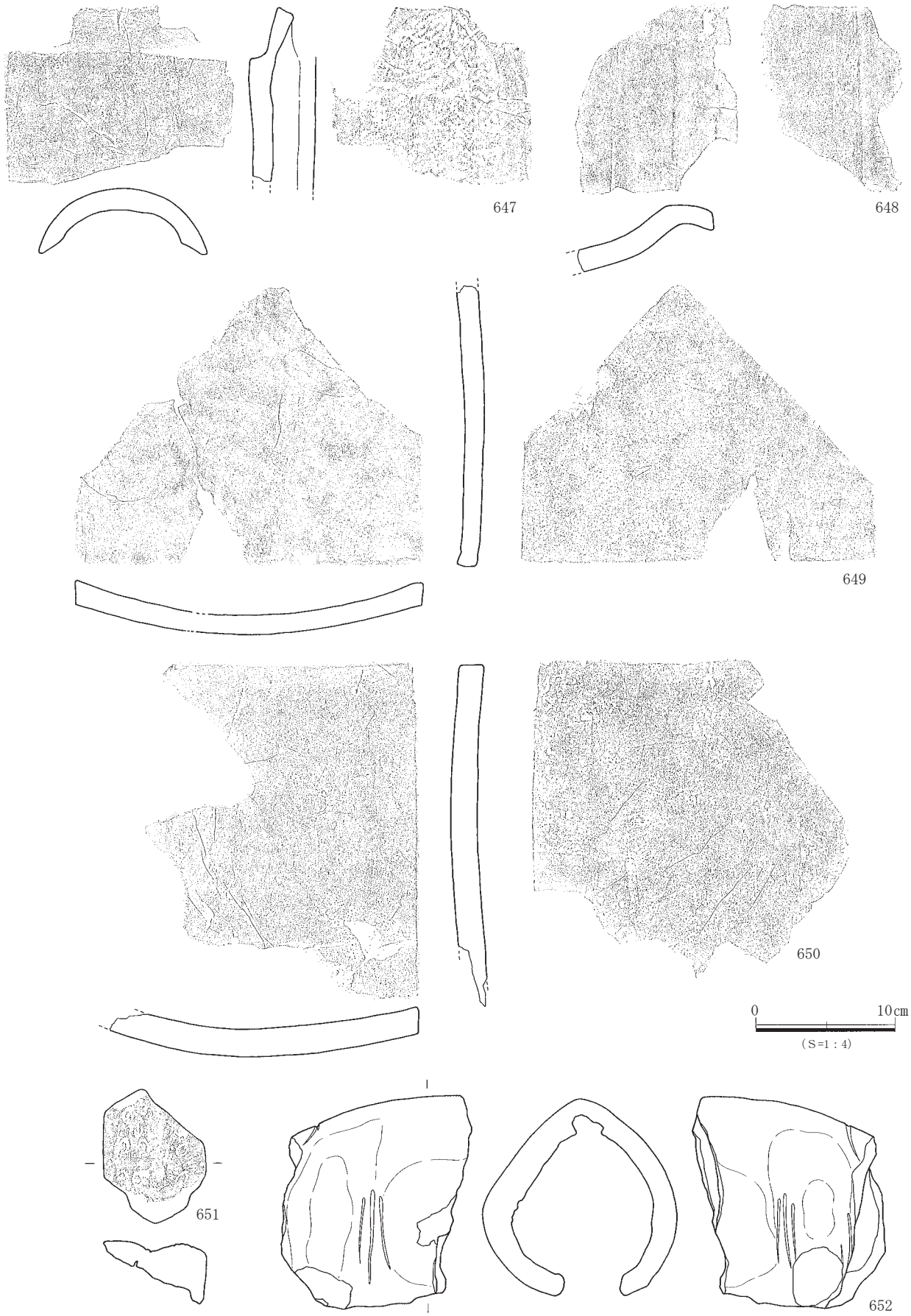
c　遺構と遺物

CSK201

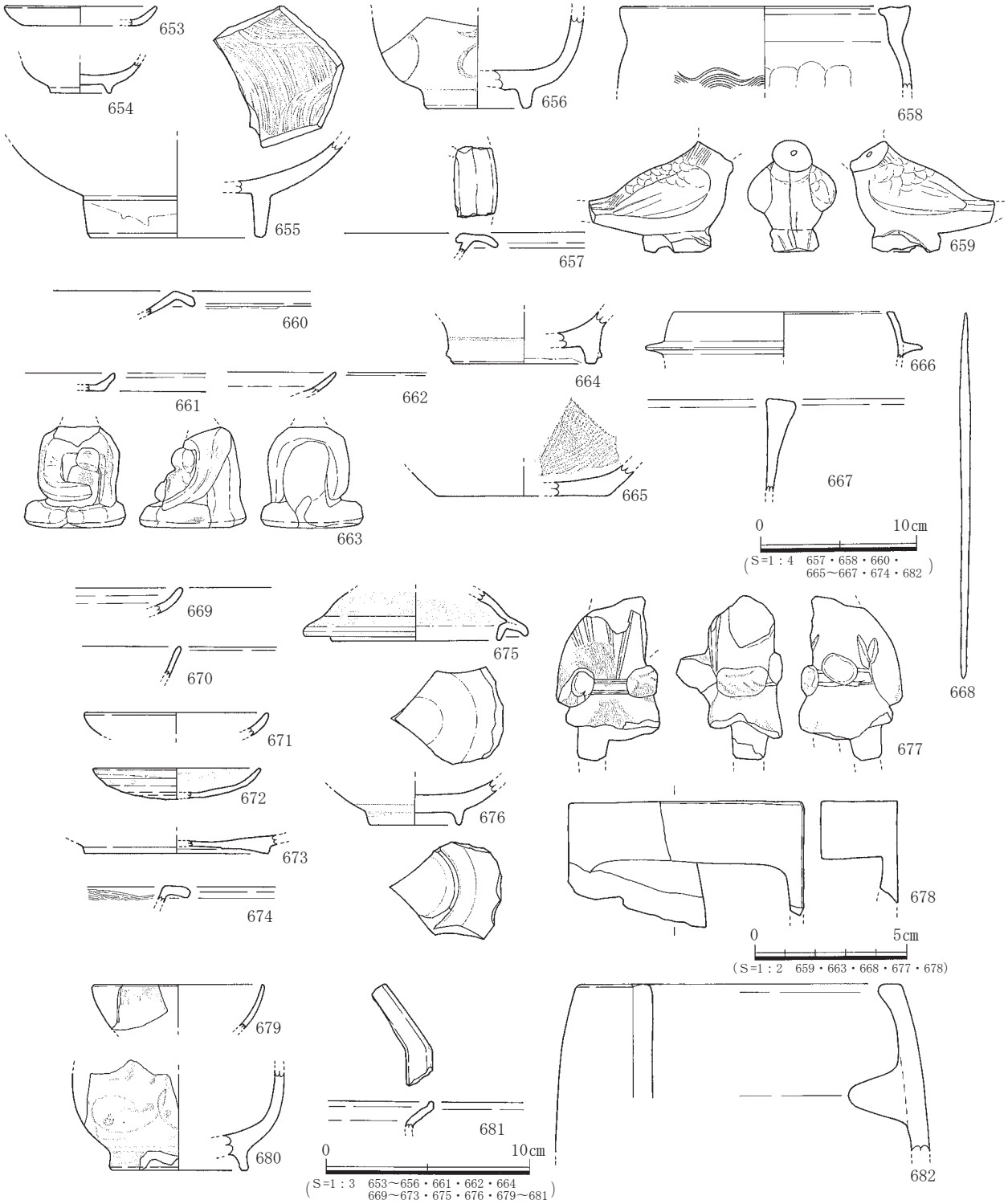
西側調査区の北壁の外側へと伸びる土坑で，長さ 0.8m，幅 0.45m の東西方向に長い楕円形を呈する。深度は 0.38m で，埋土は炭化物および遺物を含む黄灰色砂質土である。SK203 を切っている。出土遺物（660）は土師質土器で，時期は限定できない。

CSK209

東側調査区の南西に位置する土坑で，さらに南壁の外



第 44 図　C 区出土遺物②

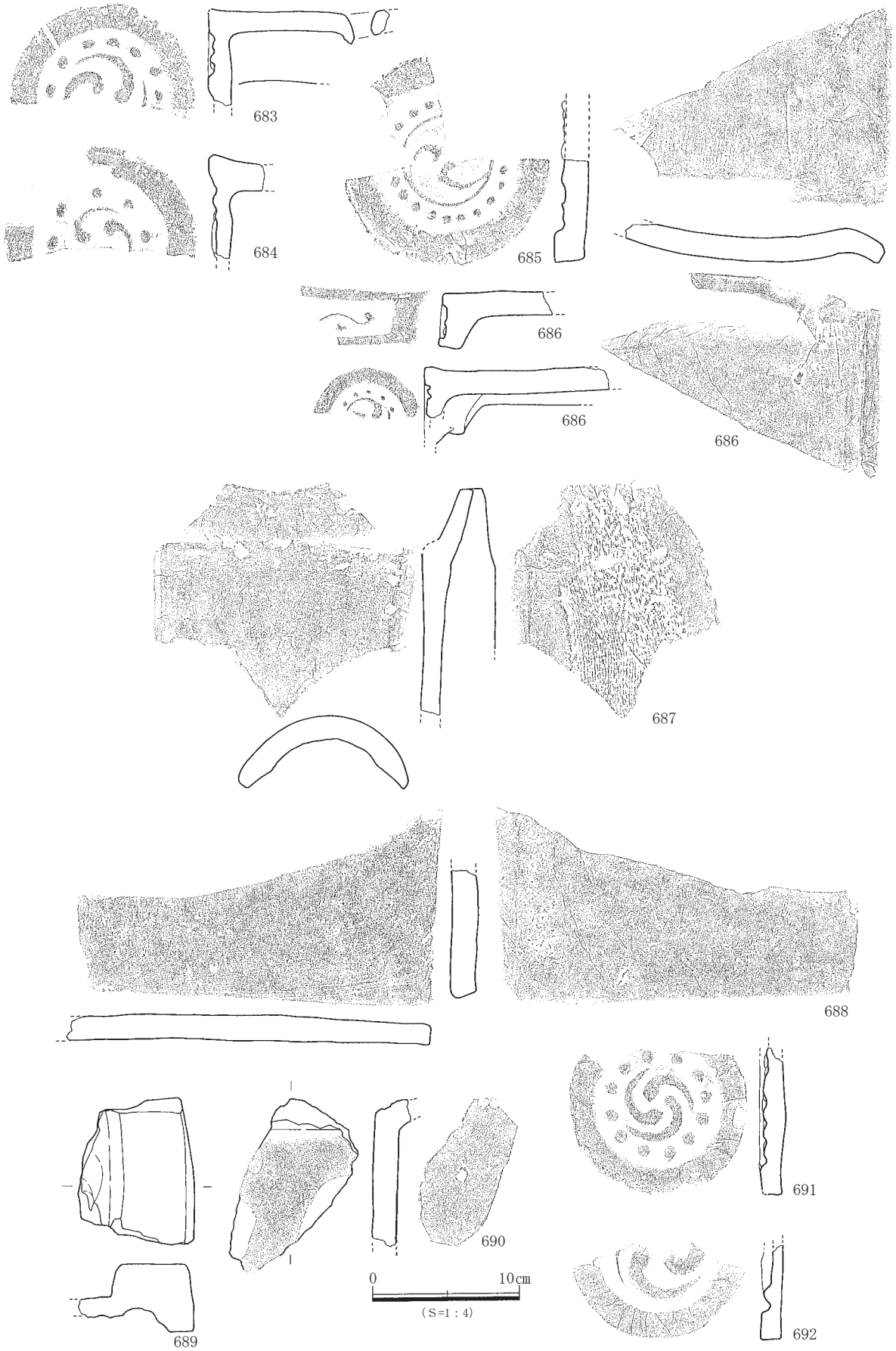


第 45 図　C 区出土遺物③

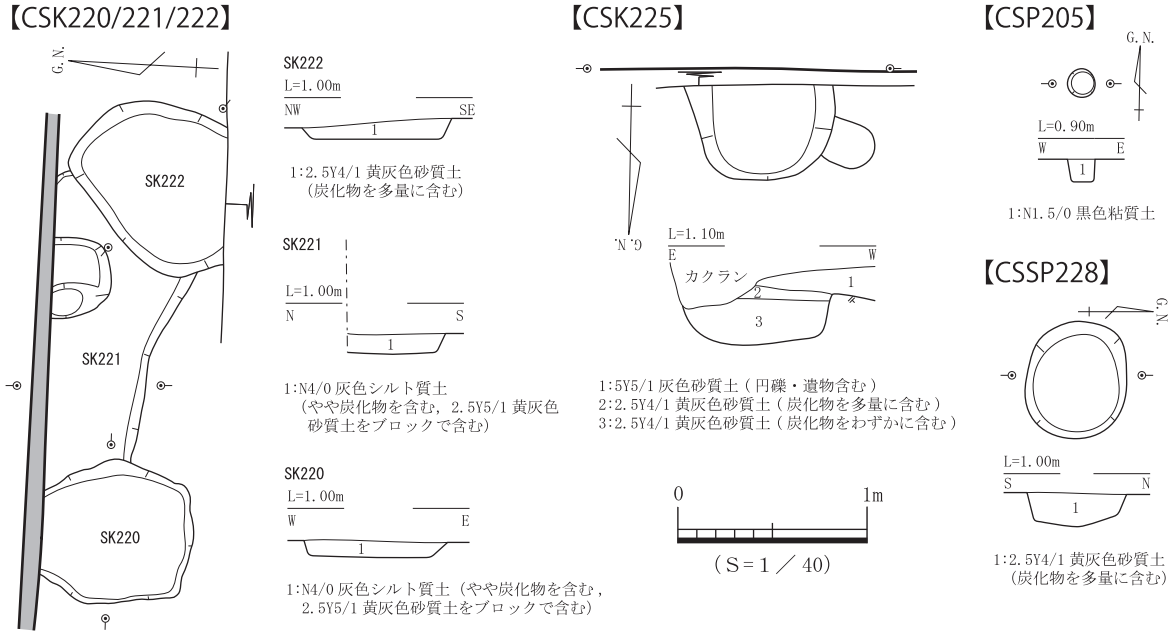
へと伸びる。南北方向に長い楕円形を呈すると考えられ，長さ 0.65m，幅 0.65m を測る。深度は 0.65m で，埋土は上下２分でき，上層が炭化物および遺物を含む黒褐色砂質土で，下層が黄灰色砂質土である。検出面は下層直上である。SK212，SP216 を切っている。出土遺物（653～659）は土師質土器，肥前系陶磁器，土製玩具，軒丸瓦で，時期は 17 世紀後半から末である。

CSK210

東側調査区の西中央部分に位置する土坑で，長さ



第 46 図　C 区出土遺物④



第 47 図　C 区土坑・ピット平・断面図

0.68m，幅 0.6m の南北方向に長い楕円形を呈する。深度は 0.54m で，埋土は炭化物を多量に含む黄灰色砂質土である。SK218 を切っている。出土遺物（664 ～ 667，684 ～ 688，751）は土師質土器，肥前系磁器，備前系陶器，軒丸瓦，平丸瓦で，時期は限定できない。

CSK211

東側調査区の西中央部分に位置する土坑で，長さ 1.85m，幅 0.7m の東西に長い楕円形を呈する。深度は 0.13m で，埋土は炭化物や黄灰色砂質土を含む灰色シルト質土である。SK212 を切り，SK219 に切られる。出土遺物（661 ～ 663）は土師質土器，土製玩具で，時期は限定できない。

CSK217

東側調査区のほぼ中央に位置する土坑で，さらに南側へとのびる。長さ 1.65m，幅 0.8m の不整形の円形を呈する。深度は 0.5m で，埋土は上下２分でき，上層が炭化物を多量に含む黄灰色砂質土，下層が暗灰黄色砂質土で上層土をブロック状に含む。SK224 を切る。出土遺物（627 ～ 644，646 ～ 652，749）は土師質土器，瓦質土器，肥前系磁器，瀬戸美濃系陶器，京信楽系陶器，備前系陶器，軒平瓦，平丸瓦，桟瓦，特殊瓦，硯で，時期は 18 世紀後半である。

CSK218

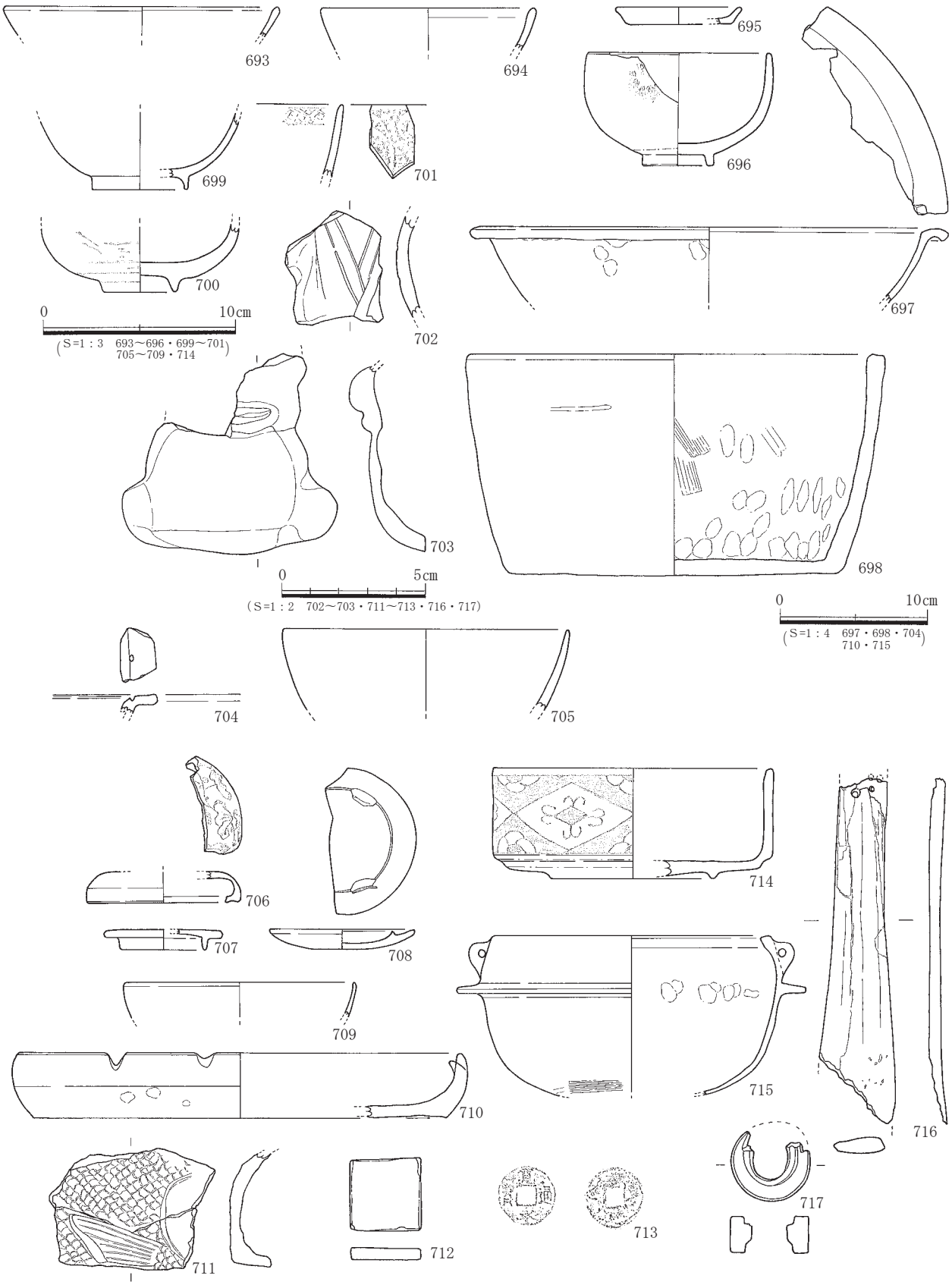
東側調査区のほぼ中央に位置する土坑で，さらに南側へとのびる。長さ 1.3m，幅 0.75m の円形に近い楕円形を呈する。東側にテラス状の平坦地がある。深度は 0.38m で，埋土は炭化物を多量に含む黄灰色砂質土である。SK210 に切られ，SK219 を切っている。出土遺物（668 ～ 676）は土師質土器，肥前系磁器，備前陶器，青銅製品，土製玩具，硯で，18 世紀中頃から後半である。SK219 との切り合い関係と矛盾しており，18 世紀後半以降と考えられる。

CSK219

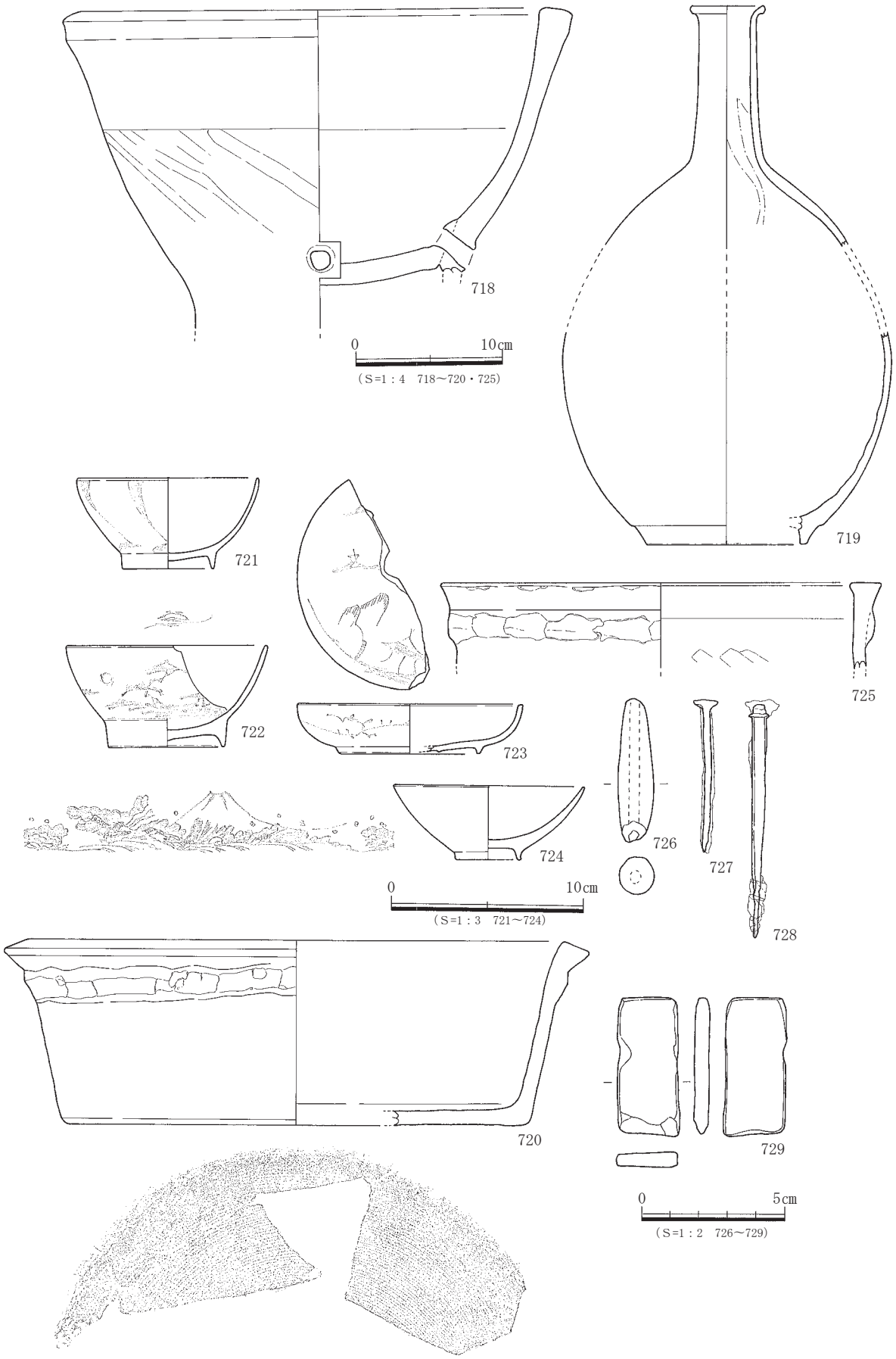
東側調査区のほぼ中央に位置する土坑で，長さ 1.55m，幅約 0.9m の楕円形を呈する。深度は 0.14m で，埋土は炭化物および遺物を含む。SK218 に切られ，SK211，224 を切っている。出土遺物（679 ～ 681）は肥前系磁器で，時期は 18 世紀後半である。

CSK224

東側調査区のほぼ中央に位置する土坑で，さらに南側へとのびる。両側が SK217，219，218 に切られており，原形をとどめていない。深度は 0.26m で，埋土は暗灰黄色砂質土である。出土遺物（682 ～ 683）は土師質土器，軒丸瓦で，時期は限定できない。



第 48 図　C 区出土遺物⑤



第 49 図　C 区出土遺物⑥

CSK220

東側調査区西部の北側に位置する土坑で，長さ 0.8m，幅 0.6m の不整形を呈する。深度は 0.1m で，埋土は炭化物および黄灰色砂質土をブロック状に含む灰色シルト質土である。SK221 を切る。出土遺物(693)は土師質土器で，時期は限定できない。

CSK221

東側調査区西部の北側に位置する土坑で，長さ 1.5m，幅 0.9m を測るが，SK220，222 によって切られるとともに，ガス管などによって本来の形状は明らかでない。深度は 0.1m で，埋土は炭化物および黄灰色砂質土をブロック状に含む灰色シルト質土である。出土遺物（694）は土師質土器で，時期は限定できない。

CSK222

東側調査区西部の北側に位置する土坑で，さらに調査区北側へと伸びる。長さ 0.9m，幅 0.8m の不整形を呈する。深度は 0.1m で，埋土は炭化物を多量に含む黄灰色砂質土である。SK221 を切る。出土遺物（695 ～ 697）は土師質土器，瓦質土器，京信楽系陶器で，時期は 17 世紀後半から末である。

CSK225

東側調査区西部の北側に位置する土坑で，長さ 0.8m，幅 0.5m の隅丸方形を呈する。深度は 0.3m で，埋土は黄灰色砂質土をベースとして上層は炭化物を多量に含む。出土遺物（698 ～ 703）は土師質土器，肥前系陶磁器，土製玩具で，時期は 17 世紀後半から末である。

CSP205

東側調査区西部の SK206 の中に位置するピットで，直径 0.08m の円形を呈する。深度は 0.12m で，埋土は黒色粘質土である。出土遺物（304）は瓦質土器で，時期は限定できない。

CSP228

東側調査区東部に位置するピットで，長さ 0.6m，幅 0.54m のやや東西方向に長い円形を呈する。深度は 0.18m で，埋土は炭化物を多量に含む黄灰色砂質土である。出土遺物（705）は肥前系磁器で，時期は限定できない。

d　小結

本調査区は，廃棄土坑が集中する区画であり，建物に関連する遺構は認められなかった。このような状況は A 区の建物遺構の周辺に類似しており，屋敷地内でも屋敷の縁辺部に相当する可能性が高い。

第Ⅳ章　まとめ

（Ⅰ）遺構から読み取ることのできる情報

中世以前

出土遺物も非常に少なく，生活の痕跡を示すような状況は確認できなかった。砂堆という微高地に立地していたものの，生活空間として利用するにはいたらなかったようで，近接する浜ノ町遺跡と比較すると大きな差がある。このことは，中世港湾集落の選地の問題と関係しているものと考えられる。ただし，希薄ではあるものの，土地利用はなされており，非常に簡易な施設が展開していた可能性は非常に高い。周辺での調査成果が期待されるところである。

近世以降

各調査区で整理したように，区画施設，建物遺構，その周辺の廃棄土坑を確認することができた。また，多量の瓦も廃棄土坑から出土しており，調査地周辺の建物も瓦葺き建物であったことが明らかである。文献資料によって高松城下町周辺では多くの火災が起こっていたことも分かっており，防災を目的にしたものと考えられる。

調査区は狭小であったものの，建物と区画施設の配置の状況から，ある程度，武家屋敷における空間利用のあり方や建物構造などの一端を推測できそうである。

これらの遺構の年代のすべてが明らかなわけではないが，17 世紀後半が初現で，18 世紀から 19 世紀にかけての遺構が中心となる。年代別の遺構形成のあり方も，上記の年代幅の中で大きな変化はなく，調査区周辺は，同様な土地利用が続いたと予想される。ただし，どの段階のものかという点を解明することは困難であるが，区画が大きく変化していない可能性を考えると，発掘調査で確認できた遺構は土地利用のあり方を推測する十分な資料といえるであろう。

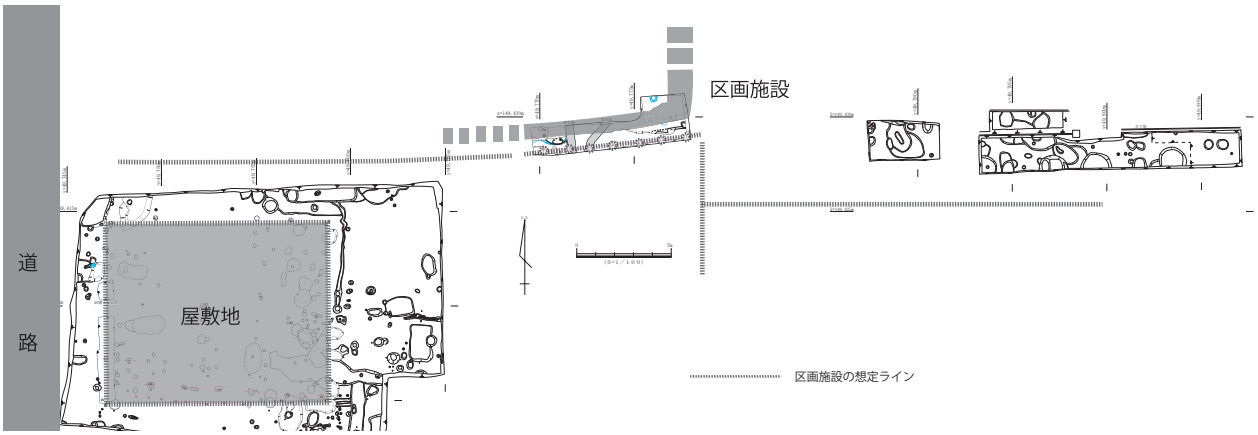
（Ⅱ）絵図からの整理

高松城下図屏風によれば，当調査地周辺では町屋は描かれていない。18 世紀前半の享保年間高松城下図によれば高松から西へ抜ける道路沿いに，町屋が形成されており，調査区周辺は西通町の延長上の鉄砲町の南側に位置する。また，旧校舎の中央部分，調査区西端周辺にあたる箇所，東側には南北道路があったことが分かる。この周辺の道路によって囲まれた大きな地割（街区）の中に小区画を設けて武家屋敷が配置されている状況である。

このような調査区周辺の地割はそれ以後の絵図を見ても大きく変化している状況は認められず，この街区や道路の状況は現在も変わっていない箇所があり，当時の街区の状況をある程度推測することができる。第 52 図のように調査地に関連する区画をあ～えと呼称することとする。

各区画の居住者の状況をみると，同絵図では，おおよそ調査地ではあ区が今泉氏，い区が大石氏，う区が津田氏，え区が渋江氏が居住している。絵図等に基づき，調査地周辺のその後の居住者をまとめるとあ区，い区には大きな変化はないが，う区は津田氏から宝暦年間以降瀬尾氏，さらに文化年間以降細谷氏へ，え区は渋江氏から文化年間以降大河原氏へ変化していたことが分かる。

各居住者の主な役職等の変遷は次のようになる。



第 50 図　遺構配置図

今泉氏：高松御入部三百石奉行⇒馬廻頭⇒中寄合，所御役知行⇒門番頭⇒馬廻番組
大石氏：槍奉行⇒大番組⇒庭奉行⇒大番組⇒三十俵五人扶持大番組
津田氏：不明
瀬尾氏：百俵四人扶持勘定奉行⇒大番組⇒普請奉行，勘定奉行
細谷氏：砲術師役（荻野流火技）
渋江氏：徒士⇒門番頭⇒大番組⇒五人扶持
大河原氏：徒士⇒百俵四人扶持親量院様付き⇒百五十俵横目⇒大番組

以上のような居住者の職務の変遷状況から，これまでの指摘のとおり，この周辺は高松藩の行政機構である奉行などの役職についている者のほかに，藩の役職についていない家臣を統轄する藩兵組織を取りまとめる役職やその組織自体に属しているような家臣の屋敷地として土地利用がなされており，絵図によれば少なくとも18世紀始めには高松藩に仕える家臣の屋敷地として開け，それ以後，展開していたことを確認することができた。

（Ⅲ）調査区と絵図との対比

これまでの検討の結果を居住者と調査区との対比から最後に整理しておきたい。

上記の居住者区画（あ～え）と今回の各調査区との対比を行うとＢ区に認められた溝や柵は区画施設と考えられ，北側へと折れる位置であるこからも，Ｂ区の状況はう区とえ区を区画する箇所にあたると考えられる。これを手がかりに推察すると，Ａ区はえ区，Ｂ区はう区とえ区を区画する箇所となる。Ｂ区の区画施設がそのまま東に延びない点は絵図とも一致することであり，この点をたよりにすれば，Ｃ区はあ区内の可能性が高い。建物周辺に展開する廃棄土坑の特徴からすると，Ｃ区の遺構配置の状況は上記の可能性を高めるものである。

以上のような調査区と屋敷地の区割りの状況を対比することができたが，屋敷地内における建物変遷，居住者の変更に伴う土地利用の変化などについては今回の調査では残念ながら明確にすることはできなかった。しかし，既述したように，調査地でも大きな区画などの変化は認められず，これらの絵図との対応はおおむね，江戸期においては大きな変更はなかったと考えられる。

第51図　享保年間高松城下図（高松市歴史資料館蔵）

第52図　享保年間高松城下図の調査地周辺の状況

（渡邊　誠）

（Ⅳ）出土遺物について

a）第１遺構面

第１遺構面からは17世紀後半を初現に18世紀から19世紀にかけての遺物が出土している。肥前系・瀬戸美濃系の磁器や陶器，京信楽系・備前系の陶器，在地産の陶器や土師器が確認でき，器種は碗や皿を中心にその他日

常雑器などである。遺構による器種や産地の偏重が確認できないことから，出土遺物は日常生活で廃棄されたものと考えられる。中には茶道具と考えられる大ぶりの碗（117）や鉢（527）もあり，茶道をたしなむ上級武士の生活の一端がうかがえる。また機械掘削や包含層からの出土ではあるが，補修を行った磁器（411・622）も確認できる。補修痕がある磁器はいずれも肥前産のもので，他の磁器と比較すると施釉も丁寧で，絵柄も精巧に描かれている。日常雑器が破損すると廃棄されているのに対し，これらの土器は補修を行ってなお大切に使用していたことがうかがえる。

ここで，土人形について詳しく見ていきたい。土人形について全国各地の近世遺跡から出土例が報告されている。今回出土した土人形は淡黄橙・淡橙・にぶい黄橙・にぶい橙色，淡黄色，にぶい褐・灰黄褐色，灰・灰白・明褐灰色系の胎土があり，橙系と灰色系，褐色系の３種類に大別することができる。灰色系と褐色系は粒度の細かい精製土を使用する傾向があり，橙色系は前２者に対してやや粗い粒度の粘土を使用していることが多い。胎土の状況から複数の産地があるものと考えられる。

製作技法は型作り，手づくね成形（27・32・276・387・663），型作りと手づくね（359・677）のパターンが存在している。型作りのものには，一枚の型から型抜きするもの（241・613・711），二枚の型を合わせるもの（28 ～ 31・33・198 ～ 202・217・240・280 ～ 283・357・385・388・422・467・565 ～ 568・614・616・617・659），頭部と身体部分の合計４枚の型から作り出して貼付けるもの（74・277 ～ 279・302・389）がある。型作りのものには，型枠から粘土をはずしやすくするために用いられたと考えられる金雲母が付着していることが多い。

また28･385のように，非常に精巧な作りのものもあり，型作りで人形の形を取り出したのち，さらに線刻を加えたと考えられる。これらの土人形は仏像であることから，玩具としての用途よりも信仰の対象として用いられ，そのため精巧に作られたと考えられる。467は，狆を抱いた人をモチーフにした人形である。灰色系の胎土で，一部に彩色や施釉が施されている。もともとは伏見人形の型で「嘗 (なめ) 人形」といわれるもので，子供が嘗めるおしゃぶりの役目をした人形である。今回出土している遺物と同じ意匠で同じ面書きの人形が江戸や博多で出土していることが明らかになっている。精製度の高い灰色系の土を利用していることから，搬入品の可能性も考えられる。

このほか天守閣をかたちどった土人形が４固体（33・198・616・617）出土した。いずれも箱庭細工用の玩具と考えられる。胎土はいずれも橙色系である。このうち全体の形状がわかるSK045から出土した土製品（33）を高松城天守閣の古絵図や写真と比較すると，土製品の天守閣は屋根の長辺側の面に３重ともに唐破風をもつが，高松城天守閣は入母屋造りの屋根の長辺側の１重と３重，破風側の２重に唐破風が認められることから，相違点が認められる。天守閣の屋根を飾る鯱が非常に大きく表現されていることから（33・617），型の製作者は天守閣を正確に写し取ることよりも，天守閣をデフォルメして製作した可能性が考えられる。

b）第２遺構面

第２遺構面では，弥生時代と古代，中世の遺物が出土している。遺物量は少なく，いずれも破片での出土である。

弥生時代の遺物は，ASK306（430）とASP321（428）から出土している。摩滅が著しいが，いずれも角閃石を多く含む胎土で，弥生時代後期の遺物と考えられる。

古代の遺物はASK307から出土した黒色土器Ａ類の碗（429）で，時期は10世紀後～末と考えられる。

またSP318から埋納土器と考えられる土師皿（427）出土した。円盤状の底部を作成したのち，粘土を貼付けて口縁部を作っている。器壁･底部とも厚みがあり，ぼってりとした印象が強い。外面接合部は完全にナデ消していないため，底部と口縁部の間に段差が認められる。胎土の状況から在地産と考えられるが，時期は不明である。

このほか，包含層内から和泉型の瓦器碗が出土しており，希薄ではあるが周辺に中世の遺構の存在が想定できる。

【参考文献】

安芸毬子　2000　「掘り出された人形」『江戸文化の考古学』江戸文化研究会
北原直喜　2000　「今戸土人形論」『江戸文化の考古学』江戸文化研究会
九州近世陶磁学会　2000　『九州陶磁の編年』

（船築紀子）

第２表　遺物観察表

（１）土器

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	産地	法量（cm） 口径	器高	底径	胎土	色調１（胎土）	色調２（釉薬，内外色調）	色調３（呉須，上絵）	調整	備考
1	A	SK040	土師質	皿	在地	7.0	0.9	5.0	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内面：にぶい橙 7.5YR7/4 外面：にぶい橙 5YR7/4		内外面：摩滅	
2	A	SK040	土師質	皿	在地	7.6	0.8	5.6	良	灰白 10YR8/2	内外面：灰白 10YR8/2		内外面：回転ナデ	
3	A	SK040	土師質	灯明皿	在地	8.0	1.3	5.0	良	灰白 10YR8/2	内面：灰白 10YR8/2 外面：灰白 7.5YR8/2		内面：回転ナデ・摩滅 外面：摩滅	口縁部：すす付着
4	A	SK040	土師質	皿	在地	8.2			良	灰白 10YR8/2	内外面：灰白 10YR8/2		内外面：回転ナデ	
5	A	SK040	土師質	皿	在地	8.7			良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3		内外面：回転ナデ	
6	A	SK040	土師質	皿	在地	8.0			良	にぶい黄橙 10YR7/4	内面：にぶい橙 7.5YR7/4 外面：にぶい黄橙 10YR7/4		内外面：摩滅	
7	A	SK040	土師質	皿	在地	6.7	1.0	5.2	良	灰白 10YR8/2	内外面：灰白 10YR8/2		内外面：回転ナデ 底部：回転糸切り	
8	A	SK040	土師質	皿	在地	8.2			良	橙 5YR7/6	内面：にぶい橙 5YR7/4 外面：橙 5YR7/6		内外面：回転ナデ	
9	A	SK040	土師質	皿	在地	8.8			良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3		内外面：摩滅	
10	A	SK040	土師質	灯明皿	在地	9.0	1.2	5.0	良	浅黄橙 7.5YR8/3	内外面：浅黄橙 7.5YR8/3		内外面：回転ナデ	口縁部：すす付着
11	A	SK040	土師質	皿	在地	10.3			良	橙 5YR7/6	内外面：橙 5YR7/6		内外面：回転ナデ	
12	A	SK040	土師質	灯明皿	在地	10.2			良	灰白 7.5YR8/1	内外面：灰白 7.5YR8/1		内外面：回転ナデ	口縁部：すす付着
13	A	SK040	土師質	灯明皿	備前系	10.1	2.2	5.2	良	橙 2.5YR6/6	内面：橙 2.5YR6/6 外面：橙 2.5YR7/6		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	口縁部：すす付着
14	A	SK040	土師質	皿	在地	12.0			良	浅黄橙 7.5YR8/4	内外面：浅黄橙 7.5YR8/4		内外面：回転ナデ	
15	A	SK040	土師質	皿	在地	11.8			良	灰白 7.5YR8/2	内外面：灰白 7.5YR8/2		内外面：回転ナデ	
16	A	SK040	土師質	焙烙	在地	29.7			良	灰黄褐 10YR6/2	内面：灰黄褐 10YR6/2 外面：褐灰 10YR4/1		内面：ナデ 外面：ナデ・指押さえ	
17	A	SK040	磁器	皿	肥前系	11.8	3.4	3.9	精良	灰白 2.5GY8/1	内面：透明釉 外面：透明釉 （にぶい橙 7.5YR7/4）	絵付：淡緑青	外面：回転ナデ	見込み：蛇ノ目釉剥ぎ
18	A	SK040	磁器	碗	肥前系	10.4			精良	灰白 N8/	内面：透明釉 外面：透明釉 緑釉（明緑灰 10GY7/1）	口紅：鉄釉 （にぶい赤褐 5YR4/3）		
19	A	SK040	陶器	土瓶	京・信楽系	5.8		3.4	良	淡黄 2.5Y8/3	内外面：透明釉	絵付：鉄釉	内外面：回転ナデ	貫入あり 脚３箇所か
20	A	SK040	陶器	碗	京・信楽系			5.7	精良	灰白 2.5Y7/1	内外面：透明釉 （にぶい黄 2.5Y6/3）		外面：回転ナデ	見込み：蛇ノ目釉剥ぎ
21	A	SK040	陶器	鉢	肥前系			13.4	良	にぶい橙 5YR7/4	内外面：刷毛目			見込み：砂目
34	A	SK045	土師質	焼塩壺蓋	不明	7.3	1.8	7.3	やや粗	橙 5YR6/6	内外面：橙 5YR6/6		内面：布目痕 外面：ナデ	
35	A	SK045	土師質	皿	在地	7.6	0.9	6.3	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3		内外面：回転ナデ	
36	A	SK045	土師質	皿	在地	7.6	0.9	6.1	良	灰白 2.5Y8/2	内外面：灰白 2.5Y8/2		内外面：回転ナデ	
37	A	SK045	土師質	皿	在地	8.0	1.0	2.6	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3		内外面：回転ナデ 底部：回転糸切りか？	
38	A	SK045	土師質	皿	在地	8.6			良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面：にぶい橙 7.5YR7/4		内外面：回転ナデ	
39	A	SK045	土師質	皿	在地	8.6			良	浅黄橙 7.5YR8/4	内外面：浅黄橙 7.5YR8/4		内外面：回転ナデ	
40	A	SK045	陶器	皿	備前	9.8			良	灰白 N7/	内外面：灰白 N7/		内外面：回転ナデ	青備前
41	A	SK045	磁器	紅皿	肥前系	6.4	2.0	2.8	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		釉発泡 外面に釉着物
42	A	SK045	磁器	瓶	肥前系		(3.8)		精良	灰白 N8/	内面：灰白 N8/ 外面：透明釉	呉須：淡青・濃青	内面：回転ナデ	釉発泡 内面：釉垂れ
43	A	SK045	磁器	仏飯器	肥前系			3.6	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		外面脚部：釉剥ぎ 底部：砂粒付着
44	A	SK045	磁器	碗	肥前系	10.0	5.3	3.7	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・濃青		高台畳付に砂粒付着 釉発泡
45	A	SK045	磁器	碗	肥前系	10.4	5.4	4.1	精良	灰白 10YR8/1	内外面：透明釉	呉須：淡青・濃青		釉発泡
46	A	SK045	磁器	碗	肥前系	10.2			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		
47	A	SK045	磁器	碗	肥前系	11.0			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		
48	A	SK045	磁器	碗	肥前系	11.2			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡緑青		
49	A	SK045	磁器	碗	肥前系	10.4	4.8	4.1	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		
50	A	SK045	磁器	皿	肥前系	12.8	3.6	4.3	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗緑		見込み：蛇ノ目釉剥ぎ
51	A	SK045	陶器	碗	京焼系	9.8	5.1		精良	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面：明緑灰 7.5GY7/1	上絵：緑・青・茶		貫入あり
52	A	SK045	陶器	碗	瀬戸・美濃系	8.8			やや粗	灰白 7.5Y7/1	内外面：透明釉	絵付：鉄釉		貫入あり
53	A	SK045	陶器	碗	肥前系	10.6	7.3	5.2	良	灰 N6/	内外面：透明釉	呉須：暗淡青		陶胎染付 高台畳付に砂粒付着
54	A	SK045	陶器	鉢	肥前系	21.4	7.3	8.0	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：刷毛目			見込み：蛇ノ目釉剥ぎ 砂目 高台畳付に砂粒付着
55	A	SK045	陶器	蓋	備前系	11.8	1.8	15.6	良	灰 N5/	内面：灰 N5/ 外面：橙 2.5YR6/6		内外面：回転ナデ	
56	A	SK045	陶器	碗	瀬戸・美濃系	11.8			精良	灰白 5Y8/1	内外面：透明釉 （にぶい黄 2.5Y6/4）			貫入あり

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	産地	法量（cm）			胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬、内外色調）	色調3（呉須、上絵）	調整	備考
						口径	器高	底径						
57	A	SK045	陶器	急須	京・信楽系	7.5			良	灰白 5Y8/2	内外面：透明釉	絵付：鉄釉（黄灰 2.5Y6/2）	内面：回転ナデ	貫入あり
58	A	SK045	陶器	瓶？	京・信楽系			10.2	良	にぶい橙 5YR7/4	内面：灰白 2.5Y8/2 外面：透明釉 底部：赤 10R5/6		内外面：回転ナデ	
59	A	SK045	土師質	不明	在地	幅 5.7	高さ 3.3		良	灰白 7.5YR8/2	内面：灰白 7.5YR8/2 外面：橙 5YR7/6		内面：ナデ・工具の当り痕 外面：ナデ	
60	A	SK045	土師質	焙烙	在地		(2.5)		良	灰褐 7.5YR6/2	内面：灰褐 7.5YR6/2 外面：褐灰 7.5YR4/1		内外面：回転ナデ・ナデ	内耳２箇所
61	A	SK045	陶器	摺鉢	備前	31.0			良	灰 5Y6/1	内面：赤褐 10R4/3 外面：にぶい赤褐 7.5R4/3		内面：摺り目・回転ナデ 外面：回転ナデ	
62	A	SK045	土師質	羽釜	在地		(4.0)		良	褐灰 7.5YR5/1	内面：褐灰 7.5YR5/1 外面：褐灰 7.5YR4/1		内面：ハケ 外面：ハケ・ナデ・指押さえ	
63	A	SK045	土師質	焜炉？	在地			23.6	良	明褐 5YR5/6	内外面：明褐 5YR5/6		内面：ナデ 外面：回転ナデ，ナデ	外面：施文あり？
66	A	SK030	磁器	紅皿	肥前系	7.0			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		
67	A	SK030	陶器	碗	瀬戸・美濃系	12.1			やや粗	灰白 7.5Y8/1	内外面：透明釉	上絵：緑・銀		貫入あり
68	A	SK030	陶器	火入	京焼系	8.5			良	灰白 10YR8/2	内外面：透明釉	上絵：緑 鉄釉・呉須（淡青）	内面：回転ナデ	
69	A	SK030	陶器	蓋	肥前系	5.9	2.15	4.1	良	にぶい橙 7.5YR7/3	内面：にぶい橙 7.5YR7/3 外面：鉄釉		内面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	精釉陶器 底部釉着物あり
70	A	SK030	陶器	壺	肥前系	7.0		7.4	精良	灰白 10YR5/1	内外面：鉄釉		外面底部：回転ナデ	精釉陶器
71	A	SK030	陶器	碗	肥前系	15.1			やや粗	明褐灰 7.5YR7/2	内面：刷毛目 外面：鉄釉			
72	A	SK030	土師質	羽釜	在地	18.7			良	褐灰 10YR6/1	内面：黄灰 2.5Y4/1 外面：黒褐 2.5Y3/1		内面：回転ナデ・ナデ・ハケ 外面：回転ナデ・ナデ・指押さえ	鍔にすす付着
73	A	SK030	土師質	甕	在地	29.4			良	灰褐 7.5YR6/2	内面：にぶい褐 7.5YR6/2 外面：灰褐 7.5YR6/2		内面：ナデ・指押さえ 外面：ナデ	
76	A	SK025	磁器	杯	肥前系	5.8			精良	灰白 10Y8/1	外外面：透明釉			
77	A	SK025	土師質	杯	在地	9.4			精良	橙 5YR7/6	内面：淡黄 2.5Y8/3 外面：浅黄橙 7.5YR8/3		内外面：回転ナデ	
78	A	SK025	陶器	火入	肥前系	9.6			精良	灰白 N8/	内外面：緑釉 7.5GY7/1			
79	A	SK025	陶器	皿	瀬戸・美濃系			3.7	精良	灰白 10Y8/1	外外面：透明釉			貫入あり
80	A	SK025	瓦質	焙烙	在地		(1.8)		良	灰 N5/	内外面：灰 N4/		内面：ナデ 外面：ナデ・指押さえ	
82	A	SK025	陶器	鉢	瀬戸・美濃系	19.6			良	灰白 5Y8/2	内外面：透明釉			貫入一部あり
83	A	SK025	土師質	羽釜	在地	19.2		12.0	良	にぶい褐 7.5YR5/4	内面：にぶい褐 7.5YR5/4 外面：黄灰 2.5Y5/1		内外面：横ナデ・ハケ・指押さえ	
84	A	SK005	陶器	杯	瀬戸・美濃系	5.8	3.7	3.0	やや粗	灰白 2.5Y8/1	内外面：透明釉			
86	A	SK005	陶器	鉢	肥前系	36.1			精良	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内面：刷毛目，鉄釉 外面：鉄釉			降灰あり
85	A	SK005	陶器	土瓶or土鍋	不明			4.9	精良	灰 5Y6/1	内外面：透明釉（オリーブ 5Y5/4）		外面：回転ヘラケズリ	貫入一部あり 一部釉発泡
87	A	SK015	磁器	碗	肥前系	7.5			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：明青		
88	A	SK015	磁器	碗	肥前系	11.4			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青・淡青		
89	A	SK015	陶器	碗	肥前系	8.8			精良	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面：刷毛目			
90	A	SK050	土師質	皿	在地	8.65	1.5	5.8	良	浅黄橙 7.5	内外面：浅黄橙 7.5YR8/6		内外面：回転ナデ 底部：回転糸切り	
91	A	SK010	土師質	杯	在地		(1.9)		良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面：にぶい黄橙 10YR7/4		ナデ？	摩滅著しい
92	A	SK055	土師質	皿	在地	10.0			良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3		内外面：摩滅	
93	A	SK060	土師質	皿	在地	6.1	1.05	4.1	やや粗	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3		内外面：回転ナデ 底部：回転糸切り？	
94	A	SK060	磁器	高杯	肥前系			5.4	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			神具高杯脚部
95	A	SP027	磁器	御神酒徳利	肥前系		(3.3)		精良	灰白 N8/	内面：灰白 N8/ 外面：透明釉	呉須：明青	内面：回転ナデ	
104	A	SK125・130・135 一段下げ	磁器	碗	肥前系	7.4			精良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉	呉須：明青		口縁部：釉剥ぎ 貫入あり
105	A	SK125	磁器	碗	肥前系	8.2			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		
106	A	SK125	磁器	碗	肥前系	9.8			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・濃青		釉発泡 貫入あり
107	A	SK125・130・135 一段下げ	磁器	碗	肥前系	10.9			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			
108	A	SK125・130・135 一段下げ	磁器	猪口	肥前系	7.2	4.7	3.7	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		釉発泡
109	A	SK125・130・135 一段下げ	磁器	猪口	肥前系			2.8	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		釉発泡 一部に貫入あり
110	A	SK125・130・135 一段下げ	磁器	碗	肥前系	10.9			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		貫入あり
111	A	SK125	磁器	碗	肥前系	11.2			良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・明青		貫入あり

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	産地	法量（cm）			胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬，内外色調）	色調3（呉須，上絵）	調整	備考
						口径	器高	底径						
112	A	SK125・130・135 一段下げ	磁器	碗	肥前系	10.8			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		
113	A	SK125	磁器	碗	肥前系	11.8			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・濃青		
114	A	SK125	磁器	碗	肥前系			4.8	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・明青		釉発泡
115	A	SK125	磁器	碗	肥前系			4.9	精良	灰白 N8/	内面：透明釉 外面：緑釉（明緑灰 10GY7/1）	呉須：淡青・濃青		釉発泡 一部貫入あり
116	A	SK125	陶器	碗	京・信楽系	10.6	5.6	4.8	良	灰白 7.5Y8/2	内外面：灰釉 （にぶい黄 2.5Y6/4）	外面・底部：塗土 口縁部：口錆		貫入あり
117	A	SK125	陶器	碗	唐津	13.4	7.9	5.6	良	浅黄橙 10YR8/3	内面：灰白 10Y8/1 外面：灰白 5Y8/1			釉の剥落が見られる
118	A	SK125・130・135 一段下げ	陶器	摺鉢	備前系		(4.2)		良	灰白 N7/	内外面：暗赤灰 7.5R4/1		内面：回転ナデ・摺り目 外面：回転ナデ	
119	A	SK125・130・135 一段下げ	陶器	摺鉢	備前	29.9			やや粗	灰白 N7/	内面：にぶい赤褐 2.5YR4/3 外面：灰赤 2.5YR5/2		内面：摺り目・回転ナデ 外面：回転ナデ	外面口縁部分：自然釉付着 重ね焼きの痕跡あり
120	A	SK125	土師質	火鉢	在地	25.4	4.3	20.6	粗	にぶい橙 7.5YR7/3	内面：にぶい橙 7.5YR7/3 外面：にぶい黄橙 10YR7/3		内面：回転ナデ 外面：剥離	
121	A	SK125・130・135 一段下げ	土師質	焙烙	在地	29.6			良	にぶい黄橙 10YR7/2	内面：にぶい黄橙 10YR7/2 外面：褐灰 10YR4/1		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・指押さえ	
122	A	SK125・130・135 一段下げ	土師質	焙烙鍋	在地	23.8			良	褐灰 7.5YR4/1	内面：褐灰 7.5YR4/1 外面：黒褐 7.5YR3/1		内面：ハケ・ナデ 外面：ナデ・指押さえ	
123	A	SK125	土師質	焙烙	在地		(0.9)		良	灰 7.5Y6/1	内外面：灰 N5/		内面：ハケ 外面：ナデ・指押さえ	
124	A	SK125	土師質	杯？	在地	8.6			良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3		内外面：回転ナデ	
125	A	SK125	土師質	皿	在地	10.2			精良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3		内外面：回転ナデ	
126	A	SK125	土師質	皿	在地	11.0	1.6	7.3	やや粗	灰白 10YR8/2	内外面：灰白 10YR8/2		内外面：回転ナデ 底部：回転糸切り	
127	A	SK125	土師質	皿	在地	11.0	1.8	7.4	やや粗	灰白 10YR8/2	内外面：灰白 10YR8/2		内外面：回転ナデ	
128	A	SK125・130・135 一段下げ	土師質	皿	在地	11.8	1.5	8.8	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内面：にぶい橙 7.5YR7/4 外面：にぶい橙 5YR7/4		内外面：回転ナデ	
129	A	SK125	土師質	皿	在地	12.0	1.7	8.2	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3		内外面：回転ナデ	
130	A	SK125	土師質	皿	在地			7.7	良	にぶい黄橙 10YR7/2	内外面：にぶい黄橙 10YR7/2		内外面：回転ナデ 底部：回転糸切り	
131	A	SK125・130・135 一段下げ	土師質	皿	在地	9.2	1.3	6.6	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内面：にぶい黄橙 10YR7/4 外面：にぶい黄橙 10YR6/3		内外面：回転ナデ 底部：回転糸切り	
132	A	SK125・130・135 一段下げ	土師質	皿	在地			6.2	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内面：にぶい橙 7.5YR7/4 外面：にぶい黄橙 10YR7/3		内面：回転ナデ 底部：回転糸切り	
133	A	SK125	土師質	皿	在地			5.8	やや粗	淡黄 2.5Y8/4	内外面：淡黄 2.5Y8/4		内外面：回転ナデ 底部：ヘラ状の押圧痕	
135	A	SK125	陶器	灯明受皿	備前	9.2	1.6	2.8	良	灰 N5/	内外面：灰 N5/		内外面：回転ナデ	青備前 内面：付着物あり
134	A	SK125・130・135 一段下げ	土師質	皿	在地	9.0			良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面：にぶい橙 7.5YR7/4		内外面：回転ナデ	口縁部：すす付着
137	A	SK125・130・135 一段下げ	土師質	鉢	在地	22.8	13.0	9.8	良	橙 5YR7/6	内面：橙 5YR7/6 外面：橙 7.5YR7/6		内面：ハケ 外面：指押さえのちナデ	焼成後穿孔
142	A	SK080	陶器	摺鉢	備前	29.4			やや粗	灰白 10Y7/1	内外面：にぶい赤褐 7.5R4/3		内面：摺り目・回転ナデ 外面：回転ナデ	
143	A	SK080	土師質	鍋	在地	20.6			良	浅黄 5Y7/3	内面：黄灰 2.5Y4/1 外面：黒褐 2.5Y3/1		内面：ハケ 外面：回転ナデ・指押さえ	
144	A	SK105	磁器	紅皿	肥前系	4.5	1.8	1.5	良	灰白 N8/	内外面：透明釉		外面：型押し（菊花）	
145	A	SK105	磁器	紅皿	肥前系	4.6	1.9	1.6	良	灰白 7.5Y8/1	内外面：透明釉		外面：型押し（菊花）	
146	A	SK105	磁器	紅皿	肥前系	5.0	1.5	2.0	良	灰白 N8/	内外面：透明釉		外面：型押し（菊花）	
147	A	SK105	磁器	杯	肥前系	6.5			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			
148	A	SK105	磁器	杯	肥前系	6.8			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			
149	A	SK105	磁器	杯	肥前系	7.0			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		
150	A	SK105	磁器	碗	京焼系	8.1	4.0	3.3	精良	灰白 7.5Y8/1	内外面：透明釉	呉須：暗青 上絵：腐食		高台畳付融着物あり 釉発泡
151	A	SK105	磁器	碗	肥前系			3.4	良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉	呉須：明暗青		貫入あり
152	A	SK105	陶器	碗	京・信楽系			3.1	良	灰白 10YR8/1	内外面：透明釉			貫入あり
153	A	SK105	磁器	碗	肥前系			4.0	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			見込み：蛇ノ目釉剥ぎ 砂目 高台砂粒付着
154	A	SK105	磁器	碗	肥前系		(4.0)		精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青・淡青		
155	A	SK105	磁器	碗	肥前系		(5.2)		良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青・明青		釉発泡
156	A	SK105	磁器	碗	肥前系		(3.8)		精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		「とさ」 貫入あり
157	A	SK105	磁器	皿	肥前系	11.4			良	灰白 N8/	内外面：透明釉	内面：呉須（暗青） 外面：呉須（明青）		釉発泡

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	産地	法量（cm）			胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬、内外色調）	色調3（呉須、上絵）	調整	備考
						口径	器高	底径						
158	A	SK105	磁器	皿	肥前系			3.8	精良	灰白 N8/	内面：透明釉 外面：緑釉（明緑灰7.5GY7/1） 底部：透明釉	呉須：淡青・濃青		貫入あり
159	A	SK105	磁器	皿	肥前系			4.6	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		見込み：蛇ノ目釉剥ぎ
160	A	SK105	磁器	瓶？	肥前系			4.4	精良	灰白 N8/	内面：灰白 N8/ 外面：透明釉	呉須：暗青		
161	A	SK105	陶器	蓋	京・信楽系	7.6	2.9	7.7	精良	灰白 5Y7/1	内面：灰白 5Y7/1 外面：透明釉		内面：回転ナデ	貫入多い
162	A	SK105	陶器	碗	京焼系	8.5			良	灰白 7.5Y8/1	内外面：透明釉	上絵：赤・不明		
163	A	SK105	陶器	碗	京・信楽系	11.7			良	灰白 N7/	内外面：透明釉			
164	A	SK105	陶器	碗	肥前系	12.1	4.7	4.5	良	淡橙 5YR8/3	内外面：刷毛掛け （浅黄 2.5Y7/4・浅黄 7.5Y8/3）			
165	A	SK105	陶器	鉢	肥前系	13.6	5.2	4.8	やや粗	灰 N5/	内外面：灰オリーブ 7.5Y5/2	打刷毛		一部に貫入あり
166	A	SK105	陶器	不明	肥前系			9.4	良	浅黄 2.5Y7/3	内面：透明釉 （にぶい黄橙 10YR6/3） 外面：透明釉 （にぶい褐 7.5YR6/3）			
167	A	SK105	陶器	碗	京・信楽系	9.3			良	灰白 7.5Y8/1	内外面：透明釉	上絵：朱		貫入あり
168	A	SK105	陶器	碗	京焼系	9.7	5.0	3.2	良	灰白 7.5Y8/1	内外面：透明釉 （明オリーブ灰 2.5GY7/1）	上絵：腐食		貫入あり
169	A	SK105	陶器	碗	京・信楽系			2.8	良	灰白 N7/	内外面：透明釉			貫入あり
170	A	SK105	陶器	碗	京・信楽系			2.5	良	灰白 2.5Y8/2	内外面：透明釉			貫入あり
171	A	SK105	陶器	碗	瀬戸・美濃系			3.4	粗	灰白 7.5Y8/1	内外面：透明釉（淡黄 5Y8/3）			貫入あり
172	A	SK105	陶器	碗	京・信楽系			3.2	やや粗	灰白 2.5Y8/1	内外面：透明釉			
173	A	SK105	陶器	碗	肥前系			4.8	良	浅黄橙 10YR8/4	内外面：透明釉			貫入あり 高台畳付に付着物あり
174	A	SK105	陶器	火入	肥前系	6.3			精良	灰白 5Y8/1	内面：灰白 5Y8/1 外面：緑釉（明緑灰 10GY7/1）		内面：回転ナデ	口縁部に欠損あり
175	A	SK105	陶器	皿	瀬戸・美濃系			3.6	粗	灰白 5Y8/1	内外面：透明釉 （オリーブ黄 5Y6/4）			線彫りによる施紋
176	A	SK105	陶器	灯明受皿	備前系	7.9	1.2	3.6	良	暗赤褐 2.5YR3/3	内外面：暗赤褐 2.5YR3/3		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	
177	A	SK105	陶器	鉢	肥前系	17.2			良	にぶい橙 7.5Y6/4	内外面：鉄釉（褐 10YR4/4）			口縁端部無釉
178	A	SK105	陶器	皿	京・信楽系		(1.7)		精良	灰白 5Y8/2	内外面：透明釉			
179	A	SK105	陶器	皿？	瀬戸・美濃系		(1.7)		やや粗	灰白 7.5Y7/2	内外面：透明釉			線彫りによる施紋
180	A	SK105	磁器	仏飯器	肥前系			3.8	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			高台畳付に砂粒付着
181	A	SK105	土師質	漏斗？	在地	5.8			良	浅黄橙 7.5YR8/4	内面：浅黄橙 7.5YR8/4 外面：にぶい橙 7.5YR7/4		内面：回転ナデ 外面：摩滅	
182	A	SK105	土師質	三足羽釜	在地		(3.7)		やや粗	にぶい橙 5YR7/4	内外面：にぶい橙 5YR7/4		外面：摩滅	
183	A	SK105	瓦質	カマド？	在地		5.1		良	灰白 7.5Y7/1	内外面：暗灰 N3/		内面：ナデ 外面：摩滅	
185	A	SK105	陶器	摺鉢	備前系		(5.8)		良	赤 10R5/6	内面：赤 10R5/6 外面：赤褐 10R5/4		内面：回転ナデ・摺り目 外面：回転ナデ	重焼きの痕跡あり
186	A	SK105	陶器	摺鉢	備前系		(4.1)		良	灰白 N7/	内面：暗赤灰 2.5YR3/3 外面：黒褐 2.5YR3/1		内面：回転ナデ・摺り目 外面：回転ナデ	外面：降灰
188	A	SK105	陶器	摺鉢	不明	19.4			良	灰 10Y6/1	内外面：明赤褐 5YR3/2		内面：摺り目・回転ナデ 外面：回転ナデ	
189	A	SK105	陶器	瓶	備前系	3.5			良	灰白 7.5Y7/1	内面：灰白 7.5Y7/1 外面：暗赤褐 10R3/3		内面：回転ナデ	
187	A	SK105	陶器	すり鉢	備前		(5.0)		良	赤褐 10R5/3	内外面：赤褐 10R5/3		内面：回転ナデ・摺り目 外面：回転ナデ	摺目元体8条
190	A	SK105	陶器	徳利	備前系？	2.3			精良	明赤褐 2.5YR5/6	内面：明赤褐 2.5YR5/6 外面：褐釉		内外面：回転ナデ	
191	A	SK105	陶器	瓶？	備前系？			6.3	精良	橙 2.5Y6/6	内面：橙 2.5Y6/6 外面：灰褐 5YR4/2		内外面：回転ナデ	
192	A	SK105	土師質	鉢	在地	22.6			粗	橙 2.5YR6/6	内外面：橙 2.5YR6/6		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・ナデ	
193	A	SK105	土師質	鉢	在地	22.0			やや粗	明褐灰 5YR7/1	内面：明褐灰 5YR7/1 外面：橙 5YR6/6		内面：回転ナデ 外面：指押さえ・ナデ	
194	A	SK105	土師質	焙烙	在地	34.2			良	灰褐 7.5YR5/2	内面：灰褐 7.5YR5/2 外面：灰褐 7.5YR6/2		内外面：回転ナデ	
195	A	SK105	土師質	焙烙	在地	39.4			良	浅黄 2.5Y7/3	内面：褐灰 10YR5/1 外面：黒褐 10YR3/1		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・指押さえ・ナデ	
196	A	SK105	土師質	鉢？	在地			21.5	やや粗	灰白 7.5YR8/2	内外面：灰白 7.5YR8/2		内面：ハケ・指押さえ・ナデ 外面：指押さえのちナデ	
205	A	SK065	磁器	碗	肥前系	10.4			精良	灰白 N8/	内面：透明釉 外面：透明釉 緑釉（明緑灰 10GY7/1）			
206	A	SK065	土師質	皿	在地	(1.3)			良	にぶい黄橙 10YR7/4	内面：にぶい黄橙 10YR7/4 外面：にぶい黄橙 10YR7/3		内外面：回転ナデ	
207	A	SK065	土師質	皿	在地	(1.0)			良	にぶい黄橙 10YR7/2	内外面：にぶい黄橙 10YR7/2		内外面：回転ナデ	
208	A	SK115	陶器	灯明皿	肥前系	4.6			良	灰白 7.5Y8/1	内外面：透明釉		外面：型押し（菊花）	
209	A	SK115	陶器	灯明皿	備前系	9.3			精良	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内外面：にぶい赤褐 2.5YR4/4		内外面：回転ナデ	口縁部分：すす付着
210	A	SK115	陶器	碗	瀬戸・美濃系			5.1	やや粗	灰白 5Y8/2	内面：透明釉 外面：鉄釉 暗褐 7.5YR3/3			内面：焼成時の付着物

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	産地	法量（cm）			胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬，内外色調）	色調3（呉須，上絵）	調整	備考
						口径	器高	底径						
212	A	SK115	陶器	摺鉢	備前系		(4.0)		良	灰 N5/	内外面：にぶい赤褐 2.5R5/3		内面：摺り目・回転ナデ 外面：回転ナデ	
213	A	SK115	土師質	堤炉？	在地		(5.8)		良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面：にぶい橙 7.5YR7/4		内面：ナデ 外面：回転ナデ	
214	A	SK115	土師質	甕	在地	25.6			やや粗	にぶい橙 7.5YR7/4	内面：橙 5YR6/6 外面：にぶい橙 7.5YR7/4		内面：指押さえのちナデ 外面：ナデ・指押さえ・波状文	
215	A	SK110	陶器	壺？	不明			4.8	精良	灰白 2.5Y8/1	内面：灰白 2.5Y8/1 外面：透明釉		内面：回転ナデ	貫入多い
216	A	SK110	土師質	鉢？	在地		(4.6)		やや粗	橙 2.5YR6/8	内外面：橙 2.5YR6/8		内面：回転ナデ・ハケ 外面：回転ナデ	
218	A	SK90・95	陶器	紅皿	肥前系	4.6	1.6	1.7	良	灰白 N8/	内外面：透明釉		外面：型押し（菊花）	
219	A	SK90・95	陶器	紅皿	肥前系	5.6	2.1	2.9	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		
220	A	SK90・95	陶器	紅皿	肥前系	5.8	2.0	2.9	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		
221	A	SK90・95	陶器	紅皿	肥前系	5.8	2.7	2.8	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		外面釉着物あり 釉発泡
222	A	SK90・95	磁器	碗	肥前系	4.1	2.6	4.9	良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		釉発泡 貫入あり
223	A	SK90・95	磁器	猪口	肥前系	6.9	5.2	4.2	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		釉発泡
224	A	SK90・95	磁器	皿	肥前系	12.9	2.9	9.9	良	灰白 7.5Y8/1	内外面：透明釉	呉須：暗青		貫入あり
225	A	SK90・95	陶器	碗	京・信楽系	9.0			良	灰白 2.5Y8/2	内外面：透明釉			貫入あり
226	A	SK90・95	陶器	碗	瀬戸・美濃系	12.6	6.2	4.2	良	灰白 7.5Y7/1	内外面：透明釉	絵付：鉄釉（オリーブ 7.5Y2/2）		貫入あり
227	A	SK90・95	陶器	碗	京・信楽系			3.4	良	灰白 2.5Y8/2	内外面：透明釉			貫入あり 225と同一個体か？
228	A	SK90・95	陶器	火入？	備前	9.4			良	赤褐 2.5YR4/6	内面：赤褐 2.5YR4/6 外面：にぶい赤褐 5YR4/3		内外面：回転ナデ	
229	A	SK90・95	陶器	鍋	不明	14.2			精良	灰 7.5Y6/1	外面：鉄釉（にぶい赤褐 5YR4/3）		内外面：回転ナデ	精釉陶器
230	A	SK90・95	陶器	甕	常滑	18.6			やや粗	にぶい黄橙 10YR7/2	内面：浅黄橙 10YR8/3 外面：暗赤褐 2.5YR3/2		内外面：回転ナデ	
231	A	SK90・95	陶器	壺？甕？	備前系			12.2	良	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内面：にぶい赤褐 2.5YR4/4 外面：にぶい赤褐 2.5YR4/3		内外面：回転ナデ	窯印あり
232	A	SK90・95	陶器	灯明受皿	備前系	11.0			良	赤褐 10R4/3	内面：赤褐 10R4/4 外面：赤褐 10R4/3		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・ 回転ヘラケズリ	
233	A	SK90・95	土師質	皿	在地	8.2			良	橙 7.5YR7/6	内外面：橙 7.5YR7/6		内外面：回転ナデ	
234	A	SK90・95	土師質	甕	在地	11.0			良	橙 7.5YR7/6	内面：橙 7.5YR7/6 外面：浅黄橙 10YR8/4		内外面：回転ナデ 外面：波状文	
235	A	SK90・95	土師質	甕	在地	30.6			やや粗	橙 5YR7/6	内面：橙 5YR7/6 外面：にぶい橙 5YR7/4		内面：回転ナデ 外面：摩滅	
236	A	SK90・95	土師質	甕	在地	24.9			やや粗	褐灰 7.5YR6/1	内面：橙 5YR6/6 外面：灰褐 5YR5/2		内面：回転なで 外面：回転ナデ・波状文	波状文4条1体
237	A	SK90・95	土師質	焙烙	在地	33.0			良	にぶい褐 7.5YR5/3	内外面：にぶい褐 7.5YR5/3		内面：回転ナデ・指押さえ・ナデ 外面：回転ナデ・指押さえ	外面：すす付着
238	A	SK90・95	陶器	摺鉢	備前系	33.4			良	赤 10R5/6	内面：にぶい赤褐 5YR5/4 外面：明赤褐 2.5YR3/4		内面：摺り目・回転ナデ 外面：回転ナデ	
243	A	SK90 周辺壁	陶器	碗	京・信楽系			5.1	精良	褐灰 10YR6/1	内外面：鉄釉 黒 10YR2/1			高台畳付付着物あり
244	A	SK90 周辺壁	陶器	摺鉢	備前系	28.5			良	赤 10R5/6	内外面：にぶい褐 7.5YR5/4		内面：回転ナデ・摺り目 外面：回転ナデ	
245	A	SK100	陶器	紅皿	肥前系	4.4	1.4	1.9	良	灰白 N8/	内外面：透明釉		外面：菊花	外面：赤色顔料付着
246	A	SK100	磁器	紅皿	肥前系	5.6			精良	灰白 7.5Y8/1	内外面：透明釉	呉須：暗青		外面：付着物あり
247	A	SK100	磁器	紅皿	肥前系	5.8	1.9	1.8	良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉			
248	A	SK100	磁器	紅皿	肥前系	6.0			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		
249	A	SK100	磁器	杯	肥前系			3.2	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			高台畳付に砂粒付着
250	A	SK100	磁器	碗	肥前系	10.4			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須・淡青		貫入あり
251	A	SK100	磁器	碗	肥前系	10.2			良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：明青		釉発泡
252	A	SK100	磁器	碗	肥前系	10.0			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・明青		釉発泡
253	A	SK100	磁器	皿	肥前系	11.0			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		釉発泡
254	A	SK100	陶器	蓋	不明	10.0			精良	淡黄 2.5Y8/3	内面：釉土（橙 7.5YR6/6） 外面：鉄釉（黒褐 7.5YR3/2）		内面：回転ナデ	精釉陶器
255	A	SK100	陶器	碗	京・信楽系	9.6			精良	にぶい黄橙 10YR7/2	内外面：透明釉（にぶい黄橙 10YR6/3）			貫入あり
256	A	SK100	陶器	碗	京・信楽系	11.4			良	灰白 10Y7/1	内外面：透明釉			貫入あり
257	A	SK100	陶器	碗	京焼系	11.2			良	灰黄褐 10YR6/2	内外面：透明釉（灰黄 2.5Y7/2）	上絵：緑		貫入あり
258	A	SK100	陶器	碗	京・信楽系	11.0			良	灰 5Y6/1	内外面：透明釉	呉須：暗青		貫入あり
259	A	SK100	陶器	不明	京・信楽系			3.0	精良	灰白 5Y7/1	内外面：透明釉（灰オリーブ 5Y6/2）			貫入あり
260	A	SK100	陶器	急須？	京・信楽系	6.1			精良	灰白 5Y8/1	内外面：透明釉（灰黄 2.5Y6/2）			貫入一部にあり
261	A	SK100	陶器	火入	京・信楽系	8.8			良	灰 7.5Y6/1	内面：透明釉（にぶい橙 7.5YR6/4） 外面：透明釉	呉須？：淡青	内面：回転ナデ	貫入あり

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	産地	法量（cm）			胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬、内外色調）	色調3（呉須、上絵）	調整	備考
						口径	器高	底径						
262	A	SK100	陶器	碗	瀬戸・美濃系	10.0			やや粗	灰白 10Y8/1	内面：透明釉（灰白 7.5Y7/2） 外面：透明釉（灰オリーブ 7.5Y6/2）		沈線：4条	貫入あり
263	A	SK100	陶器	壺	瀬戸・美濃系	11.0			良	淡黄 5Y8/3	内外面：透明釉	絵付：鉄釉		貫入あり
264	A	SK100	土師質	皿	在地	9.0	0.9	6.2	良	浅黄橙 7.5YR8/3	内外面：浅黄橙 7.5YR8/3		内外面：回転ナデ	
265	A	SK100	土師質	皿	在地	9.4			良	浅黄橙 7.5YR8/3	内面：浅黄橙 7.5YR8/3 外面：にぶい黄橙 7.5YR7/4		内外面：摩滅	
266	A	SK100	土師質	皿	在地	11.0			良	淡橙 5YR8/4	内外面：淡橙 5YR8/4		内外面：回転ナデ	
267	A	SK100	陶器	灯明皿	備前系	8.2			良	橙 5YR6/6	内面：塗土（赤 10R5/6） 外面：塗土（赤褐 2.5YR4/8）		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	口縁部：すす付着
268	A	SK100	陶器	灯明受皿	備前系	7.2			良	灰 7.5Y6/1	内外面：灰褐 7.5YR5/2	口縁部分：透明釉	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	
269	A	SK100	陶器	灯明受皿	備前	8.2	1.2	4.0	精良	灰 N5/	内外面：灰赤 2.5YR4/2		内外面：回転ナデ	口縁部：すす付着
271	A	SK100	陶器	灯明受皿	備前系	11.0			精良	赤 10R5/6	内外面：赤 10R4/6		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	
270	A	SK100	陶器	灯明受皿	備前系	10.4			精良	赤褐 10R6/6	赤 10R5/6		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	口縁部：すす付着
272	A	SK100	陶器	甕	在地	24.0			良	灰白 N7/	内面：鉄釉 褐 10YR4/4 外面：鉄釉 褐 7.5YR4/4		内面：回転ナデ 外面：縦ハケ	精釉陶器
273	A	SK100	陶器	摺鉢	備前系		(3.3)		やや粗	灰黄 2.5Y7/2	内面：灰 N5/ 外面：灰 N4/・灰赤 7.5YR4/2		内面：回転ナデ・摺り目 外面：回転ナデ	
274	A	SK100	陶器	摺鉢	備前系		(5.0)		粗	灰白 N7/	内面：赤褐 10R4/4 外面：灰赤 10R4/2		内面：回転ナデ・摺り目 外面：回転ナデ	
275	A	SK100	土師質	焙烙	在地	22.2			良	にぶい黄橙 10YR6/4	内面：にぶい黄橙 10YR6/4 外面：黒褐 10YR3/1		内面：回転ナデ・ハケ 外面：回転ナデ・指押さえ	
286	A	SK220	磁器	紅皿	肥前系		(1.2)		精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			
288	A	SK185	磁器	鉢	肥前系	16.8			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		
289	A	SK185	磁器	碗	肥前系	11.4			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		
290	A	SK185	磁器	碗	肥前系			4.1	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		釉発泡
291	A	SK185	磁器	碗	肥前系			3.5	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			高台畳付に砂粒付着
292	A	SK185	磁器	不明	肥前系			5.2	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			
293	A	SK185	磁器	高杯	肥前系			7.2	精良	灰白 7.5Y8/1	内外面：透明釉			
294	A	SK185	陶器	碗	京・信楽系	9.4	5.2	3.4	精良	赤褐 10R6/6	内外面：白釉（灰白 7.5Y8/1）	上絵：緑・青		貫入あり
295	A	SK185	陶器	碗	京・信楽系	11.5	7.3	4.4	精良	灰白 5Y7/1	内外面：透明釉 （浅黄 5Y7/3）			貫入あり
296	A	SK185	土師質	皿	在地	7.7	1.1	6.0	良	橙 7.5YR7/6	内外面：橙 7.5YR7/6		内外面：回転ナデ	
297	A	SK185	土師質	杯	在地	6.0	2.3	4.8	良	灰白 2.5Y8/2	内外面：灰白 2.5Y8/2		内外面：回転ナデ	
298	A	SK185	陶器	皿	備前系	8.7			精良	黒褐 2.5Y3/1	内外面：灰赤 2.5YR4/2		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	
299	A	SK185	陶器	碗	京・信楽系	14.8			精良	灰白 N7/	内外面：透明釉			貫入あり
300	A	SK185	陶器	摺鉢	備前	33.0			良	にぶい赤褐 2.5YR5/3	内外面：にぶい赤褐 2.5YR5/3		内面：摺り目・回転ナデ 外面：回転ナデ	
301	A	SK185	陶器	摺鉢	備前系	22.2	13.5	13.8	良	赤褐 10R6/6	内外面：赤褐 10R6/6		内面：摺り目・回転ナデ 外面：回転ナデ	
303	A	SK185	土師質	鉢？	在地		(8.4)		やや粗	橙 2.5YR6/6	内外面：橙 2.5YR6/6		内面：横ハケ・指押さえ・ナデ 外面：ハケ・ナデ	脚付き
304	A	SK155	磁器	碗	肥前系	11.0			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		
305	A	SK155	磁器	碗	肥前系	9.2			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		口縁部：釉剥ぎ
306	A	SK155	土師質	杯	在地		(1.8)		良	浅黄橙 10YR8/4	内面：浅黄橙 10YR8/4 外面：浅黄橙 7.5YR8/3		内外面：回転ナデ	
307	A	SK155	陶器	碗	京・信楽系	8.7	5.5	4.4	精良	灰黄 2.5Y7/2	内外面：鉄釉 （赤黒 2.5YR1.7/1）			
308	A	SK205	磁器	碗	肥前系	8.8			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・暗青		
309	A	SK205	磁器	猪口	肥前系		(3.9)		精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・濃青		釉発泡
310	A	SK205	磁器	杯	肥前系			2.6	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			釉発泡 貫入あり
312	A	SK205	陶器	線香筒？	京・信楽系			2.5	良	灰白 5Y7/2	内外面：透明釉	絵付：鉄釉 呉須：淡暗青		
313	A	SK205	陶器	鉢	備前系			15.4	やや粗	にぶい橙 5YR6/4	内面：橙 2.5YR6/6 外面：赤褐 2.5YR5/6		内外面：回転ナデ	匣鉢？
314	A	SK205	陶器	鉢？	肥前系			8.0	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内面：刷毛目 （灰白7.5Y8/2，灰7.5YR6/2） 外面：にぶい黄橙 10YR7/4		外面：回転ナデ	見込み：蛇ノ目釉剥ぎ
315	A	SK205	土師質	鉢？	在地	15.6			良	橙 5YR6/6	内外面：橙 5YR6/6		内面：回転ナデ・ハケ 外面：回転ナデ・指押さえ	
316	A	SK160	土師質	皿	在地	8.2			良	灰白 10YR8/2	内外面：灰白 10YR8/2		内外面：回転ナデ	
317	A	SK160	土師質	灯明皿	在地	9.6			やや粗	橙 7.5YR7/6	内外面：橙 7.5YR7/6		内外面：回転ナデ	口縁部：すす付着
318	A	SK160	土師質	皿	在地	9.8			良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3		内外面：回転ナデ	
319	A	SK160	土師質	碗	在地		(1.8)		やや粗	灰白 10YR8/2	内外面：灰白 10YR8/2		内外面：回転ナデ	
320	A	SK160	磁器	杯	肥前系	5.5	2.9	2.5	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	産地	法量（cm）			胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬，内外色調）	色調3（呉須，上絵）	調整	備考
						口径	器高	底径						
321	A	SK160	磁器	碗	肥前系	10.1			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：明青		
322	A	SK160	磁器	碗	肥前系			4.4	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・暗青		
323	A	SK150	土師質	皿	在地	7.6			精良	橙 7.5YR7/6	内外面：橙 7.5YR7/6		内外面：回転ナデ	
324	A	SP071	磁器	杯	肥前系	6.2			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			
325	A	SP061	瓦質	摺鉢	在地	25.4			良	灰白 2.5Y7/1	内外面：灰 N4/ 口縁部：灰白 7.5Y7/1		内外面：回転ナデ	
330	A	SK140	陶器	紅皿	肥前系	5.6			やや粗	灰白 2.5Y8/1	内外面：透明釉		外面：型押し（菊花）	
331	A	SK140	磁器	紅皿	肥前系	4.8	1.8	2.4	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			
332	A	SK140	磁器	杯	肥前系	6.0	2.3	2.8	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			外面：付着物あり 貫入あり
333	A	SK140	磁器	碗	肥前系	6.4			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		
334	A	SK140	磁器	猪口	肥前系	6.7	5.1	4.1	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・濃青		釉発泡
335	A	SK140	磁器	不明	肥前系			5.4	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・淡緑青		
336	A	SK140	磁器	瓶	肥前系		(4.8)		精良	灰白 10Y7/1	内面：橙 5YR6/6 外面：透明釉	呉須：淡青		
337	A	SK140	磁器	皿	肥前系	19.0			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・濃青		貫入あり
338	A	SK140	陶器	碗	京・信楽系	8.0			良	灰白 10Y7/1	内外面：透明釉			貫入あり
339	A	SK140	陶器	火入？	京・信楽系	9.2			精良	灰白 N7/	内外面：透明釉	絵付：鉄釉 （オリーブ黒7.5Y2/2）		貫入あり
340	A	SK140	陶器	碗	在地	10.8			良	灰黄 2.5Y7/2	内面：鉄釉（褐 10YR4/4） 外面：鉄釉（暗褐 10YR3/3）	刷毛釉掛け		精釉陶器
341	A	SK140	陶器	碗	京・信楽系	10.9			精良	灰白 N7/	内外面：透明釉			貫入あり 数茶碗
342	A	SK140	陶器	碗	京・信楽系	11.6			精良	灰白 N7/	内外面：透明釉			貫入あり 数茶碗
343	A	SK140	陶器	碗	京焼系	9.6	5.5	3.2	良	灰白 5YR7/2	内外面：透明釉	上絵：緑・青		貫入あり
344	A	SK140	陶器	碗	京焼系	9.6	6.0	3.2	良	灰白 7.5Y7/2	内外面：透明釉	上絵：緑・青緑・茶		貫入一部あり
345	A	SK140	土師質	蓋？	在地？	7.6			良	浅黄橙 7.5YR8/3	内面：浅黄橙 7.5YR8/3 外面：にぶい黄橙 10YR7/4		内外面：回転ナデ	
346	A	SK140	土師質	皿	在地	7.4	0.8		良	浅黄橙 7.5YR8/4	内外面：浅黄橙 7.5YR8/4		内外面：回転ナデ	
347	A	SK140	陶器	灯明皿	備前系	8.4	1.2	2.8	良	にぶい褐 7.5YR5/3	内面：黒褐 7.5YR5/3 外面：にぶい褐 7.5YR5/3		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 底部：ナデ	内面～口縁部：すす付着
348	A	SK140	陶器	灯明皿	備前系	8.6	1.3	2.8	良	にぶい褐 7.5YR5/4	内面：にぶい褐 7.5YR5/4 外面：にぶい橙 2.5YR6/4		内外面：回転ナデ 底部：回転ヘラケズリ	口縁部：すす付着
349	A	SK140	陶器	灯明皿	備前系	8.1	1.1	2.4	精良	にぶい赤褐 2.5YR4/4	内面：にぶい赤褐 2.5YR4/4 外面：にぶい赤褐 2.5YR4/3	底部：塗土	内面：回転ナデ・ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	内面口縁部：すす3箇所付着
350	A	SK140	陶器	灯明皿	備前系	8.8	1.3	3.0	良	灰白 N7/	内面：褐 7.5YR4/3 外面：にぶい黄褐 10YR5/3		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	
351	A	SK140	陶器	不明	京・信楽系			3.8	良	灰白 2.5Y8/2	内面：透明釉 外面：灰白 2.5Y8/2			赤色顔料付着
352	A	SK140	陶器	鉢	肥前系	21.8			良	赤 10R5/6	内面：白釉 外面：刷毛目		内外面：回転ナデ	
353	A	SK140	陶器	摺鉢	備前	31.0			良	灰白 N7/	内面：にぶい赤褐 7.5R4/3 外面：灰赤 10R4/2		内面：回転ナデ・摺り目 外面：回転ナデ	
354	A	SK140	土師質	焙烙鍋	在地	24.8			良	灰 N4/	内外面：灰 N4/		内面：ナデ 外面：ナデ・指押さえ	
355	A	SK140	土師質	鉢	在地	22.2	12.4	11.6	やや粗	橙 5YR6/6	内外面：橙 5YR6/6		内面：ハケ・ナデ 外面：ナデ・指押さえ	SK180と遺構間接合
356	A	SK140	土師質	十能	在地	長さ（18.6）	高さ 6.0	幅（13.4）	良	橙 5YR6/6	内外面：橙 5YR6/6		内外面：指押さえのちナデ	
360	A	SK170	磁器	紅皿	肥前系	6.7	2.8	2.5	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		高台畳付砂粒付着 釉発泡
361	A	SK170	陶器	壺蓋？	備前	20.0	3.3	19.1	やや粗	にぶい赤褐 2.5YR5/3	内外面：にぶい赤褐 2.5YR5/3		内外面：ナデ	牡丹餅あり
362	A	SK165	磁器	杯	肥前系	7.1			精良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉	呉須：淡青・暗青		
363	A	SK165	土師質	皿	在地	9.2			良	にぶい橙 7.5YR7/4	内面：橙 7.5YR7/6 外面：にぶい橙 7.5YR7/4		内外面：回転ナデ	
364	A	SK165	陶器	灯明受皿	備前系	8.2		4.6	精良	にぶい赤褐 2.5YR5/4	内面：橙 2.5YR6/6 外面：赤 10R4/6	塗土	内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	
365	A	SK190	土師質	皿	在地	5.4	0.8	4.5	やや粗	浅黄橙 7.5YR8/3	内外面：浅黄橙 7.5YR8/3		内外面：回転ナデ	
366	A	SK190	磁器	碗	肥前系	7.9			良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		貫入あり
367	A	SK175	磁器	碗	肥前系	10.2			良	灰白 5Y8/1	内外面：透明釉	呉須：暗青		
368	A	SK145	弥生土器	壺	—	17.4			やや粗	灰白 10YR8/1	内面：灰白 10YR8/1 外面：橙 7.5YR6/6		内外面：摩滅	
370	A	SD215	磁器	杯	肥前系	6.5			精良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉	呉須：暗青		
371	A	SX200	土師質	杯	在地	7.6			良	橙 7.5YR7/6	内外面：橙 7.5YR7/6		内外面：回転ナデ	
372	A	SP042	磁器	碗	肥前系	10.4			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		
373	A	SP042	土師質	皿	在地		(1.0)		良	にぶい橙 5YR7/4	内面：にぶい橙 5YR7/4 外面：浅黄橙 7.5YR8/3		内面：摩滅 外面：回転ナデ	
374	A	SP042	磁器	皿	肥前系	6.9	1.5	3.3	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	産地	法量（cm）			胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬、内外色調）	色調3（呉須、上絵）	調整	備考
						口径	器高	底径						
375	A	SP042	陶器	皿	瀬戸・美濃系			7.0	やや粗	灰白 7.5Y8/1	内外面：透明釉	絵付：鉄釉		八角形
376	A	SP042	陶器	摺鉢	備前			16.6	良	橙 5YR6/6	内面：暗赤褐 2.5YR3/6 外面：赤褐 10YR4/4		外面：回転ナデ 底部：ケズリ	
377	A	SP041	土師質	皿	在地	8.4	1.75	5.9	精良	浅黄橙 7.5YR8/3	内外面：浅黄橙 7.5YR8/3		内外面：回転ナデ 底部：回転糸切り	
378	A	SP041	土師質	皿	在地	10.4	1.7	6.0	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面：にぶい橙 7.5YR7/4		内外面：回転ナデ 底部：回転糸切り？	
379	A	SP041	陶器	摺鉢	備前			19.4	やや粗	灰白 5Y7/1	内外面：赤褐 10R4/4		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ 底部：未調整	
380	A	SK225	磁器	碗	肥前系	9.2			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・濃青		貫入あり
381	A	SK225	陶器	碗	瀬戸・美濃系	9.7			良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：透明釉 （浅黄 2.5Y7/4）			貫入あり
382	A	SK225	磁器	高杯	肥前系			4.2	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			神具高杯脚部
383	A	SK225	土師質	瓶？	在地			3.3	精良	灰白 10YR8/2	内外面：灰白 10YR8/2		内面：回転ナデ・ナデ 外面：回転ナデ 底部：ヘラ切りのちナデ	
384	A	SK225	陶器	鬢盥	在地		3.7		良	橙 5YR6/6	内外面：透明釉 （明赤褐 5YR5/8）		内外面：ナデ 底部：布目	
390	A	SP029	土師質	皿	在地		(1.4)		精良	灰白 2.5Y7/1	内外面：灰白 2.5Y7/1		内外面：回転ナデ	
391	A	SP029	土師質	皿	在地		(1.4)		やや粗	灰白 10YR8/2	内外面：灰白 10YR8/2		内外面：ナデ	
392	A	SP014	磁器	碗	肥前系	9.7			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		降灰？
393	A	SP011	土師質	甕	在地			32.2	粗	橙 5YR7/6	内面：灰褐 5YR7/6 外面：橙 5YR7/6		内面：ナデ 外面：摩滅	
394	A	SP079	陶器	鉢	京・信楽系	13.0			良	灰黄 2.5Y7/2	内面：淡黄 5Y8/3　刷毛目？ 外面：透明釉			
395	A	SP088	磁器	杯	肥前系	6.0	2.1	2.8	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			
396	A	SP023	土師質	鉢	在地		(3.3)		やや粗	にぶい橙 7.5YR6/4	内面：橙 7.5YR6/6 外面：にぶい橙 7.5YR6/4		内外面：摩滅	
397	A	SP077	須恵器	こね鉢	不明	27.6			良	灰白 N7/	内外面：灰白 N7/		内外面：回転ナデ	口縁部分：自然釉付着
399	A	不明	磁器	紅皿	肥前系				精良	灰白 N8/	内外面：透明釉		外面：型押し（菊花）	
400	A	不明	磁器	紅皿	肥前系	5.0	1.6	1.4	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉		外面：型押し（菊花）	
401	A	機械掘削	磁器	紅皿	肥前系	6.5	2.6	3.2	精良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉	呉須：明青		釉発泡
402	A	機械掘削	磁器	猪口	肥前系	5.1	3.3	3.4	精良	灰 N8/	内外面：透明釉			
403	A	機械掘削	磁器	猪口	肥前系	4.8	3.4	3.2	精良	灰 N8/	内外面：透明釉			
404	A	機械掘削	磁器	碗	肥前系	10.8	5.4	3.8	精良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉	呉須：明青		
405	A	機械掘削	磁器	瓶	肥前系	1.8			精良	灰 N8/	外面：灰 N8/ 外面：透明釉		内面：回転ナデ	
406	A	機械掘削	磁器	皿	不明	11.0	2.3	7.3	精良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉	上絵：緑・青・赤・茶・水色		
407	A	機械掘削	磁器	十角皿	肥前系	13.0	3.5	7.0	精良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉	口縁部：口錆		
408	A	機械掘削	磁器	皿	肥前系	16.8	3.1	9.0	精良	灰 N8/	内外面：透明釉	呉須：明青		
409	A	機械掘削	磁器	蓋	肥前系	11.2			精良	灰 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・暗青		受部：釉剥ぎ
410	A	機械掘削	磁器	碗	肥前系			2.9	精良	灰 N8/	内外面：透明釉	呉須：明青		
411	A	機械掘削	磁器	碗	伊万里			2.0	精良	灰 N8/	内外面：透明釉	呉須：明青		補修痕あり 「太明年製」
412	A	機械掘削	陶器	碗	京・信楽系	8.3	4.7	2.6	精良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉			貫入多い
413	A	機械掘削	陶器	碗	京・信楽系			4.5	精良	灰白 7.5Y8/1	内外面：透明釉	絵付： 鉄釉（黒褐 10YR3/2） 呉須：淡青		貫入あり
414	A	機械掘削	陶器	壺	京・信楽系		(5.5)		精良	灰白 2.5Y7/1	内面：灰白 2.5Y7/1 外面：鉄釉		内面：回転ナデ	
415	A	機械掘削	陶器	蓋	不明	4.7	1.3	2.6	精良	橙 2.5YR6/6	内面：橙 2.5YR6/6 外面：明赤褐 2.5YR5/6	外面：埃土	外面：回転ナデ 底部：回転糸切り	
416	A	機械掘削	土師質	皿	在地	8.2	1.1	7.9	良	橙 7.5YR7/6	内外面：橙 7.5YR7/6		内外面：回転ナデ	
417	A	機械掘削	土師質	皿	在地	4.6			良	橙 7.5YR7/6	内外面：橙 7.5YR7/6		内外面：回転ナデ	
418	A	機械掘削	土師質	皿	在地	8.0	1.3	5.8	良	橙 5YR7/6	内外面：橙 5YR7/6		内外面：回転ナデ 底部：回転糸切り	
419	A	機械掘削	土師質	皿	在地	6.2	1.2	6.0	良	橙 7.5YR7/6	内外面：橙 7.5YR7/6		内外面：回転ナデ 外面：回転糸切り	
420	A	機械掘削	陶器	灯明受皿	備前	9.4	1.1	4.4	精良	赤褐 10R5/4	内面：赤褐 10R5/4 外面：赤褐 10R5/3		内外面：回転ナデ 底部：回転糸切り	
424	A	機械掘削	陶器	摺鉢	備前	30.6	12.7	12.8	良	灰 N7/	内面：にぶい赤褐 7.5R5/3 外面：にぶい赤褐 7.5R4/3		内面：回転ナデ・摺り目 外面：回転ナデ・ナデ 底部：指押さえ	摺り目：8条1単位
425	A	機械掘削	陶器	摺鉢	備前系	23.8			やや粗	暗灰黄 2.5Y5/2	内外面：暗灰黄 2.5Y5/2		内面：回転ナデ・摺り目 外面：回転ナデ	外面：重焼きの痕跡あり
426	A	南東地区遺構検出	陶器	不明	肥前系		(2.4)		精良	灰白 10Y8/1	内面：灰白 10Y8/1 外面：透明釉	絵付：赤		
427	A	SP318	土師質	皿	在地	8.5	1.8	6.5	良	にぶい黄橙 10YR7/2	内外面：にぶい黄橙 10YR7/2		内外面：回転ナデ 底部：回転ヘラ切り	
428	A	SP321	弥生土器	高杯？	—		(2.8)		良	にぶい褐 7.5YR5/4	内面：にぶい褐 7.5YR6/4 外面：にぶい褐 7.5YR5/4		内面：ナデ 外面：摩滅	胎土に角閃石含む

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	産地	法量（cm）			胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬，内外色調）	色調3（呉須，上絵）	調整	備考
						口径	器高	底径						
429	A	SK307	黒色土器	碗	—			7.8	良	橙 5YR6/6	内面：黒 7.5Y2/1 外面：橙 5YR6/6		内面：ミガキ 外面：回転ナデ 底部：ナデ	A類（10世紀後～末）
430	A	SK306	弥生土器	甕	—	17.6			良	にぶい褐 7.5YR5/3	内外面：にぶい褐 7.5YR5/3		内外面：回転ナデ	胎土に角閃石含む
431	A	一段下げ	瓦器	碗	—	14.6			精良	灰黄 2.5Y7/2	内外面：黒 5Y2/1		内面：ミガキ 外面：摩滅	
432	A	一段下げ	瓦器	碗	—	15.0			良	灰白 2.5Y8/2	内外面：灰 N4/		内面：ミガキ 外面：回転ナデ・摩滅	和泉型Ⅰ－3
433	A	一段下げ	陶器	鉢	肥前系	17.8			精良	灰白 7.5Y8/1	内外面：透明釉			貫入あり
434	A	第２遺構面検出時	弥生土器	壺	—	12.0			良	にぶい褐 5YR5/3	内面：にぶい褐5YR5/3 外面：にぶい褐5YR5/4		内面：タタキ 外面：指押さえ・ナデ	胎土に角閃石含む
435	A	第２遺構面検出時	弥生土器	甕	—	14.8			良	にぶい褐 7.5YR5/3	内外面：にぶい褐 7.5YR5/3		内外面：摩滅	胎土に角閃石含む
436	A	第２遺構面検出時	弥生土器	底部	—		(5.0)		やや粗	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面：にぶい橙 7.5YR6/4		内外面：摩滅	胎土に角閃石含む
437	A	第２遺構面検出時	須恵器	杯	—			7.4	良	灰 N6/	内外面：灰 N6/		内外面：回転ナデ 底部：ヘラ切り	火襷あり
438	B	SK102	磁器	碗	肥前系	7.0			精良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉	呉須：暗青		
439	B	SK102	磁器	碗	肥前系	10.6			精良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉	呉須：淡青・濃青		
440	B	SK102・103接合	磁器	碗	肥前系	9.6	4.6	3.8	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・明青		
441	B	SK102	磁器	碗	肥前系	14.8			精良	灰白 N8/	内外面：自然釉	呉須：明青		
442	B	SK102	磁器	碗	肥前系	6.9	3.4	2.8	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・明青		釉発泡
443	B	SK102	磁器	碗	肥前系	9.0	5.5	3.4	精良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉	呉須：明青		
444	B	SK102	磁器	碗	肥前系	10.6	6.0	4.0	精良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉	呉須：明青		
445	B	SK102	磁器	碗	肥前系	9.8	5.3	3.6	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青・明青		
446	B	SK102	磁器	碗	肥前系	10.0	5.6	3.2	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		
447	B	SK102	磁器	碗	肥前系	11.2	5.8	4.2	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡暗青 口縁部：鉄釉（明褐 7.5YR5/6）		高台畳付に砂粒付着
448	B	SK102	磁器	鉢	肥前系	11.2	5.8	4.2	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡暗青		貫入あり
449	B	SK102	磁器	壺	京・信楽系			5.6	精良	黄灰 2.5Y6/1	内面：灰黄褐 10YR6/2（無釉） 外面：明青灰 10BG7/1		内面：回転ナデ	高台畳付：砂粒付着
450	B	SK102	磁器	瓶	肥前系			5.0	精良	灰白 N8/	内面：にぶい橙 7.5YR7/3 外面：透明釉	呉須：淡青・暗青	内面：回転ナデ	高台畳付に砂粒付着
451	B	SK102	磁器	皿	肥前系	9.6	5.0	4.8	精良	灰白 N8/	内外面：透明湯		型打成形	
452	B	SK102	磁器	不明	肥前系			2.8	精良	灰白 N8/	内外面：自然釉	呉須：淡青 上絵（底部）：明緑 灰 5G7/1		底部：墨書『九九』
453	B	SK102	陶器	蓋	在地	10.0	2.0		精良	橙 5YR6/6	内面：橙 5YR6/6 外面：透明釉		内面：回転ナデ	精釉陶器
454	B	SK102	陶器	蓋	不明	16.5			精良	にぶい橙 7.5YR7/3	内面：塗土（灰赤 2.5YR4/2） 透明釉 外面：塗土 灰赤 2.5YR4/2			精釉陶器
455	B	SK102	陶器	碗	京・信楽系	9.4	5.5	3.0	良	灰白 7.5Y8/1	内外面：透明釉			貫入多い
456	B	SK102	陶器	碗	京・信楽系			2.8	精良	灰白 10YR8/2	内外面：灰白 10YR8/1			貫入あり
457	B	SK102	陶器	不明	瀬戸・美濃系			4.4	良	灰白 7.5Y8/2	内面：灰白 7.5Y8/2 外面：透明釉（灰白 7.5Y8/2）		内面：回転ナデ 底部：回転糸切り	
458	B	SK102	陶器	不明	肥前系			4.8	やや粗	灰白 7.5Y8/1	内面：透明釉 外面：透明釉（灰白 7.5Y8/1）		外面：回転ナデ	貫入あり
459	B	SK102	陶器	碗	肥前系			4.4	精良	にぶい黄橙 10YR6/4	内外面：灰釉 黄灰 2.5y6/2			
460	B	SK102	陶器	碗	瀬戸・美濃系	9.6	5.7	4.4	良	灰白 7.5Y8/1	内面：透明釉 外面：透明釉 鉄釉（黒褐 7.5YR2/2）		外面：沈線５条	
461	B	SK102	土師質	皿	在地？		(2.1)		良	橙 5YR6/6	内外面：塗土？ 明赤褐 5YR5/6		内外面：回転ナデ	精釉陶器 蓋の可能性あり
462	B	SK102	陶器	灯明皿	京・信楽系	11.0	2.1	4.4	精良	灰白 5Y8/2	内面：透明釉 外面：透明釉 （明赤褐 2.5YR5/6，にぶい橙 5YR7/4）		内面：６条のヘラ描き 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	ピン跡あり 貫入多い
463	B	SK102	陶器	皿	眠平焼		1.7	3.2	良	灰白 10Y8/1	内外面：黄 2.5Y7/8			線彫り（龍）
464	B	SK102	陶器	鉢	瀬戸・美濃系	15.6			良	灰白 7.5Y7/1	内外面：透明釉	内面：淡青・暗青・オリーブ褐 外面：淡青	内面：沈線	貫入多い
465	B	SK102・103接合	陶器	壺？	瀬戸・美濃系		(5.0)		粗	灰白 10Y8/1	内面：灰白 2.5Y8/2・赤褐 5YR4/6 外面：緑釉		内面：回転ナデ	線刻による施紋
466	B	SK102・103接合	陶器	火入	京・信楽系	10.4	9.6	7.0	精良	灰白 2.5Y8/1	内面：灰黄 2.5Y7/2 外面：灰白 2.5GY8/1		内面：回転ナデ	貫入多い 円形浮紋・線刻６箇所
468	B	SK102	陶器	灯明受皿	京・信楽系	10.4	2.0	3.8	良	淡黄 2.5Y8/3	内外面：透明釉		外面：回転ナデ	貫入多い 内面台部に砂粒付着

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	産地	法量（cm）			胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬，内外色調）	色調3（呉須，上絵）	調整	備考
						口径	器高	底径						
469	B	SK102	陶器	灯明受皿	京・信楽系	10.6	2.0	3.6	精良	灰白 2.5Y8/2	内面：透明釉 外面：透明釉 （橙 5YR7/6・灰白2.5Y8/2）		外面：回転ナデ	窯片あり
470	B	SK102	陶器	灯明受皿	備前系	7.5	1.1	2.0	精良	赤 10R5/8	内面：赤 10R5/8 外面：にぶい赤褐 2.5YR4/4		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ・ナデ	
471	B	SK102	陶器	灯明受皿	京・信楽系	9.4	1.3	4.4	精良	灰白 2.5Y8/2	内面：透明釉 外面：透明釉（灰白2.5Y8/2）		外面：回転ナデ	貫入あり
472	B	SK102	陶器	人形 徳利	備前系		(6.6)		精良	灰 N6/	内面：明赤褐 5YR5/6 外面：にぶい赤褐 2.5YR4/3		内外面：回転ナデ	布袋
473	B	SK102	陶器	人形 徳利	備前系			2.6	精良	赤褐 10R4/4	内面：赤 10R5/6 外面：赤褐 10R4/4		内外面：回転ナデ	
474	B	SK102	陶器	鉢or 植木鉢？	不明	11.0			精良	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面：にぶい橙 7.5YR6/4		内外面：回転ナデ	
475	B	SK102	陶器	鉢or 植木鉢？	不明	11.6			精良	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面：にぶい橙 7.5YR6/4		内外面：回転ナデ	
476	B	SK102	陶器	鉢or 植木鉢？	京・信楽系	18.4			良	灰白 10Y7/1	内外面：透明釉			貫入多い 内面：窯変あり
477	B	SK102	陶器	植木鉢	在地	13.8			良	にぶい赤橙 10r6/4	内面：にぶい赤橙 10r6/4 外面：灰褐 7.5YR4/2		外面：沈線16条	内面付着物多い
478	B	SK102	陶器	甕	在地	12.2			精良	淡黄 5Y8/3	内外面：鉄釉 （黄褐2.5Y5/6・黒褐2.5Y3/1）		外面：縞を施す	
479	B	SK102	陶器	甕	在地	19.8			やや粗	にぶい黄橙 10YR7/2	内面：褐灰 7.5YR5/1 外面：黒褐 7.5YR2/2			自然釉付着 降灰あり
480	B	SK102	陶器	甕	在地			15.5	粗	灰 7.5Y6/1	内面：にぶい橙 2.5YR6/3 外面：灰赤 7.5R4/2		内外面：回転ナデ	
481	B	SK102	陶器	土瓶	不明	10.9			精良	灰褐 7.5YR6/2	内面：灰褐 7.5YR6/2 外面：オリーブ黄 7.5Y6/3，白，青		内面：回転ナデ	精釉陶器 注ぎ口：穿孔２箇所
482	B	SK102	陶器	擂鉢	備前	24.2			やや粗	橙 5YR6/6	内面：赤褐 10R4/4 外面：赤褐 10R5/3		内外面：回転ナデ	摺目原体10条
483	B	SK102	陶器	擂鉢	備前	27.8			粗	赤褐 10R4/3	内外面：赤褐 10R4/3		内外面：回転ナデ	
484	B	SK102	陶器	擂鉢	備前	29.8			良	にぶい橙 2.5Y6/4	内面：赤褐 10R4/4 外面：赤褐 10R5/4		内外面：回転ナデ	重ね焼きの痕跡あり
485	B	SK102	陶器	擂鉢	備前系	30.2			良	赤 10R5/8	内面：赤褐 10R4/4～赤 10R5/8 外面：赤褐 10R4/4		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・一部にナデ	
486	B	SK102	土師質	焙烙	在地		(3.0)		良	灰白 10YR7/1	内面：灰白 10YR7/1 外面：褐灰 10YR4/1		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・指押さえ	
487	B	SK102	土師質	鉢	在地		(4.9)		良	にぶい橙 7.5YR7/3	内外面：にぶい橙 7.5YR7/3		内外面：回転ナデ	
488	B	SK102	土師質	焙烙	在地	36.7			良	灰白 7.5Y7/1	内外面：黄灰 2.5Y5/1		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・指押え	
489	B	SK102	土師質	火鉢？	在地		7.1		やや粗	にぶい赤褐 5YR6/4	内外面：にぶい赤褐 5YR6/4		内外面：ナデ	
490	B	SK102	土師質	煙炉	在地		(8.3)		良	灰黄褐 10YR6/2	内面：灰黄褐 10YR6/2 外面：にぶい黄橙 10YR6/3		内面：ナデ・回転ナデ 外面：ナデ・指押さえ	491と同一個体
491	B	SK102	土師質	煙炉	在地		(7.5)		良	灰黄褐 10YR6/2	内面：灰黄褐 10YR6/2 外面：にぶい黄橙 10YR6/3		内面：ナデ・回転ナデ 外面：縦ハケ・ナデ・指押さえ	490と同一個体
492	B	SK102	瓦質	十徳 把手	在地	8.4	4.7	3.0	良	灰白 10YR7/1	内外面：灰 N4/		内外面：ナデ	
493	B	SK102	土師質	漏斗	在地		(2.1)		良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3		内外面：ナデ	
494	B	SK102	土師質	コンロ	在地	24.2			良	にぶい橙 7.5YR7/3	内外面：にぶい橙 7.5YR7/3		内外面：回転ナデ	
495	B	SK102	瓦質	カマド？	在地			22.4	良	浅黄 2.5Y7/3	内外面：黒 N2/		内面：ナデ 外面：ヘラミガキ	
496	B	SK102	土師質	煙炉？	在地			16.2	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面：にぶい橙 7.5YR7/4		内面：回転ナデ 外面：型押し	
497	B	SK102	土師質	カマド？	在地		(8.1)		やや粗	灰 10Y6/1	内面：にぶい橙 7.5YR7/3 脚部内面：黒 7.5YR2/1 外面：褐灰 7.5YR4/1		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・板ナデ	
498	B	SK102	土師質	野壺	在地	63.4			良	にぶい黄橙 10YR7/4	内面：にぶい橙 5YR7/4 外面：橙 5YR7/6		内面：板ナデ・回転ナデ 外面：回転ナデ	
499	B	SK102・103 接合	土師質	七輪	在地？	20.0	20.9	19.1	良	にぶい黄橙 10YR7/4	内面：にぶい黄橙 10YR7/3 外面：灰白 2.5Y8/2	外面：化粧土	内面：ナデ・回転ナデ・ハケ 外面：網目状	
500	B	SK103	陶器	蓋	京・信楽系	7.6	1.0	4.5	良	灰白 5Y8/1	内面：灰白 5Y8/1 外面：透明釉			
501	B	SK103	磁器	蓋	肥前系	12.6			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：明青・濃青・淡青		受部：釉剥・砂粒付着
502	B	SK103	磁器	杯	肥前系	6.2	2.6	2.6	精良	灰白 5Y7/1	内外面：透明釉			
503	B	SK103	磁器	碗	肥前系	6.6	3.2	2.8	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			高台畳付に砂粒付着
504	B	SK103	磁器	杯	肥前系			3.6	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青・淡青		
505	B	SK103	磁器	碗	肥前系	8.2			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		
506	B	SK103	陶器	碗	不明			3.2	精良	灰白 5Y6/1	内面：灰白 10Y8/1 外面：灰白 5Y6/1	イッチン描：黒褐 2.5Y3/1・灰白10Y8/1		
507	B	SK103	磁器	碗	肥前系			4.4	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		見込み：蛇ノ目釉剥ぎ釉発泡
508	B	SK103	磁器	碗	肥前系	8.6	4.3	3.2	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		一部に貫入あり
509	B	SK103	陶器	碗	京・信楽系			4.6	精良	灰白 2.5Y7/1	内面：灰白 5Y8/1 外面灰白 2.5Y8/1			

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	産地	法量（cm）			胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬，内外色調）	色調3（呉須，上絵）	調整	備考
						口径	器高	底径						
510	B	SK103	磁器	碗	肥前系			4.4	精良	灰白 N8/	内面：透明釉 外面：明緑灰 10GY7/1	呉須：淡青		高台畳付に砂粒付着
511	B	SK103	磁器	碗	肥前系			5.0	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		高台畳付に砂粒付着
512	B	SK103	磁器	碗	伊万里			6.1	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：明青		太明年製
513	B	SK103	磁器	碗	肥前系	10.7	6.0	4.0	精良	灰白 5GY8/1	内外面：明緑灰 7.5GY8/1	呉須：暗淡青		
514	B	SK103	磁器	碗	肥前系		(2.1)		精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須： 暗青（内面） 淡明青（外面）		
515	B	SK103	磁器	皿	肥前系			7.8	良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉	呉須：暗青		蛇ノ目回形高台
516	B	SK103	陶器	皿	京・ 信楽系			8.0	良	灰白 N7/	内外面：灰白 5Y7/2			見込み：ピン痕あり
517	B	SK103	磁器	不明	肥前系			6.5	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡青		
518	B	SK103	磁器	不明	肥前系			5.6	精良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉	呉須：明青		
519	B	SK103	磁器	瓶	肥前系	1.9			精良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉			
520	B	SK103	磁器	瓶	肥前系	1.6			精良	灰白 10Y8/1	内面：灰白 10Y8/1 外面：透明釉	呉須：淡青・明青		蛸唐草紋
521	B	SK103	陶器	蓋	京・ 信楽系	9.9	3.9	2.1	良	灰白 10Y7/1	内面：淡黄 2.5Y7/3 外面：オリーブ灰 10Y5/2	イッチン描：白		
522	B	SK103	陶器	蓋	在地？		2.8	5.2	精良	橙 5YR6/6	内面：橙 5YR6/6 外面：橙 5YR6/6		底部：回転糸切り	
523	B	SK103	陶器	碗？	京・ 信楽系			3.6	精良	灰白 2.5Y8/2	内面：透明釉 外面：灰白 2.5Y8/2			見込み：ピン痕あり
524	B	SK103	陶器	碗	肥前系	9.0	4.7	3.5	良	にぶい黄褐 10YR7/4	内面：透明釉 外面：刷毛目			
525	B	SK103	陶器	不明	京・ 信楽系		(1.9)		良	灰白 2.5Y7/1	内面：浅黄 5Y7/3 外面：にぶい黄 2.5Y6/3	塗土：にぶい赤褐 5YR4/3 イッチン描：白	外面：櫛描き	
526	B	SK103	陶器	皿	京・ 信楽系	10.2	2.1	4.0	精良	灰白 N8/ 灰白 7.5Y8/2	内面：透明釉 外面：灰白 7.5Y8/2		内面：櫛目 外面：回転ナデ	
527	B	SK103	陶器	鉢	瀬戸・ 美濃系	18.1	5.6	11.0	粗	灰白 2.5Y8/1	内外面：透明釉 （橙 5YR6/8）	鉄絵：黒褐 5YR2/2		
528	B	SK103	陶器	灯明 受皿	備前系	10.6	1.3		精良	赤橙 10YR5/4	内面：透明釉 外面：赤橙 10YR5/4		内面：回転ナデ・ナデ 外面：回転ナデ	
529	B	SK103	陶器	灯明 受皿	京・ 信楽系	11.2			精良	灰白 2.5Y8/1	内面：灰白 5Y7/2・ 黄灰 2.5Y7/2 外面一部：黄灰 2.5Y7/2			
530	B	SK103	陶器	灯明 受皿	京・ 信楽系	8.7			良	灰白 2.5Y8/1	内面：灰黄 2.5Y7/2 外面：灰白 2.5Y8/1		外面：回転ナデ	貫入多い
531	B	SK103	陶器	壺？	瀬戸・ 美濃系			6.8	粗	灰白 2.5Y8/2	内面：淡黄 2.5Y8/3 外面：透明釉	鉄絵： オリーブ黒5Y3/1		
532	B	SK103	陶器	土瓶	在地？	7.0	9.0	6.0	良	にぶい橙 5YR6/4	内面：にぶい橙 5YR6/4 外面：赤 10R5/6		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転板ナデ	精釉陶器
533	B	SK103	磁器	鉢	京・ 信楽系	19.2			精良	灰白 N7/	内面：浅黄 5Y7/3 オリーブ黄 5Y6/3 外面：浅黄 5Y7/3	絵付：白		
534	B	SK102/103	磁器	紅皿	肥前系	6.5	1.7	2.8	精良	灰白 N8/	内外面：白釉 （明緑灰 10GY8/1）		外面：型押し（菊花）	
535	B	SK102/103	磁器	瓶？	肥前系	3.8			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			
536	B	SK102/103	磁器	仏飯器	肥前系	5.6			精良	灰白 N8/	内面：透明釉 外面：青色釉			
537	B	SK102/103	磁器	碗	瀬戸・ 美濃系	9.6			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	色絵：赤 10R4/6， 淡黄 5Y8/4，明青・ 淡青・淡緑 口縁：口紅		
538	B	SK102/103	陶器	碗	肥前系	9.0	4.9	2.4	やや 粗	淡黄 2.5Y8/3	内面：淡黄 2.5Y8/3 外面：刷毛目（淡黄 2.5Y8/3・ にぶい黄 2.5Y6/3）			貫入あり
539	B	SK102/103	磁器	碗	肥前系	11.2	6.1	5.8	精良	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉	呉須：淡明青		高台畳付に砂粒付着
540	B	SK102/103	磁器	碗？	肥前系			5.7	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		釉発泡
541	B	SK102/103	磁器	皿	肥前系	12.0	2.2	7.4	精良	灰白 2.5Y8/1	内外面：透明釉	呉須：淡明青		花弁形 釉発泡
542	B	SK102/103	磁器	猪口	肥前系	9.4	6.2	5.5	精良	灰白 10YR8/1	内外面：透明釉	呉須：淡青		
543	B	SK102/103	磁器	碗	肥前系	8.2	7.1	4.2	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		高台畳付：砂粒付着
544	B	SK102/103	青磁	仏花瓶	不明		(6.5)		精良	灰白 10Y7/1	内面：灰白 10Y7/1 外面：明緑灰 5G7/1		内面：回転ナデ	
545	B	SK102/103	陶器	蓋	京・ 信楽系	5.6	1.0	3.9	良	灰白 5Y8/4	内面：灰白 5Y8/1 外面：淡黄 5Y8/3			貫入あり
546	B	SK102/103	陶器	皿	備前系	7.6	1.3		良	褐灰 7.5YR6/	内外面：鉄釉 褐 7.5YR4/3			
547	B	SK102/103	陶器	土鍋蓋	京・ 信楽系	14.6				灰白 5Y7/4	内面：浅黄 5Y7/3 外面：鉄釉（暗赤褐 5YR3/3） （にぶい赤褐 5YR5/3）	イッチン描： 灰白 7.5Y8/2		
548	B	SK102/103	陶器	杯	不明	6.4	4.2	3.2	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面：飴釉 （暗赤 7.5R3/4）			精釉陶器
549	B	SK102/103	陶器	碗	京・ 信楽系	8.8			やや 粗	灰白 10Y8/1	内外面：透明釉 （灰白 7.5Y7/1）			貫入多い
550	B	SK102/103	陶器	碗	京・ 信楽系	9.6			精良	灰白 7.5Y8/	内外面：透明釉			貫入あり

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	産地	法量（cm）			胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬、内外色調）	色調3（呉須、上絵）	調整	備考
						口径	器高	底径						
551	B	SK102/103	陶器	香炉	不明	9.2	4.1		精良	灰白 N8/	内外面：透明釉 （灰白 2.5Y8/2）			脚：3脚
552	B	SK102/103	陶器	火入	京・信楽系	8.2			精良	灰白 5Y7/1	内外面：透明釉 （灰白 5Y7/2）			貫入多い
553	B	SK102/103	陶器	鍋	不明	15.6			精良	褐灰 10YR6/1	内外面：鉄釉 （にぶい赤褐 5YR4/3）			精釉陶器
554	B	SK102/103	陶器	灯明受皿	備前系	9.8			良	にぶい橙 2.5YR6/4	内外面：塗土（赤褐 10R4/4）		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	
555	B	SK102/103	陶器	皿	肥前系	8.6	2.75	3.5	精良	灰白 N7/	内面：透明釉 外面：明緑灰 10GY7/1	呉須：暗青		陶胎染付
556	B	SK102/103	磁器	皿	瀬戸・美濃系	7.85	2.45	5.0	精良	灰白 2.5Y8/1	内外面：明緑灰 10GY8/1			陽刻による施紋
557	B	SK102/103	陶器	擂鉢	備前	29.6			良	赤 10R5/6	内外面：赤 10R5/6		内外面：回転ナデ	櫛目原体：9本
558	B	SK102/103	陶器	甕	備前系			15.4	良	灰赤 7.5R5/2	内面：鉄釉（赤黒 7.5R1.7/1） 外面：にぶい赤褐 7.5R5/3, 鉄釉（赤黒 7.5R1.7/1）			内面：砂粒・釉着物あり
559	B	SK102/103	土師質	七輪？	在地			19.4	やや粗	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面：にぶい橙 7.5YR6/4		内外面：回転ナデ	
560	B	SK102/103	土師質	コンロ？	在地			13.1	良	にぶい橙 5YR6/4	内面：にぶい橙 5YR6/4 外面：明赤褐 5YR5/4		内外面：回転ナデ	
561	B	SK102/103	ガラス	瓶？	—		(6.5)	7.6		暗オリーブ 5Y4/4				
569	B	SK103	陶器	擂鉢	備前系	32.6			良	明赤褐 2.5YR5/6	内外面：灰赤 10R4/2		内外面：回転ナデ	
570	B	SK103	瓦質	焙烙鍋	在地	33.8			良	暗灰 N3/	内外面：暗灰 N3/		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・指押さえ	
571	B	SK103	陶器	擂鉢	備前系				良	明赤褐 2.5YR5/6	内外面：灰赤 2.5YR5/2		内外面：回転ナデ	外面融着物あり
572	B	SK103	土師質	鉢？	在地		(5.1)		良	にぶい橙 7.5YR7/2	内面：灰黄褐 10YR6/2 外面：にぶい橙 7.5YR6/4		内面：ハケ・ナデ 外面：回転ナデ・ 一部に指押さえ残る	
573	B	SK103	土師質	甕？	在地		(2.9)		良	橙 5YR6/6	内外面：橙 5YR6/6		内外面：回転ナデ	
574	B	SK103	陶器	鉢	在地			20.6	良	橙 2.5YR6/8	内外面：橙 2.5YR6/8		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・ 回転ヘラケズリ	植木鉢か
575	B	SK103	陶器	鉢	在地	18.8	11.2	13.0	粗	灰 N4/	内面：にぶい赤褐 5YR5/4 外面：赤褐 10R5/4		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	
576	B	SK103	土師質	鉢？	在地	11.2			粗	灰白 10YR8/2	内外面：灰白 10YR8/2		内面：ナデ 外面：回転ナデ・ナデ	穿孔あり
577	B	SK103	土師質	鉢？	在地			16.0	良	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面：にぶい橙 7.5YR6/4		内外面：回転ナデ	
579	B	SK103	土師質	火鉢？	在地	(9.2)	(7.4)	(4.8)	良	にぶい橙 7.5YR6/4	内面：にぶい橙 7.5YR6/4 外面：灰黄褐 10YR6/2		内面：ナデ 外面：ケズリのちナデ 底部：ケズリ	
580	B	SK103	陶器	水盤？	不明	(6.0)	(6.3)	(1.8)	良	灰白 5Y7/2	透明釉		線刻：獣紋	軟質精釉陶器
583	B	SP112	土師質	皿	在地		(1.0)		良	にぶい黄橙 10YR7/4	内外面：にぶい黄橙 10YR7/4		内外面：ナデ	
584	B	SK102/103	土師質	焙烙	在地	34.8			良	灰黄 2.5Y5/1	内面：灰黄 2.5Y5/1 外面：黄灰 2.5Y5/1		内面：ナデ・指押さえのち横ハケ 外面：ナデ・指押さえ	
585	B	SK102/103	土師質	鉢？ 甕？	在地	49.0			やや粗	灰白 2.5Y8/1	内面：にぶい橙 7.5YR6/4 外面：にぶい橙 7.5YR7/4		内面：ナデ 外面：指押さえのちナデ	ヘラ描きあり
586	B	SK102/103	土師質	野壺	在地		(14.3)		やや粗	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面：にぶい橙 7.5YR6/4		内外面：回転ナデ	櫛目文様
596	B	SD105	磁器	碗	肥前系	8.9			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：淡明青 口縁部：口錆		
597	B	SD105	磁器	碗	肥前系			3.0	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		
598	B	SD105	磁器	杯	肥前系			3.2	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			
599	B	SD105	磁器	壺？	肥前系			6.4	精良	灰白 N8/	内面：灰白 7.5Y7/2 外面：透明釉	呉須：淡青		高台畳付に砂粒付着
600	B	SD105	磁器	皿	肥前系	10.0	2.0	6.0	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			花形
601	B	SD105	土師質	皿	在地	9.0			粗	灰白 10YR8/2	内外面：灰白 10YR8/2		内外面：回転ナデ	
602	B	SD105	陶器	蓋	不明	8.0	1.55	5.0	良	灰白 5Y8/1	内面：灰白 5Y8/1 外面：鉄釉（暗赤褐 5YR3/6）		内面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	精釉陶器
603	B	SD105	磁器	碗	瀬戸・美濃系	8.3			良	灰白 10Y8/1	内外面：明緑灰 7.5GY7/1	上絵：灰白2.5Y8/1 赤 7.5R4/8		貫入多い
604	B	SD105	陶器	碗	京・信楽系	9.2			良	灰白 2.5Y8/2	内外面：淡黄 5Y8/3			貫入多い
605	B	SD105	陶器	碗	肥前系	12.2			良	にぶい黄橙 10YR7/2	内面：白釉　灰白 2.5Y8/2 外面：刷毛目　灰白 2.5Y8/2 灰白 2.5Y7/1			
606	B	SD105	陶器	碗	肥前系			4.8	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：刷毛目 （にぶい黄橙 10YR6/4・白） 底部：にぶい褐 7.5YR5/3			
607	B	SD105	陶器	瓶？	京・信楽系			4.4	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			貫入あり
608	B	SD105	陶器	甕	肥前系	(2.9)			良	灰 5Y6/1	内外面：オリーブ褐 2.5Y4/3	施紋：白		線刻による施紋
609	B	SD105	土師質	鉢	在地		(8.6)		良	にぶい橙 10YR6/3	内外面：にぶい橙 10YR6/3		内面：指押さえのち回転ナデ 外面：回転ナデ	
611	B	SD105	土師質	カマド？	在地		(7.4)		良	にぶい橙 7.5YR6/4	内面：にぶい橙 7.5YR6/4 外面：褐灰 7.5YR4/1		内面：回転ナデ 外面：板状押圧痕	
612	B	SD105	土師質	風炉？	在地	15.8	12.55	14.4	良	橙 2.5YR6/6	内外面：橙 2.5YR6/6		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・施釉？	

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	産地	法量（cm）			胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬，内外色調）	色調3（呉須，上絵）	調整	備考
						口径	器高	底径						
618	B	SK102周辺一段下げ（南側）	陶器	碗	京・信楽系			3.2	良	灰白 10YR8/2	内外面：灰白 10Y7/1			沈線あり 底部に墨書あり。（字読めず）
619	B	東側掘削	磁器	瓶	肥前系			3.6	精良	灰白 N8/	内面：灰白 5Y7/2 外面：透明釉	呉須：淡明青		高台畳付に砂粒付着
620	B	東側掘削	磁器	蓋	肥前系	2.1			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	上絵：赤 10YR4/6		受部：無釉
621	B	中央遺構検出	陶器	灯明受皿	京・信楽系	11.0	2.1	4.0	精良	灰白 7.5Y8/1	内面：透明釉 外面：口縁部透明釉		外面：回転ナデ	一部に貫入あり
622	B	中央遺構検出	磁器	碗	肥前系	13.4	8.1	7.6	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：明青		補修痕あり
627	C	SK217	磁器	合子蓋	肥前系	3.6	0.6	1.8	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		
628	C	SK217	陶器	碗	京・信楽系	7.5	4.7	3.6	精良	灰白 5Y8/1	内外面：透明釉	錆絵：オリーブ黒 5Y3/2		貫入多い
629	C	SK217	白磁	不明	肥前系			7.1	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			見込み：蛇ノ目釉剥ぎ
630	C	SK217	陶器	火入	京・信楽系	11.4			精良	灰白 2.5Y8/2	内外面：透明釉			
631	C	SK217	磁器	碗？	肥前系			6.5	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			
632	C	SK217	陶器	不明	京・信楽系			3.5	精良	灰白 7.5Y7/1	内外面：透明釉			底部墨書「ごり」
633	C	SK217	磁器	皿	肥前系	9.5	2.0	3.2	精良	灰 N6/	内面：灰褐 7.5YR6/2 外面：灰黄褐 10YR6/2		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	重焼の痕跡あり 火襷
634	C	SK217	陶器	鉢	京・信楽系			19.0	精良	浅黄 2.5Y8/3	内外面：透明釉			砂目あり 一部に貫入あり
635	C	SK217	陶器	擂鉢	備前	25.4			良	赤橙 10Y6/8	内面：赤橙 10Y6/8 外面：赤褐 10R4/3		内外面：回転ナデ	
636	C	SK217	陶器	擂鉢	備前	34.0			良	赤 10R5/6	内面：にぶい赤褐 5YR4/4 外面：暗赤褐 5YR3/4		内外面：回転ナデ	
637	C	SK217	瓦質	焙烙	在地	31.0			良	灰白 7.5Y7/2	内外面：灰 N4/		内面：回転ナデ・ハケメ 外面：回転ナデ・ナデ・指押さえ	
638	C	SK217	土師質	甕	在地		(6.3)		良	にぶい褐 7.5YR6/3	内外面：にぶい褐 7.5YR6/3		内面：回転ナデ・指押さえ 外面：回転ナデ	
639	C	SK217	土師質	甕	在地		(8.0)		良	灰白 7.5Y7/1	内外面：灰黄褐 10YR6/2		内外面：回転ナデ・ナデ	
640	C	SK217	土師質	甕	在地		(10.8)		良	にぶい褐 7.5YR6/3	内面：にぶい褐 7.5YR6/3 外面：にぶい橙 5YR6/3		内面：回転ナデ・ナデ・指押さえ 外面：回転ナデ・ナデ	
641	C	SK217	土師質	甕	在地	36.2			良	にぶい赤褐 5YR5/3	内面：にぶい赤褐 5YR5/4 外面：にぶい赤褐 5YR5/3		内面：回転ナデ・指押さえ 外面：回転ナデ	内面：石灰付着
642	C	SK217	土師質	甕	在地			18.4	良	明赤褐 2.5YR5/8	内面：明赤褐 2.5YR5/8 外面：橙 2.5YR6/8		内外面：回転ナデ 底部：ナデ	内面：石灰付着
643	C	SK217	土師質	鉢	在地		(14.5)		良	灰褐 7.5YR6/2	内外面：灰褐 7.5YR6/2		内面：板ナデ・ナデ 外面：ハケメ・板ナデ・ナデ 底部：ハケメ	底部付近に穿孔あり
644	C	SK217	陶器	水鉢	瀬戸・美濃系	34.4	22.0	19.6	良	灰白 N5/	内面：灰白 N5/ 外面：オリーブ黒 5Y3/2		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・ナデ	砂目あり 釉の剥離著しい
719	C	SK217	磁器	瓶	肥前系	5.9		11.0	精良	灰白 N8/	内面：灰白 5Y8/1 外面：白磁釉		内面：回転ナデ	
653	C	SK209	土師質	皿	在地	7.4	1.5		良	橙 5YR7/6	内外面：橙 5YR7/6		内外面：回転ナデ	重ね焼きの痕跡あり
654	C	SK209	磁器	碗	肥前系			3.0	良	灰白 N8/	内外面：明緑灰 10GY8/1			貫入あり
655	C	SK209	陶器	皿	肥前系			8.8	良	灰黄 2.5Y6/2	内面：刷毛目 外面：透明釉			
656	C	SK209	陶器	碗	肥前系			5.0	良	灰白 10YR7/1	内外面：透明釉	呉須：淡青		陶胎染付 貫入あり
657	C	SK209	土師質	焙烙	在地		(1.4)		良	灰黄 2.5Y6/2	内面：黄灰 2.5YR4/1 外面：褐灰 10YR4/1		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・指押さえ	
658	C	SK209	土師質	甕	在地	18.8			良	灰白 10YR8/2	内面：灰白 10YR8/2 外面：淡黄 2.5Y8/3		内面：回転ナデ・指押さえ 外面：回転ナデ・ナデ・波状文	
660	C	SK201	土師質	焙烙鍋	在地		(2.5)		良	灰白 10YR7/1	内面：灰 5Y5/1 外面：褐灰 10YR5/1		内面：ナデ 外面：ナデ・指押さえ	
661	C	SK211	土師質	皿	在地		(0.9)		良	橙 7.5YR7/6	内外面：橙 7.5YR7/6		内外面：回転ナデ	
662	C	SK211	土師質	皿	在地		(1.0)		良	にぶい黄橙 10YR7/4	内面：明黄褐 10YR6/6 外面：にぶい黄橙 10YR7/4		内外面：回転ナデ	摩滅著しい
664	C	SK210	磁器	不明	肥前系			7.0	良	灰白 N8/	内面：浅黄橙 10YR8/4 外面：透明釉	呉須：淡青		高台部分に釉垂れ
665	C	SK210	陶器	擂鉢	備前系			11.6	良	赤 10YR4/6	内面：赤 10YR4/6 外面：赤 10YR5/6		外面：回転ナデ	
666	C	SK210	土師質	羽釜	在地	14.5			良	灰黄褐 10YR6/2	内面：黒褐 10YR3/1 外面：灰黄褐 10YR6/2		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ，ナデ	
667	C	SK210	土師質	鉢	在地		(6.1)		良	にぶい赤褐 2.5YR5/4	内外面：にぶい赤褐 2.5YR5/4		内外面：回転ナデ	被熱
669	C	SK218	土師質	皿	在地		(1.3)		良	橙 2.5YR7/6	内外面：橙 2.5YR7/6		内外面：回転ナデ	
670	C	SK218	土師質	杯	在地		(1.5)		良	灰白 2.5Y8/2	内外面：灰白 2.5Y8/2			摩滅著しい
671	C	SK218	土師質	皿	在地	9.0			良	灰白 7.5YR8/2	内外面：灰白 7.5YR8/2		内外面：回転ナデ	
672	C	SK218	陶器	灯明皿	備前系	8.2	1.5	2.8	精良	にぶい赤褐 5Y5/4	内面：瑜土（にぶい赤褐7.5 R4/4） 外面：赤 10R5/6		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ，回転ヘラケズリ	すす付着
673	C	SK218	陶器	不明	在地			9.0	精良	浅黄 5Y7/3	内外面：浅黄 5Y7/3			蛇ノ目凹高台
674	C	SK218	土師質	焙烙	在地		(1.1)		良	黄灰 2.5Y6/1	内面：黄灰 2.5Y6/1 外面：黒 N2/		内面：回転ナデ，ハケメ 外面：ナデ，指押さえ	

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	産地	法量（cm）			胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬，内外色調）	色調3（呉須，上絵）	調整	備考
						口径	器高	底径						
675	C	SK218	陶器	蓋	不明	8.2			良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面：黄橙 2.5Y5/3	圏線：白		精釉陶器
676	C	SK218	磁器	碗？	肥前系			4.3	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		見込み：蛇ノ目釉剥ぎ
679	C	SK219	磁器	碗	肥前系	8.4			精良	灰白 2.5Y7/1	内外面：透明釉	呉須：暗青 暗オリーブ灰 2.5GY4/1		
680	C	SK219	陶器	碗	肥前系			6.8	精良	灰 N6/	内外面：透明釉			陶胎染付 貫入多い
681	C	SK219	磁器	皿	肥前系	(1.2)			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	口縁：錆釉 赤褐 5YR4/8		
682	C	SK219 SK224	土師質	カマド	在地	21.0			良	にぶい橙 5YR6/4	内面：にぶい橙 5YR6/4 外面：橙 5YR6/6		内外面：ナデ	
718	C	SK219	土師質	鉢	在地	35.7			良	にぶい褐 7.5YR5/3	内外面：にぶい褐7.5YR5/3		内面：回転ナデ・ナデ・ハケ 外面：回転ナデ・ナデ・ミガキ	穿孔あり
693	C	SK220	土師質	杯？	在地	14.2			やや粗	浅黄橙 10YR8/3	内面：浅黄橙 7.5YR8/4 外面：浅黄橙 10YR8/3		内面：回転ナデ・ナデ 外面：回転ナデのち不定方向のナデ	
694	C	SK221	土師質	杯	在地	11.0			良	にぶい橙 5YR7/4	内外面：にぶい橙 5YR7/4		内外面：回転ナデ	
695	C	SK222	土師質	皿	在地	6.4	0.9	5.1	やや粗	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3		内外面：ナデ？	摩滅著しい
696	C	SK222	陶器	碗	京・信楽系	5.4	5.8	3.7	粗	灰白 5Y8/1	内外面：透明釉	絵付：暗青		
697	C	SK222	瓦質	焙烙鍋	在地	32.0			良	灰 7.5Y6/1	内面：黄灰 2.5Y4/1 外面：オリーブ黒 5Y3/1		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ，指押さえ	
698	C	SK225	土師質	鉢	在地	27.8	15.3	23.0	やや粗	橙 7.5YR7/6	内面：橙 7.5YR7/6 暗褐 7.5YR3/3 外面：橙 7.5YR7/6		内面：回転ナデ・ナデ・ 指押さえ・ハケメ 外面：回転ナデ	外面：剥離
699	C	SK225	磁器	碗	肥前系			5.0	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			
700	C	SK225	陶器	碗	肥前系			4.0	良	灰白 7.5Y7/1	内外面：透明釉	呉須：淡青		陶胎染付 高台畳付に砂粒付着
701	C	SK225	磁器	猪口？	肥前系		(4.7)		精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	内面：呉須 淡青 外面：呉須 暗青		
704	C	SP205	瓦質	焙烙	在地		(1.4)		良	灰 7.5Y4/1	内面：灰 7.5Y6/1 外面：灰 7.5Y4/1		内外面：回転ナデ	穿孔あり
705	C	SK228	磁器	碗	肥前系	14.8			精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			
706	C	遺構検出	磁器	合子蓋	肥前系	8.0	2.1		精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		口縁部釉発泡 口縁部：口錆
707	C	遺構検出	陶器	蓋	京・信楽系	6.1	1.1	4.6	精良	灰白 N8/	内面：灰白 N7/ 外面：透明釉		内面：回転ナデ	貫入多い
708	C	遺構検出	陶器	灯明受皿	備前	7.5	1.0	3.0	精良	にぶい赤 7.5R4/4	内外面：にぶい赤 7.5R4/4		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・回転ヘラケズリ	
709	C	遺構検出	土師質	碗	在地	12.0			良	浅黄橙 7.5YR8/6	内面：橙 7.5YR8/6 外面：浅黄橙 7.5YR8/6			摩滅著しい
710	C	遺構検出	陶器	盤？	備前	15.1	4.7	29.0	良	灰褐 5YR6/2	内面：青灰 5PB6/1 外面：赤褐 10R4/4		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・指押さえ	底部：自然降灰あり
714	C	東側・掘削	磁器	段重	肥前系	14.6	5.7	8.6	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		ガラス継ぎ
715	C	不明	土師質	羽釜	在地	19.0			良	褐灰 10YR5/1	内外面：褐灰 10YR5/1		内面：ナデ・指押さえ 外面：ナデ・ハケメ	外面：多量にすす付着
720	C	遺構検出 西側 粘土層	土師質	鉢	在地	40.9	12.8	32.8	やや粗	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面：にぶい橙 7.5YR7/4		内面：回転ナデ 外面：回転ナデ・ケズリ・ナデ 底部：ハケ	
721	C	SK210から 東を 一段下げ	磁器	碗	肥前系	9.5	4.7	5.0	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		高台畳付に砂粒付着
722	C	SK210から 東を 一段下げ	磁器	碗	肥前系	10.4	5.1	6.1	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		高台畳付に砂粒付着
723	C	SK210から 東を 一段下げ	磁器	皿	肥前系	11.8	2.6	7.2	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		蛇ノ目凹高台 釉発泡
724	C	東一段下げ	磁器	碗	肥前系	10.0	3.9	3.4	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉	呉須：暗青		
725	C	東一段下げ	土師質	甕	在地	30.9			粗	にぶい褐灰 7.5YR6/3	内面：にぶい褐灰 7.5YR6/3 外面：にぶい褐灰 7.5YR5/4		内面：回転ナデ・ナデ・ケズリ 外面：回転ナデ・ナデ・ 指押さえ・爪状圧痕	

（2）土製品

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	法量（cm）			胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬、内外色調）	色調3（呉須、上絵）	調整	備考
					最大長口径	最大幅器高	厚さ底径						
22	A	SK040	土師質	灯明皿芯押え	(1.6)	2.4	—	良	橙 7.5YR7/6	内外面：透明釉		指押さえ・ナデ	
23	A	SK045	土師質	玩具	1.1	3.2	1.2	良	灰白 2.5Y8/2	内外面：透明釉			キセル雁首
24	A	SK045	土師質	玩具	3.1	1.6	1.0	やや粗	灰白 2.5Y8/2	内外面：透明釉			碗
25	A	SK045	土師質	玩具	(2.7)	(1.2)	—	良	にぶい橙 7.5YR7/3	内外面：透明釉		内外面：回転ナデ	碗？
26	A	SK045	土師質	玩具	6.4	1.2	3.1	やや粗	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3	内面：自然釉付着か？	内面：型押し・ナデ 外面：花柄	内外面：付着物あり
27	A	SK045	土師質	玩具	4.25	3.1	2.8	良	灰白 2.5Y8/2	内外面：透明釉	上掛け釉：緑色	手づくね	ままごと道具？
28	A	SK045	土師質	玩具	(4.9)	3.8	1.4	良	灰 N5/	内外面：にぶい黄橙 10YR7/3		型合せののち 線刻か	観音立像
29	A	SK045	土師質	玩具	(5.85)	(2.8)	(3.3)	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内面：にぶい橙 7.5YR7/4 外面：にぶい黄橙 10yr7/3	キラ粉	型合せ	人形
30	A	SK045	土師質	玩具	(3.1)	(2.4)	(3.7)	良	にぶい黄橙 10YR6/4	内外面：にぶい黄橙 10YR6/4	キラ粉	型合せ	馬
31	A	SK045	土師質	玩具	(5.5)	(4.1)	2.2	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面：にぶい橙 7.5YR7/4		型合せ	犬
32	A	SK045	土師質	玩具	(4.6)	3.3	4.1	やや粗	灰白 10YR8/1	内外面：灰白 10YR8/1		手づくね	人形
33	A	SK045	土師質	玩具	(6.8) (8.45)	(4.9) (8.8)	(4.3) (6.4)	やや粗	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3	キラ粉	型合せ	城
74	A	SK030	土師質	玩具	(3.7)	3.3	1.8	精良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面：にぶい黄橙 10YR7/3		型合せ	巫女
136	A	SK125・130・135 一段下げ	瓦質	不明	2.2	2.8	4.4	良	灰白 5Y7/2	内面：黄灰 2.5Y5/1 外面：黄灰 2.5Y4/1	内外面：回転ナデ		
198	A	SK105	土師質	玩具	(5.8)	(5.8)	(2.6)	やや粗	橙 7.5YR7/6	内外面：橙 7.5YR7/6		型合せ	城
199	A	SK105	土師質	玩具	(4.0)	2.6	1.5	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面：にぶい黄橙 10YR7/3	キラ粉	型合せ	狐？
200	A	SK105	土師質	玩具	(4.3)	1.75	1.95	良	にぶい橙 5YR6/4	内外面：にぶい橙 5YR6/4	キラ粉	型合せ	猫
201	A	SK105	土師質	玩具	(4.75)	(2.7)	2.7	良	にぶい褐 7.5YR5/3	内外面：にぶい褐 7.5YR5/3	キラ粉	型合せ	鷹
202	A	SK105	土師質	玩具	3.5	3.3	1.5	良	灰白 10YR8/1	内外面：灰白 10YR8/1	キラ粉	型合せ	鯛
203	A	SK105	土師質	不明	(4.8)	2.9	1.0	良	橙 5YR7/6	内外面：橙 5YR7/6		型合せ？	
204	A	SK105	土師質	玩具？	(2.25)	(2.25)	(2.8)	良	浅黄橙 7.5YR8/3	内外面：透明釉	緑釉	内外面：回転ナデ 底部：ナデ	
211	A	SK115	土師質	不明	(1.2)	(2.65)	(2.5)	良	にぶい橙 7.5YR7/4				
217	A	SK110	土師質	玩具	(3.2) (3.3)	(3.4) (3.0)	(1.6) (2.3)	良	灰白 2.5Y8/2	内外面：灰白 2.5Y8/2		型合せ	人形
240	A	SK090・095	土師質	玩具	6.6	(4.5)	2.55	良	灰白 10YR8/2	内面：灰白 10YR8/2 外面：浅黄 7.5YR8/3～4		型合せ	天神様orお内裏様
239	A	SK090・095	土師質	土錘	(2.7)	(1.15)	1.1	良	灰白 7.4YR8/2	橙 2.5YR6/6	ナデ		重量：（3.3）g
241	A	SK090・095	土師質	玩具	(3.0)	(4.5)	(1.2)	良	淡橙 5YR8/4	内外面：淡橙 5YR8/4	キラ粉内面：指押さえ	型合せ	鳥
276	A	SK100	土師質	玩具	(3.3)	2.6	(2.3)	精良	灰白 10YR8/2	内外面：透明釉	施釉：緑	手づくね	人形
277	A	SK100	土師質	玩具	(4.7)	(2.8)	(2.3)	良	にぶい黄橙 10YR7/3	内外面：にぶい黄橙 10YR7/3		型合せ	人形
278	A	SK100	土師質	玩具	(5.2)	2.65	1.9	良	にぶい黄橙 10YR7/2	内外面：にぶい黄橙 10YR7/2		型合せ	人形
279	A	SK100	土師質	玩具	(5.1)	4.3	(2.1)	良	橙 5YR6/6	内外面：橙 5YR6/6	キラ粉	型合せ	人形
280	A	SK100	土師質	玩具	(2.6)	(4.6)	(1.5)	良	灰 N5/	内外面：灰黄 2.5Y7/2	キラ粉	型合せ	騎乗の人
281	A	SK100	土師質	玩具	(3.1)	(5.4)	1.1	良	浅黄橙 7.5YR8/3	内外面：浅黄橙 7.5YR8/3	キラ粉	型合せ	馬
282	A	SK100	土師質	玩具	(4.15)	2.6	1.4	精良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3		型合せ	人形
283	A	SK100	土師質	玩具	(3.05)	(3.4)	1.9	精良	明褐灰 7.5YR7/2	内外面：明褐灰 7.5YR7/2	キラ粉	型合せ	機種：不明
287	A	SK220	土師質	玩具	3.6	9.0	2.2	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内面：透明釉・橙 5YR6/8 外面：透明釉	上掛け釉：緑色・白緑色	内面：ケズリ	鐙
302	A	SK185	土師質	玩具	(5.7)	(5.6)	(3.0)	良	にぶい橙 7.5YR7/3	内外面：にぶい橙 7.5YR7/3	キラ粉	型合せ	人形
311	A	SK205	磁器	灯明皿芯押え	(2.7)	1.3	(2.05)	精良	灰白 N8/	内外面：透明釉			
357	A	SK140	土師質	玩具	(2.95)	(4.7)	(4.6)	やや粗	橙 5YR6/6	内外面：橙 5YR6/6		型合せ	人形
358	A	SK140	土師質	玩具	(1.8)	(2.5)	(1.0)	良	灰黄褐 10YR6/2	内面：灰黄褐 10YR6/2 外面：にぶい橙 7.5YR7/3		型合せ	魚の鱗
359	A	SK140	土師質	玩具	(3.5)	(4.3)	2.2	良	灰 N5/	内外面：にぶい黄橙 10YR7/3	赤色顔料付着	型合せと手づくね	人狐
369	A	SK175	土師質	輪の羽口	(3.95)	(2.05)	(5.6)	やや粗	内面：灰 7.5Y4/4 外面：灰 7.5Y6/1			ナデ	
385	A	SK225	土師質	玩具	(3.9)	(3.1)	2.5	良	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面：にぶい橙 7.5YR7/4	キラ粉	型合せ	観音立像
387	A	SP084	土師質	玩具	(4.15)	3.0	2.25	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3	上掛け釉：緑色	手づくね	猿
388	A	SP084	土師質	玩具	6.2	(4.9)	(2.35)	精良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3	キラ粉	型合せ	鶏
389	A	SP033	土師質	玩具	(4.3)	(4.9)	3.4	精良	浅黄橙 7.5YR8/3	内外面：浅黄橙 7.5YR8/3	キラ粉	型合せ	人形
398	A	SP083	土師質	土錘	9.25	6.65	5.25	やや粗	にぶい橙 7.5YR7/4			ナデ・指押さえ	重量：２９８g
422	A	機械掘削	土師質	玩具	2.7	3.8	1.2	良	にぶい橙 5YR7/4	内外面：にぶい橙 5YR7/4	キラ粉	型合せ	狛犬
467	B	SK102	土師質	玩具	7.8	3.25	2.1	精良	灰白 10YR8/1	外面：施釉　明褐 7.5YR5/6	キラ粉	前後型合せ	神抱き
582	B	SK103	土師質	玩具	(5.1)	(3.9)	(3.7)	良	灰白 10YR8/2	内外面：灰白 10YR8/2		内部：指押さえ 外面：ナデ	内部空洞抱き猫の手

番号	地区	出土遺構名	種別	器種名	法量（cm）			胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬，内外色調）	色調3（呉須，上絵）	調整	備考
					最大長 口径	最大幅 器高	厚さ 底径						
587	B	SD105	土師質	不明	6.5	(5.2)	4.4	良	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面：にぶい橙 7.5YR6/4	粘土貼り付け・	ナデ	用途不明
562	B	SD105	土師質	不明	4.0	6.8	4.4	良	にぶい橙 5YR6/4	内外面：にぶい橙 5YR6/4		内面：指押さえ，ナデ 外面：板ナデ	
565	B	SD105	土師質	玩具	(2.8)	(5.1)	(2.2)	良	にぶい橙 7.5YR6/4	内外面：にぶい橙 7.5YR6/4		型合せ	牛
566	B	SD105	土師質	玩具	5.5	2.5	2.0	良	淡黄 2.5Y8/3	透明釉		型合せ	鼓の楽士
567	B	SD105	土師質	玩具	(3.45)	(2.55)	(2.15)	良	橙 5YR7/6	内外面：橙 5YR7/6	キラ粉	型合せ	人形
568	B	SD105	土師質	玩具	(2.3)	(2.0)	(0.9)	良	橙 5YR7/6	内外面：橙 5YR7/6	キラ粉	型合せ	人形
610	B	SD105	土師質	脚部	(7.1)	(4.8)	(3.5)	良	にぶい褐 7.5YR6/3	内面：にぶい褐 7.5YR6/3 外面にぶい橙 7.5YR6/3		ナデ	
613	B	SD105	土師質	玩具	(4.5)	(4.0)	(1.6)	良	淡橙 5YR8/4	内外面：淡橙 5YR8/4		内面：指押さえ 外面：型抜き	
614	B	SD105	土師質	玩具	(3.85)	(4.2)	4.2	良	浅黄橙 7.5YR8/3	内面：浅黄橙 7.5YR8/3 外面：透明釉，一部に素地残る	羽部分：明緑色釉	型合せ	鳩
615	B	SD105	土師質	玩具	—	(2.8)	—	良	浅黄橙 7.5YR8/3	内面：透明釉 外面：浅黄橙 7.5YR8/3		回転ナデ ナデ	把手菊花紋あり
616	B	SD105	土師質	玩具	(3.7)	(2.9)	(2.7)	良	橙 5YR7/6	内外面：橙 5YR7/6		型合せ	城
617	B	SD105	土師質	玩具	(4.55)	(4.7)	(2.55)	粗	にぶい橙 7.5YR7/4	内外面：にぶい橙 7.5YR7/4		型合せ	城
624	B	SK102周辺 一段下げ（南側）	土師質	土錘	(3.8)	1.2	1.1	良	灰白 10YR8/2	内外面：灰白 10YR8/2		ナデ	重量：（3.9）g
623	B	遺構検出など	土師質	玩具	2.5	2.6	1.6	良	浅黄橙 10YR8/3	内外面：浅黄橙 10YR8/3	キラ粉	ナデ	コマ
659	C	SK209	土師質	玩具	(3.6)	(4.7)	3.9	良	にぶい橙 7.5YR7/3	内外面：にぶい橙 7.5YR7/3	キラ粉	型合せ	鳥
663	C	SK211	土師質	玩具	(3.3)	3.3	3.5	良	淡黄 2.5Y8/3	透明釉	上掛け釉：暗オリーブ 7.5Y4/3	手づくね	猿
677	C	SK218	土師質	玩具	(5.4)	(3.4)	(3.5)	良	灰白 N8/	透明釉	上掛け釉：緑色・鉄釉	型合せと手づくね	奴？
702	C	SK225	土師質	玩具	(4.0)	(3.4)	—	精良	淡橙 5YR8/4	内外面：淡橙 5YR8/4	キラ粉	内面：指押さえ	不明
703	C	SK225	土師質	玩具	(6.9)	(7.55)	—	精良	にぶい褐 7.5YR6/3	内外面：にぶい褐 7.5YR6/3		内面：指押さえ	不明
711	C	遺構検出	土師質	玩具	(4.85)	(4.2)	(0.8)	精良	淡橙 5YR8/3	内外面：淡橙 5YR8/3	キラ粉	型合せ 内面：指押さえ	魚
726	C	東　一段下げ	土師質	土錘	(5.0)	1.25	1.3	良	褐灰 7.5YR5/1			ナデ	重量：（7.5）g

（3）石製品

番号	地区	出土遺構名	機種名	法量				石材	備考
				最大長（cm）	最大幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）		
65	A	SK45	砥石	(5.3)	(3.2)	(1.2)	9.9	流紋岩	
197	A	SK105	砥石	(9.5)	6.65	1.7	141.2	片岩	
285	A	SK100	硯	(4.05)	3.25	0.8	12.1	片岩	
423	A	機械掘削	砥石	(3.9)	5.1	0.8	18.7	流紋岩	
581	B	SK103	砥石	(11.5)	(2.7)	(1.3)	(66.3)	片岩	砥面２面
730	B	SK102/103	硯	10.85	7.55	2.95	802.0	粘板岩	
646	C	SK217	硯	(4.25)	3.4	0.6	16.4	片岩	表面：穿孔あり 裏面：線刻あり
678	C	SK218	硯	(4.1)	7.75	2.5	64.5	片岩	海部に墨残存
712	C	遺構検出時	タイル	2.5	2.5	0.5	5.6	花崗岩？	
729	C	東　一段下げ	石板	4.9	2.2	0.5	11.9	片岩？	付着物あり

（4）瓦

番号	地区	出土遺構名	機種名	法量（cm）			色調	胎土	調整	備考
				最大長	最大幅	厚さ				
96	A	SK045	軒丸瓦	13.2	(7.5)	1.6	黄灰 2.5Y6/1	良		
98	A	SK045	丸瓦	(15.9)	12.2	1.9	灰白 7.5Y7/1	良	凸面：ミガキ 凹面：布目・コビキB	
97	A	SK045	軒丸瓦	(14.8) (7.1)	12.45 (13.1)	1.6 1.6	灰白 N7/	良	凸面：摩滅 凹面：コビキB，タタキ	巴紋
99	A	SK045	平瓦	13.1	21.2	1.4	灰 N5/	精良	ナデ	
100	A	SK045	平瓦	(17.5)	(11.0)	1.6	灰 N7/	良	ナデ	
101	A	SK125	丸瓦	(16.9)	(9.2)	1.8	灰 N5/	良	凸面：ナデ 凹面：コビキB・布目	
102	A	SK125	平瓦	(19.4)	(13.8)	1.5	灰 N5/	良	ナデ，ケズリ	
103	A	SK105	平瓦	(8.8)	25.0	1.5	灰白 7.5Y7/1	良	表面：ナデ 裏面：コビキB	
326	A	SK160	丸瓦	(14.0)	(8.2)	1.6	灰白 N8/	良	凹面：布目	
327	A	SK185	平瓦	(15.0)	(10.4)	1.5	灰 N6/	良	表面：ナデ 裏面：コビキB	
328	A	SK205	平瓦	(9.9)	24.5	1.1	灰白 7.5Y8/1	精良	表面：ナデ 裏面：コビキB	
329	A	SK140	平瓦	23.7	21.0	1.4	灰 N4/	良	表面：ナデ 裏面：コビキB	
588	B	SK103	軒丸瓦	(7.0)	(11.7)	1.0	灰 N4/	良	凹面：布目	
589	B	SK103	軒丸瓦	6.8	9.4	1.0	灰 N4/	良		
591	B	SD105	軒平瓦	4.1	9.3	2.1	黄灰 2.5Y6/1	良		被熱
592	B	SD105	軒平瓦	3.5	(15.5)	1.3	暗灰 N3/	良		
593	B	西側表面精査	軒丸瓦	12.2	12.4	1.5	灰白 N7/	精良	凸面：ナデ 凹面：コビキB，タタキ	
594	B	SK102	丸瓦	(11.9)	(11.9)	2.1	灰白 N7/	良	凹面：布目，タタキ	
595	B	SK103	丸瓦	(20.5)	11.8	1.4	灰白 N7/	精良	凸面：ナデ 凹面：コビキB，タタキ	
590	B	SD105	軒丸瓦	7.5	7.4	1.3	灰 N5/	良		
647	C	SK217	丸瓦	(14.0)	12.0	1.5	灰白 N7/	精良	凸面：ナデ 凹面：コビキB，ナデ	
648	C	SK217	桟瓦	(13.5)	(9.8)	1.6	灰 N6/	良	ナデ	
649	C	SK217	平瓦	(20.0)	25.0	1.4	灰白 N7/	精良	ナデ	
650	C	SK217	平瓦	(22.3)	(22.3)	2.0	灰白 5Y7/1	良	ナデ	
651	C	SK217	鯱？	(7.4)	(4.4)	－	青灰 5PB5/1	良	内面：指押さえ	
652	C	SK217	留蓋？	(14.6)	(15.2)	2.4	灰白 N7/	良	外面：ナデ 内面：指押さえ	
683	C	SK224	軒丸瓦	(12.5)	(9.3)	1.4	灰白 N7/	良	凹面：コビキ B	
684	C	SK210	軒丸瓦	7.2	13.0	1.0	灰 N6/	良		巴紋
685	C	SK210	軒丸瓦	7.1	14.0	1.7	灰白 7.5Y8/1	良		巴紋
686	C	SK210	軒瓦	(13.0)	18.2	1.6	灰 N4/	良	表面：ナデ・ケズリ 裏面：ナデ	
687	C	SK210	丸瓦	(15.7)	11.9	1.5	灰白 N7/	精良	凸面：ナデ・ミガキ 凹面：布目	
688	C	SK210	平瓦	25.6	(14.0)	1.8	灰 N5/	良	表面：板削り 裏面：ナデ	
689	C	遺構検出時	鬼瓦？	(10.2)	(8.1)	4.7	灰 N5/	粗	表面：ナデ・ケズリ 裏面：カキダシ	
690	C	遺構検出時	棟瓦	(11.9)	(9.0)	1.7	灰白 10YR8/2	良	『飯田』押印あり	
691	C	SK210から東を一段下げ	軒丸瓦	(10.2)	12.4	1.3	灰 N4/	良		巴紋
692	C	一段下げ	軒丸瓦	(6.5)	(11.5)	1.5	灰白 N8/	良		巴紋
740	A	SK105	軒丸瓦	(7.0)	(10.7)	2.0	灰 N5/	良		巴紋
741	A	SK045	軒平瓦	(9.1)	(12.2)	1.6	にぶい黄橙 10YR7/2	良	凸凹面：ナデ	焼成不良
742	A	SK090・095	軒平瓦	(5.1)	(10.2)	1.5	灰白 N7/	良	凸凹面：ナデ	
743	A	SK140	軒平瓦	(7.9)	(13.8)	1.7	灰 N5/	精良		
744	B	SK102	軒丸瓦	(12.4)	(7.0)	1.8	灰 N5/	良		巴紋
745	B	SK102/103	軒丸瓦	(7.0)	(8.6)	1.8	灰白 N7/	良		巴紋
746	B	SK103	軒丸瓦	(8.2)	(7.5)	1.7	灰白 7.5Y6/1	精良		巴紋
747	B	SK102	軒平瓦	(10.2)	(14.0)	1.6	灰白 N7/	良	凸凹面：ナデ	
748	B	SK102	軒平瓦	(5.6)	(12.2)	1.6	灰 N5/	良	凸凹面：ナデ	
749	C	SK217	軒平瓦	(12.6)	(9.8)	1.7	灰 N5/	良	凸面：ナデ 凹面：コビキA	
750	C	SK210から東を一段下げ	軒平瓦	(4.5)	(9.5)	—	灰 N5/	良		
751	C	SK210	軒丸瓦	(8.0)	(11.3)	2.9	灰 N5/	良		巴紋
752	C	SK209	軒丸瓦	(6.5)	(5.9)	1.4	灰白 7.5Y7/1	良		巴紋
753	C	一段下げ	軒丸瓦	(6.5)	(9.0)	1.8	灰白 7.5Y7/1	精良		巴紋

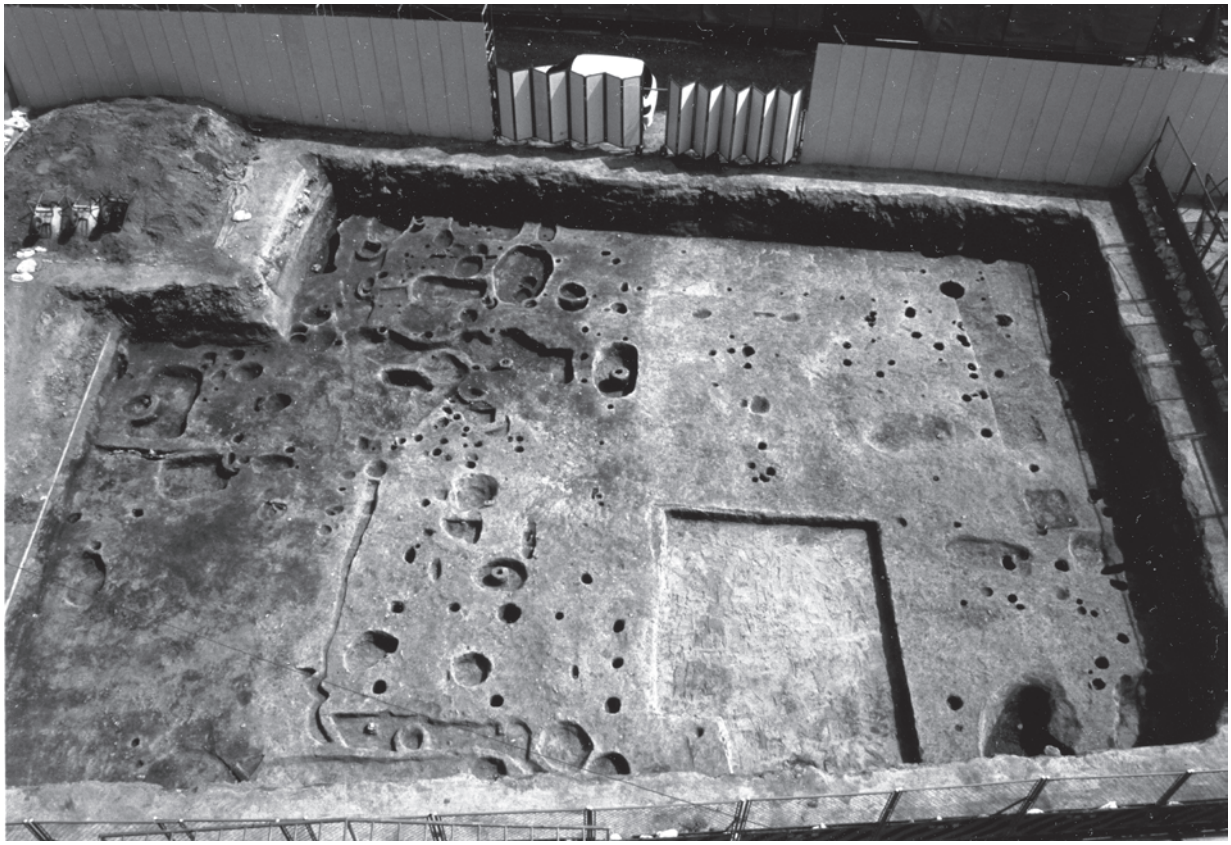
（5）金属製品

番号	地区	出土遺構名	機種名	法量（cm）			素材	備考
				最大長	最大幅	厚さ		
64	A	SK045	不明 （金具？）	3.5	3.6	0.8	鉄	軸芯２本
75	A	SK030	簪	(13.6)	1.4	0.15	銅	
81	A	SK025	煙管 （吸い口）	(4.3)	0.8	0.8	銅	
138	A	SK125	銭	2.6	2.5	0.1	銅	寛永通宝，「文」銭
139	A	SK125	銭	2.5	2.5	0.1	銅	寛永通宝，「文」銭
140	A	SK125・130・135 一段下げ	千枚通し？	8.4	0.9	0.7	鉄	木質あり
184	A	SK105	不明	8.1	3.2	1.35	不明	芯材を帯状の 薄板金属で束ねる
242	A	SK090・095	飾り金具	(6.7)	(6.7)	0.05	銅	唐草文様。タタキ
284	A	SK100	角釘	6.0	0.5	0.5	鉄	
386	A	SK225	角釘	3.7	0.7	0.4	鉄	
421	A	機械掘削	角釘	4.2	1.6	1.6	鉄	
578	B	SK103	不明	4.5	3.3	0.4	鉄	
563	B	西側一段下げ	金具	4.0	3.6	1.1	鉄	
564	B	西側一段下げ	刀小	8.6	1.9	0.7	鉄	
625	B	西側表面精査	角釘	9.9	0.9	0.8	鉄	
626	B	東側掘削時	不明	11.3	1.0	0.7	鉄	
732	B	SK102	角釘	4.7	0.9	0.7	鉄	
734	B	SK102	鎌	(8.3)	2.5	0.5	鉄	
668	C	SK210	笄？	12.0	0.4	0.4	銅	
713	C	南壁	銭	2.1	2.0	0.1	銅	寛永通宝（新寛永）
727	C	一段下げ	角釘	5.8	0.9	0.8	鉄	
728	C	SK210から東を 一段下げ	角釘	8.1	0.8	0.5	鉄	先端部折れ上がる
731	A	SK225	釘？	10.6	0.5	0.4	鉄	
733	A	SK225	釘？	7.1	0.9	0.4	鉄	
735	A	SK090・095	針金	—	—	—	銅	
736	B	SK103	針金	—	—	—	銅	
737	A	SK045	針金	—	—	—	銅	
738	A	SK105	鉄さい	7.2	7.0	2.1	鉄	
739	C	一段下げ 遺構検出	不明	6.2	(6.9)	0.5	鉄	

（3）骨角器

番号	地区	出土遺構名	機種名	法量（cm）			備考
				最大長	最大幅	厚さ	
141	A	SK125	笄？	(6.5)	1.0	0.4	穿孔1箇所・文様彫刻
716	C	－	不明	(12.0)	(2.7)	(0.6)	穿孔４箇所
717	C	－	不明	(2.4)	(2.7)	(1.25)	

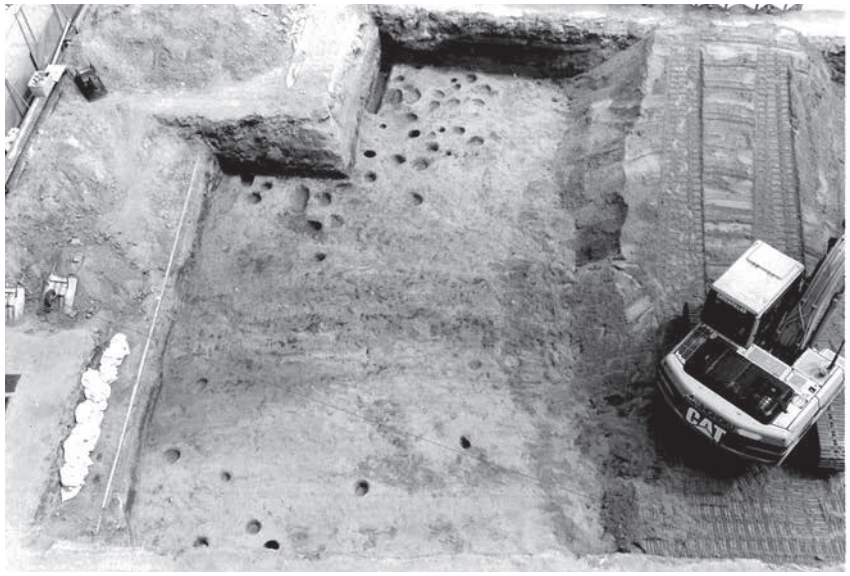
写　真　図　版



1　A区第1遺構面全景（北から）

2　A区と新校舎および旧校舎（東から）

3　C区と旧校舎（南西から）



1 A区第2遺構面 東側 全景（北から）

2 A区第2遺構面 西側 全景（北から）

3 B区柱穴列 検出状況（東から）

4 B区柱穴列 完掘状況

1　A区南東隅 土坑 完掘状況（東から）

2　A区東側 土坑 完掘状況（南から）

3　A区西側 柱穴群（南から）

4　A区南側 柱穴群（西から）

1　A 区北壁土層①（南から）

2　A 区南東土層（北から）

3　A 区北壁土層②（南から）

4　A 区西壁土層（東から）

1 ASX200 周辺①（東から）

2 ASX200 周辺②（南から）

3 A 区東側 柱穴群（北から）

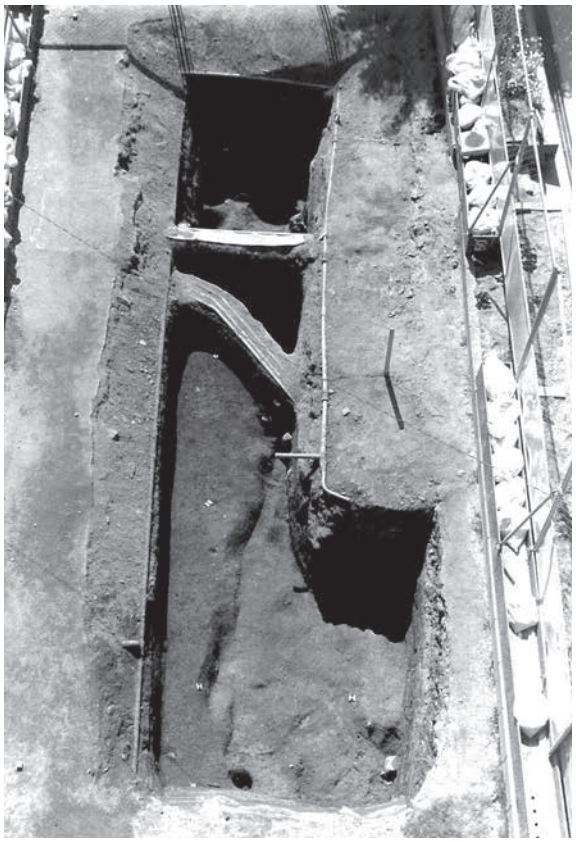
4 ASD215（東から）

1 BSK102・103 土層（南から）

2 BSD105 土層（西から）

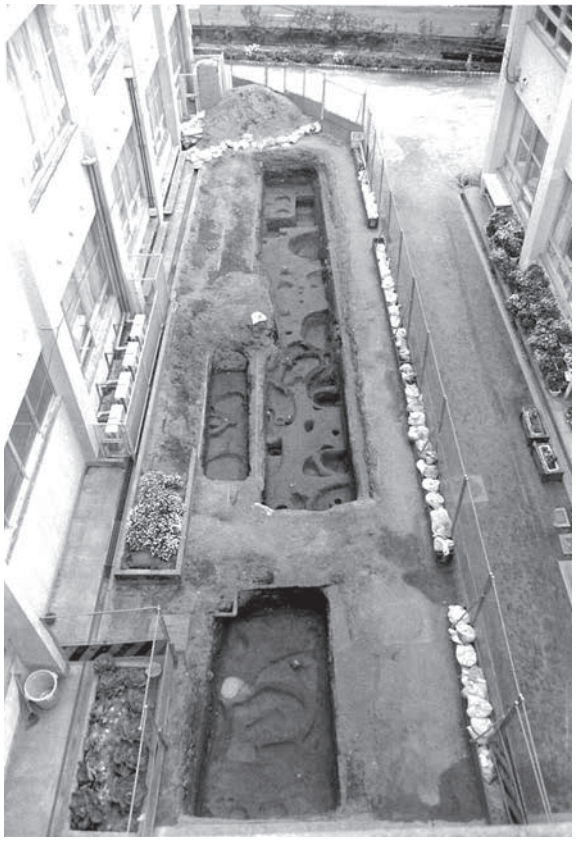
3 BSK102・103（南から）

BSK102・103 周辺（北から）

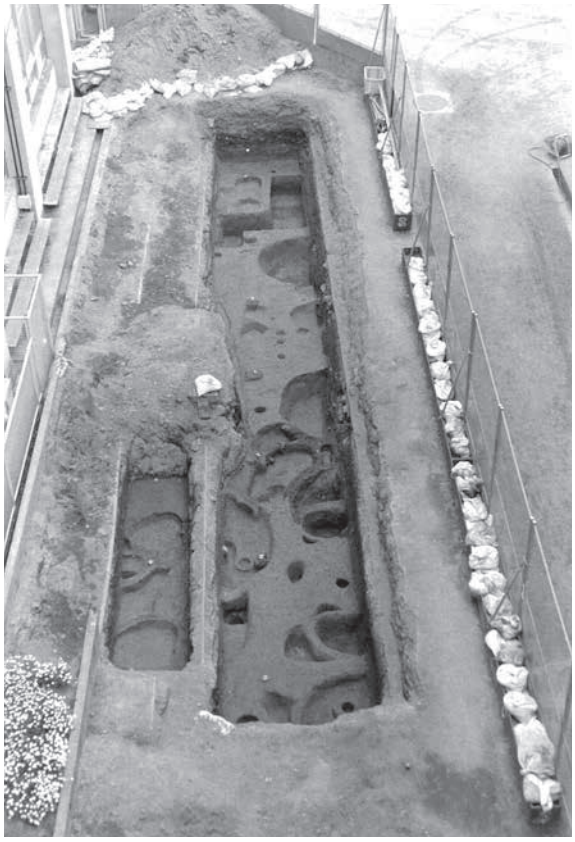


1 B区 全景（東から）

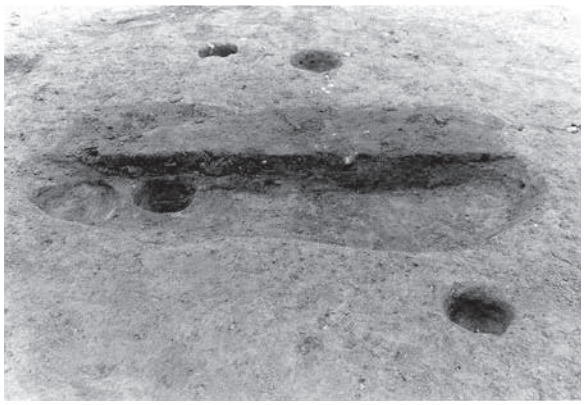
2 C区 掘削状況



3 C区 全景①（西から）



4 C区 全景②（西から）



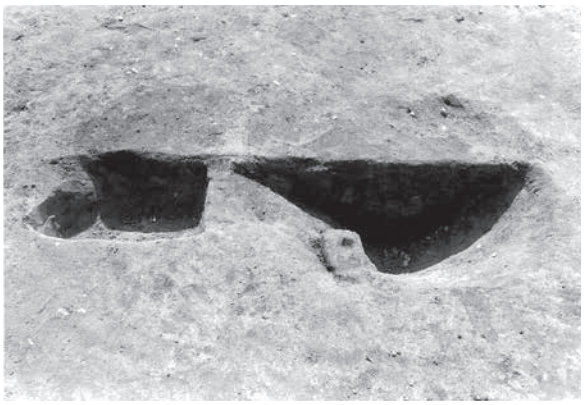
1 ASK025 半截状況（南から）

2 ASK040 半截状況（東から）

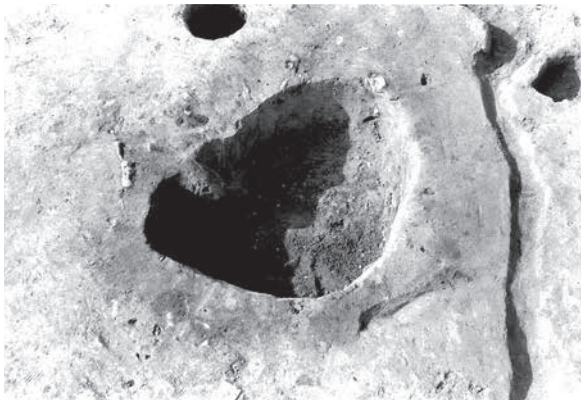
3 ASK045（南から）

4 ASK045 半截状況（東から）

5 ASK050（西から）



6 ASK055・060 半截状況（西から）

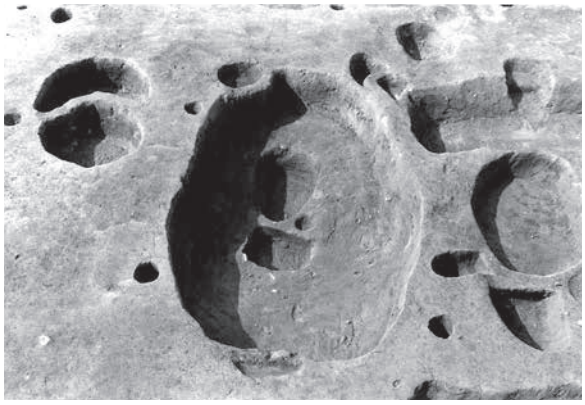


7 ASK070（南から）

8 ASK080 半截状況（南から）

1 ASK085 半截状況（北から）

2 ASK090（西から）


3 ASK0105（南から）

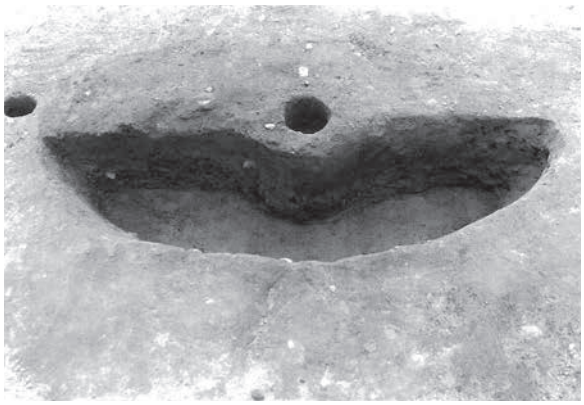
4 ASK105 半截状況（西から）

5 ASK110・115 半截状況（西から）

6 ASK120 半截状況（西から）

7 ASK140（東から）

8 ASK140 半截状況（西から）


1 ASK145 半截状況（東から）

2 ASK150 半截状況（東から）

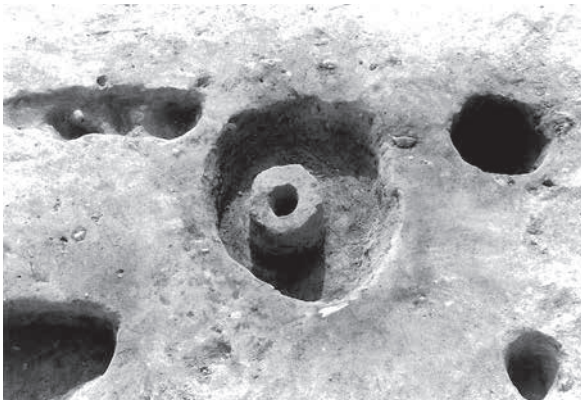
3 ASK155（北から）

4 ASK160・170・175・225（南から）

5 ASK160 半截状況（西から）

6 ASK170 半截状況（西から）

7 ASK175 半截状況（北から）


8 ASK185（東から）

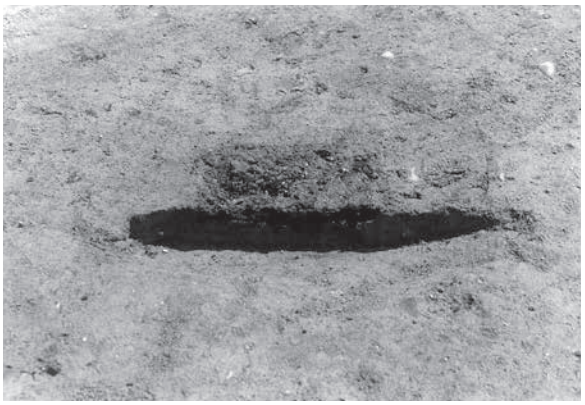
1 ASK185 半截状況（東から）

2 ASK205 半截状況（南から）

3 ASX200 ①土層（西から）

4 ASX200 ②土層（北から）

5 ASK065（北から）

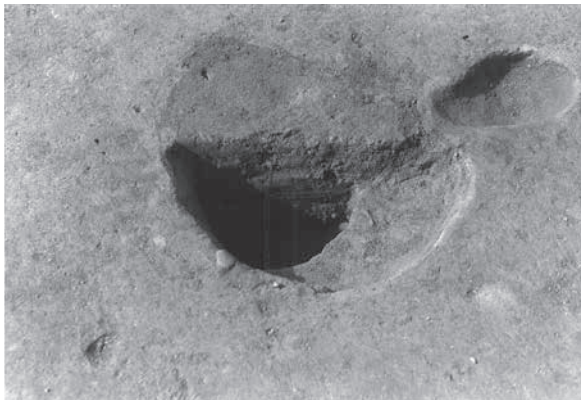


6 ASP002 半截状況（北から）

7 ASP051 半截状況（北から）

1 ASP039（西から）

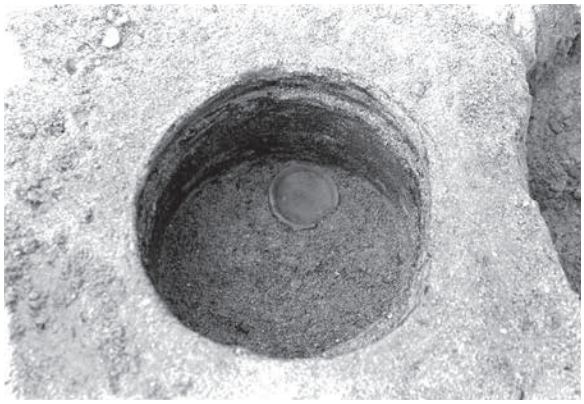
2 ASP041・042 半截状況（東から）


3 ASP043 半截状況

4 ASP318 検出状況（西から）

5 ASP318 半截状況（南から）

6 ASP318 完掘状況（南から）


7 ASP318 曲物・土器出土状況（南から）

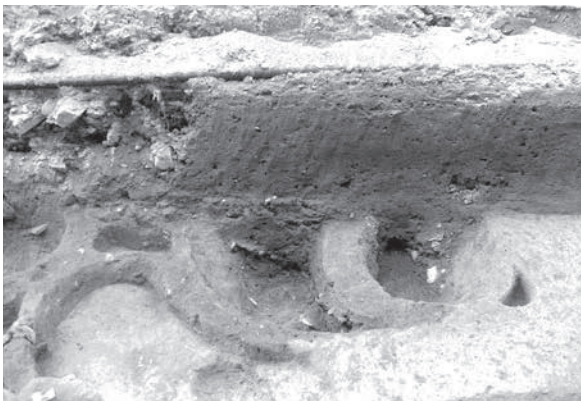
8 BSP113（北から）

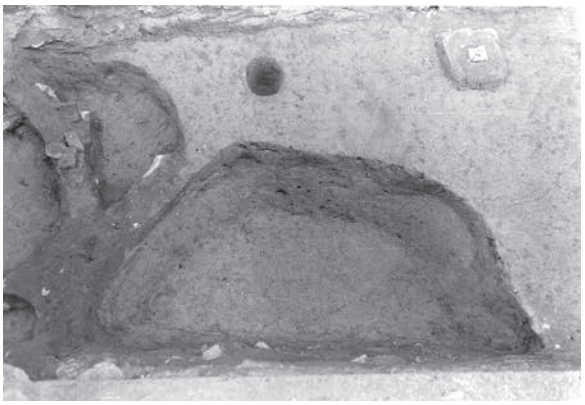
1 BSP114（北から）

2 CSK209（南から）

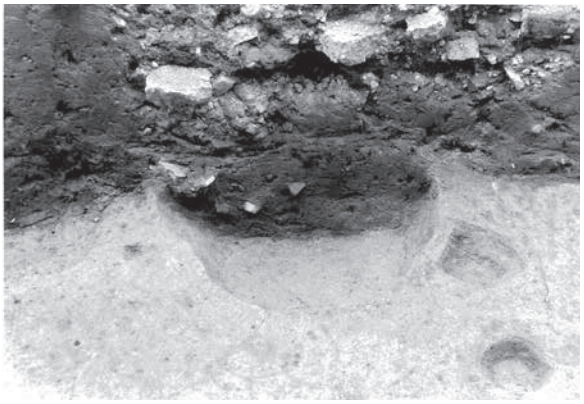
3 CSK210・218 周辺（南から）

4 CSK209 土層（北から）


5 CSK210・218（北から）


6 CSK217（南から）

7 CSK226（南から）


8 CSK225（北から）

1 A区 SK045

2 A区 SK040

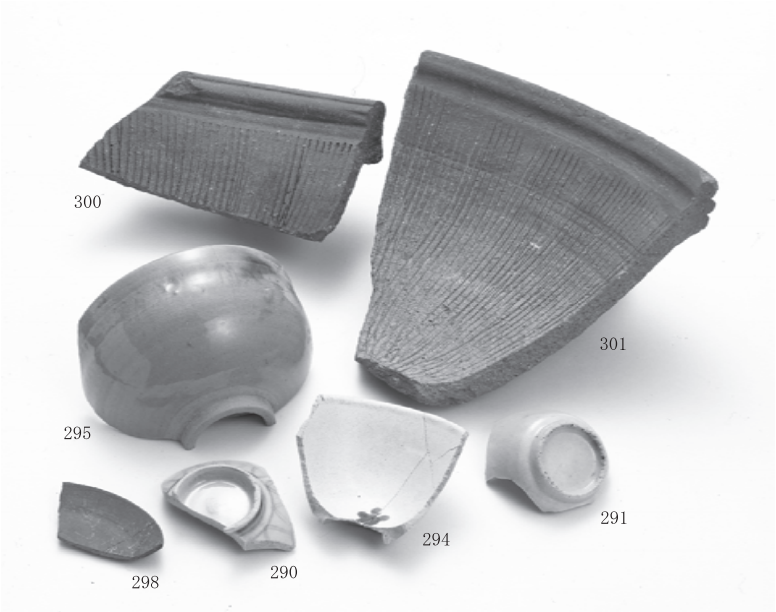
3 A区 SK140

4 A区 SK105

1　A 区 SK90・95

2　A 区 SK100

3　A 区 SK90・95
A 区 SK125



4　A 区 SK185

1　B 区 SK103

2　B 区 SK102

3　C 区 SK217

1　A 区 SK025

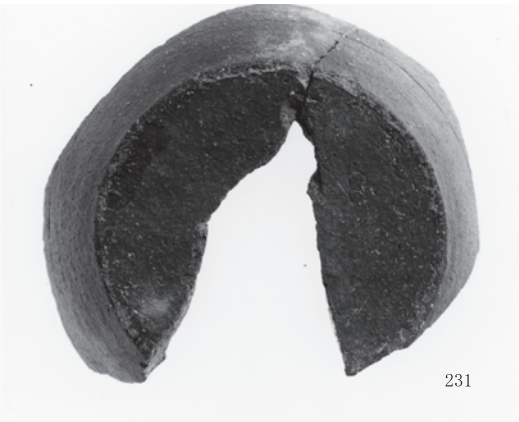
2　A 区 SK125・130・135 一段下げ

3　A 区 SK140

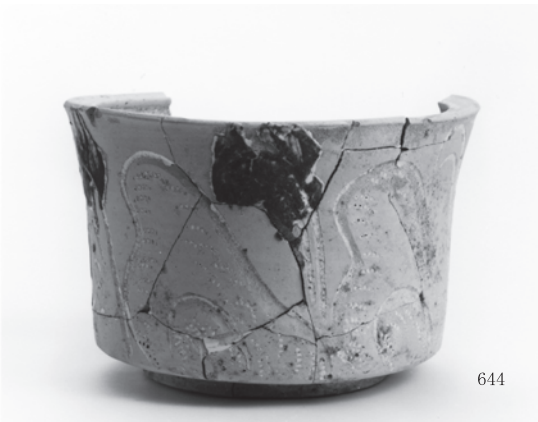
4　C 区 SK219

5　A 区 SK170

6　C 区 SK225



7　A 区 SK90・95



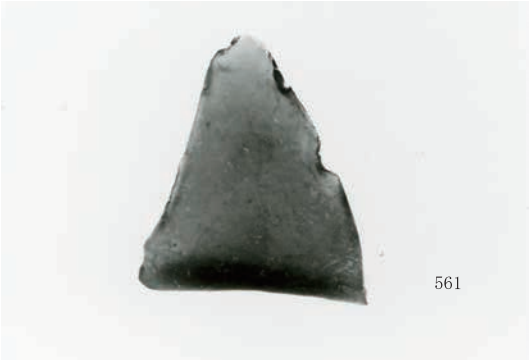
8　C 区 SK217

1　A 区 SK170

3　A 区 SK225

5　A 区 SK155

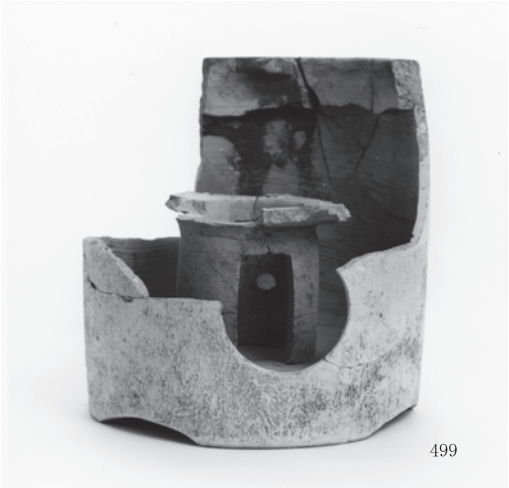
6　B 区遺構検出時



8　B 区西側段下げ時

2　B 区 SK102・103

4　B 区 SK102・103



7　B 区 SK102・103

9　A 区 045

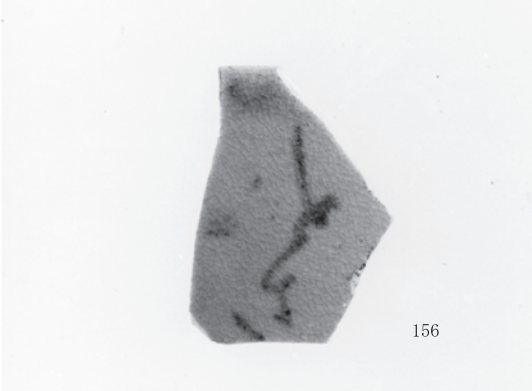
1　A 区 SP318

4　A 区 SK100

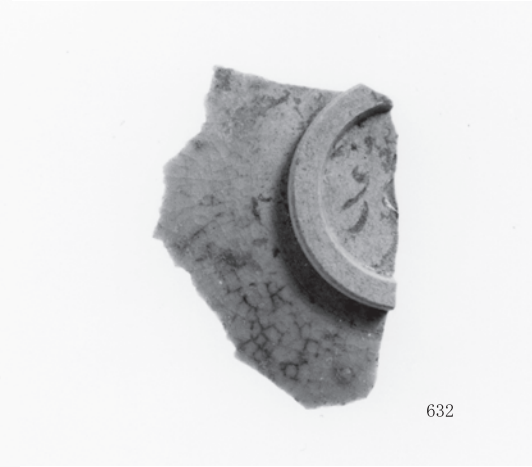
6　A 区 SK205

2　A 区 SK030

3　A 区 SK125・130・135



5　A 区 SK102



7　C 区 SK217

1　A 区瓦

2　C 区瓦

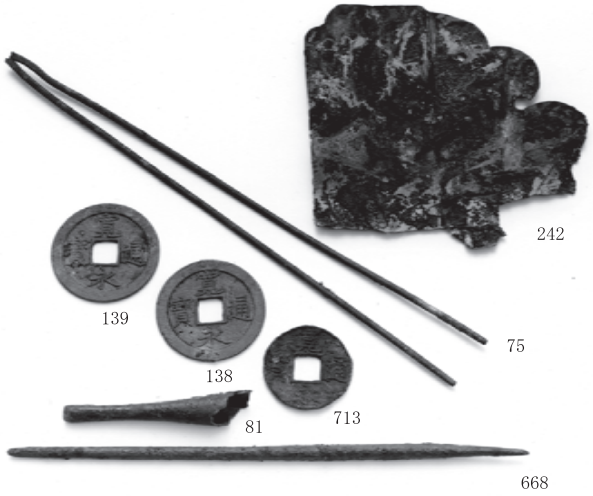
3　B 区瓦

1　A 区玩具（動物）

2　A 区玩具（人形）

1　B 区玩具

2　C 区玩具



1　青銅製品

3　鉄製品，針金

2　鉄製釘

4　骨角器

1　A 区玩具

2　石製品

3　土製品

報　告　書　抄　録

ふりがな	しんせつとうごうだいにしょうがっこうけんせつじぎょうにともなうまいぞうぶんかざいはっくつちょうさほうこくしょ　にばんちょうしょうがっこういせき
書名	新設統合第二小学校建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　二番丁小学校遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第 132 集
編著者名	渡邊　誠・船築紀子
編集機関	高松市教育委員会
所在地	〒760－8571　香川県高松市番町一丁目 8 番 15 号　TEL087－839－2660
発行年月日	西暦 2011 年 3 月 31 日

ふりがな 所収遺跡名	しょざいち 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
にばんちょうしょうがっこういせき 二番丁小学校遺跡	かがわけん 香川県 たかまつし 高松市 にしきまちにちょうめ 錦町二丁目	37201		34° 20′ 45″	134° 02′ 26″	2009.5.1 ～ 2009.6.30	467 ㎡	新設統合第二小学校建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
二番丁小学校遺跡	集　落	弥生～室町時代 江戸時代	土坑 建物遺構 土坑 区画施設	弥生土器，土師質土器， 陶磁器，瓦，土製品， 石製品，金属製品， 骨角器	

要　約	絵図に描かれている江戸時代における家臣の屋敷地の調査結果であり，屋敷地の区割りや空間利用の状況が明らかとなった。 出土遺物は多くの土製の玩具が出土し，その中には天守閣を模したものなども数点出土し，当時の生活の一端を垣間見ることができる資料を得ることができた。

2011 年 3 月 31 日　印刷
2011 年 3 月 31 日　発行

高松市埋蔵文化財調査報告第 132 集
新設統合第二小学校建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
二番丁小学校遺跡

発　行　者　　高松市番町一丁目８番 15 号
高松市教育委員会
印　刷　者　　高松市観光通２丁目３番７号
（有）若葉プリント